

長瀨町小中一貫教育検討委員会

報告書 資料（答申）

令和8年2月

長瀨町小中一貫教育検討委員会

目 次

1. はじめに	1
2. これまでの取り組み	2
3. 学校施設を取り巻く状況	3
(1) 児童生徒数の推移状況	3
(2) 将来の児童生徒の推移予測	3
(3) 学校施設の今後の維持・更新コスト	4
4. 学校施設の状況	5
(1) 学校施設の整備状況	5
(2) 学校施設の劣化状況	6
5. 教育環境における教職員の意見	14
(1) 長瀬第一小学校教職員の意見	14
(2) 長瀬中学校教職員の意見	15
6. 小中一貫教育についてのアンケート	17
7. 小中一貫教育検討に係るワークショップ	29
(1) ワークショップの目的	29
(2) 学校施設整備（案）に向けた前提条件	29
(3) ワークショップの主な内容	31
8. 学校施設整備の検討	37
(1) コンセプト	37
(2) 設計（案）	39
(3) 設計（案）における課題	45
(4) 学校施設整備（案）におけるタイムスケジュールの検討	46
9. 小中一貫教育の方向性	47
(1) 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の特徴	47
(2) 第2回検討員会における小中一貫教育に向けた意見	48
(3) 検討委員会からの提言	49
10. 長瀬町小中一貫教育に係る研修会の開催	50
11. 坂戸市と日高市への学校視察の実施	56
12. 小中一貫教育に係るワーキンググループの開催	63
(1) ワーキンググループ メンバーの意見	63
(2) ワーキンググループ グループ発表	67

13. 小中一貫教育に係るワーキンググループの開催	69
(1) ワーキンググループの開催	69
(2) 経緯・経過の説明	69
(3) ワーキンググループ グループ発表	72
(4) 長瀬町の小中一貫校の設置形態、教育形態について	73
(5) 長瀬町における小中一貫教育について	74
14. 参考資料	75
(1) 長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例・委員名簿	75
(2) 長瀬町小中一貫教育検討委員会	79
(3) 小中一貫教育についてのアンケート	153
(4) 小中一貫教育に係るワークショップ	162

1.はじめに

長瀨町における小中学校のあり方については、令和2年7月に設置された「長瀨町学校のあり方検討委員会」において約2年にわたり協議を重ね、小中一貫教育の導入及び早期の小学校の統合を提言する旨の答申が町に行われました。

この答申を受けて令和4年6月に策定された「長瀨町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画」では、「小学校は、今後もさらに小規模化が進むことが見込まれるため統合する。中学校は、単学級になる時期を念頭におき、学校運営に影響が出ないよう、小中一貫校の設置に向けて、建物の老朽化に伴う校舎等の建替時期も勘案し、統合時期を検討していくこと」を基本的な考え方とし、前期計画（令和4年度・5年度）では、長瀨第二小学校における複式学級解消と一定規模の児童集団の確保を目的に長瀨第一小学校と長瀨第二小学校を統合すること、後期計画（令和6年度～13年度）では、児童生徒数の減少による単級化に対応するため、小規模校である小学校と中学校を一体的に配置するなど、小中一貫教育に向けた施設の検討を行うこととされました。

令和4年度・5年度につきましては、前期計画に基づき、「長瀨町学校統合準備委員会」が設置され、小学校の統合について検討を重ね、令和6年4月に小学校が統合されました。

昨年度、後期計画に基づき、長瀨町の地域性及び特性に即した魅力ある小中一貫教育の実現に向けて幅広い見地から検討を行うため、「長瀨町小中一貫教育検討委員会」を設置し、小中一貫教育校の施設及び整備等に関することや、その他小中一貫教育の推進に関することについて検討を行いました。

今年度、さらにこれまで出された意見も踏まえて、小中一貫校の施設及び整備等に伴った一貫校にふさわしい特色ある教育内容等について検討を行いました。

このような検討課題を含め、教育委員会からの諮問に対し、小中一貫教育校の施設及び整備等に関すること、その他小中一貫教育の推進に関することについて、検討委員会で様々な意見を出し合いながら検討を進め、検討結果を答申として報告するものです。

2. これまでの取り組み

令和2（2020）年3月に策定した長瀬町公共施設長寿命化計画において、学校施設の長寿命化に向けたロードマップを作成し、同年7月に長瀬町学校のあり方検討委員会設置しました。その後、令和4（2022）年6月に長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画を策定し、長瀬第一小学校と長瀬第二小学校の統合、小中一貫教育に向けた施設の検討を位置付け、令和6（2024）年4月には、長瀬第一小学校に長瀬第二小学校を統合し、長瀬町小中一貫教育検討委員会を設置しました。

図表：これまでの取り組み

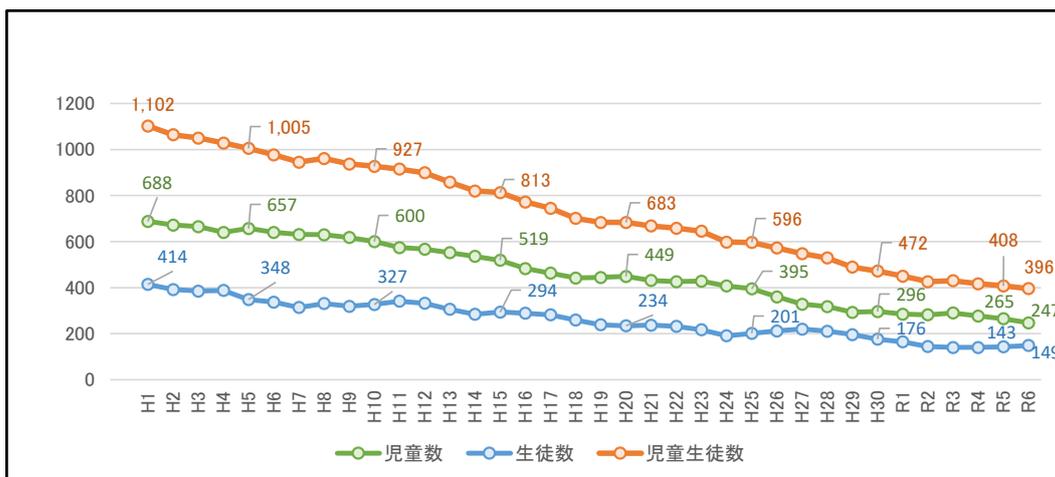
年月	内容
令和2年3月	長瀬町公共施設長寿命化計画（総合管理計画）策定 ・ 学校施設の劣化状況評価を実施 ・ 学校施設の長寿命化に向けたロードマップを作成
令和2年7月	長瀬町学校のあり方検討委員会設置
令和3年2～6月	学校教育についてアンケートを実施 ・ 保護者（子どもが町内の小中学校、保育園、認定こども園に通う）及び町民を対象
令和4年6月	長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画策定 ・ 長瀬第一小学校と長瀬第二小学校の統合 ・ 小中一貫教育に向けた施設の検討
令和6年4月	・ 長瀬町公共施設劣化状況調査・耐力度調査を実施 ・ 長瀬第一小学校に長瀬第二小学校を統合 ・ 長瀬町小中一貫教育検討委員会設置
6月	・ 第1回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
7月～8月	・ 保護者及び地域住民を対象としたアンケート調査を実施
8月	・ 学校施設の劣化状況調査を実施 ・ 第2回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
9月	・ 第1回小中一貫教育検討に係るワークショップの開催
12月	・ 第2回小中一貫教育検討に係るワークショップの開催
令和7年1月	・ 第3回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
2月	・ 第4回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
3月	・ 小中一貫教育に係る研修会の開催
5月	・ 坂戸市と日高市への学校視察を実施
6月	・ 第5回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
8月	・ 第6回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
11月	・ 第7回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催
令和8年2月	・ 第8回長瀬町小中一貫教育検討委員会の開催

3. 学校施設を取り巻く状況

(1) 児童生徒数の推移状況

これまでの児童生徒数の推移状況を見ると、35年前の平成元（1989）年の児童生徒数は1,102人から年々減少し、平成10（1998）年では927人、平成20（2008）年では683人、平成30（2018）年では472人となり、令和5（2023）年には408人と、平成元年の児童生徒数と比べて4割程度まで減少しています。このままのペースで減少していくと、令和9（2027）年には小学校が、令和12（2030）年には中学校を含めたすべての学年が単一学級（学年1クラス）になると予想されています。

図表：児童生徒数の推移状況



(2) 将来の児童生徒の推移予測

年々、児童生徒数が減少していくなかで、将来必要な学校施設規模を把握するため、今後30年間の児童生徒数を推計しました。

令和2年3月の住民基本台帳（6歳から14歳）を基に試算した結果、令和32（2050）年の児童生徒数は279人との結果となり、令和2年の児童生徒数と比較して約6割程度まで減少すると想定されます。

図表：児童生徒の推移予測



令和2年3月の住民基本台帳を基にコーホート要因法による推計

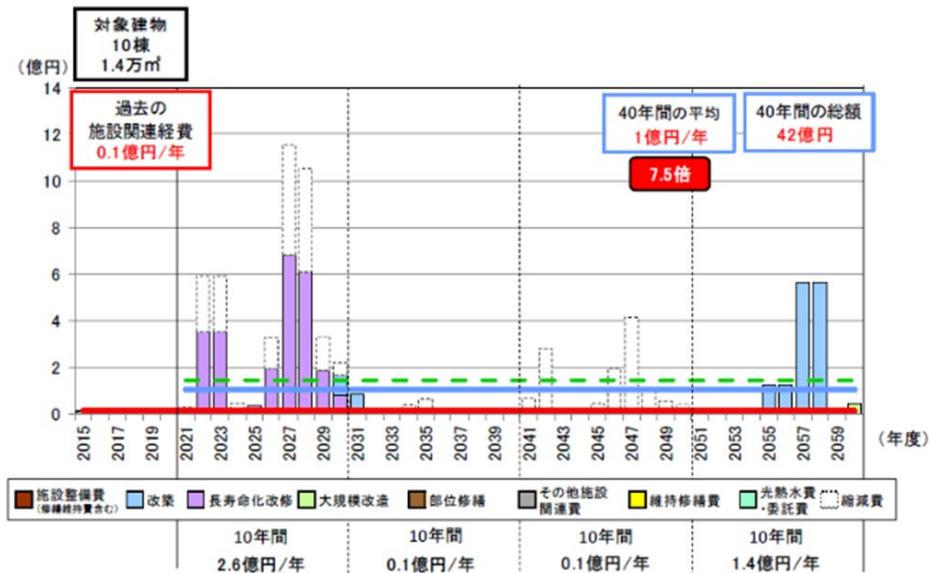
(3) 学校施設の今後の維持・更新コスト

長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月策定）によると、現在の学校施設をそのまま維持・更新する場合、今後40年間で総額42億円、年平均で約1億円の経費が必要と試算されました。

また、同計画における今後の10年間の維持管理計画を示したロードマップでは、令和2（2020）年からの10年間で修繕・改修工事等に約19億円かかる見通しを立てています。

※この試算には令和6年3月に廃校となった長瀬第二小学校と学校給食センターが含まれています。

図表：今後の維持・更新コスト（長寿命化型）



出典：長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月）

図表：今後の維持・更新コスト試算における改修周期

分類	周期
部位修繕（D評価）	5年
部位修繕（C評価）	10年
大規模改造	30年
長寿命化改修	50年
改築（建替え）	85年

出典：長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月）

図表：今後10年間のロードマップ

施設名	建物名	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長瀬第一小学校	校舎					修繕	修繕		基設計	実設計	長寿化
	体育館				修繕	修繕等	修繕			修繕	修繕
長瀬第二小学校	校舎		修繕					修繕等			
	体育館			修繕		修繕	修繕		修繕	修繕	修繕
長瀬中学校	校舎			基設計	実設計	長寿化					修繕
	特別教室棟	修繕				基設計	実設計	長寿化			
	体育館	修繕				基設計	実設計	長寿化			
	剣道場					修繕等	更新				修繕
学校給食センター	共同作業所	修繕	修繕	修繕	修繕		修繕	修繕	基設計	実設計	長寿化

出典：長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月）

4. 学校施設の状況

(1) 学校施設の整備状況

本町の学校施設は、昭和40年代から50年代（1970年代）に建てた建物が多く、建築から50年程度経過しています。公共施設の今後の管理方針を取りまとめた長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月策定）では、建物構造ごとに目標使用年数を定めており、校舎や体育館は85年活用することをめざすものと定めています。

図表：学校施設の整備状況

施設名	建物名	構造	建築年度	経過年数	目標使用年数	残り使用年数
長瀬第一小学校	西校舎	RC造	1976	48	85	37
	東校舎	RC造	1978	46	85	39
	体育館	RC造	1979	45	85	40
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52	85	33
	技術棟	RC造	1979	45	85	40
	体育館	RC造	1970	54	85	31
	剣道場	SRC造	1986	39	85	46
	卓球場	木造	1995	29	50	21

SRC造：鉄骨鉄筋コンクリート造、RC造：鉄筋コンクリート造、S造：鉄骨造
※目標使用年数は、大規模改造工事を実施した場合の使用年数となります。

図表：長瀬町公共施設長寿命化計画における目標使用年数

構造	SRC、RC造	S造	木造
目標使用年数	85年	65年	50年

出典：長瀬町公共施設長寿命化計画

(2) 学校施設の劣化状況

文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29 年 3 月策定）」における施設評価基準に基づき、学校施設の劣化状況を整理しました。

評価方法は、AからDの4段階評価により、屋根・屋上、外壁、内部仕上げの3項目は目視調査による評価。目視では把握できない電気設備、機械設備は経過年数で評価し、以上の5項目から施設の健全度（100点満点）を算出しました。

目視調査の結果、学校施設全体で劣化が進行していることを確認しました。特に、長瀬中学校の技術棟は、外壁、内部仕上げの2項目で、早急に対応が必要となるD評価となりました。

また、学校施設全体からみえる劣化の方向性として、屋根や屋上、外壁より建物内部の劣化が進行しています。

公共施設の今後の維持管理方針を整理した長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月策定）では学校施設を85年間活用することをめざすものと定めていますが、目標年限まで活用するには大規模な改修工事が必要不可欠であり、改修に係る費用と残りの活用年数など、費用対効果を見定めながら改修か、更新（建替え）かを慎重に判断する必要があります。

図表：学校施設の劣化状況評価

施設名	建物名	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点)
長瀬第一小学校	西・東校舎	C	C	C	C	C	40
	体育館	B	C	C	C	C	43
長瀬中学校	校舎	B	B	C	C	C	53
	技術棟	B	D	D	C	C	23
	体育館	B	B	C	C	C	53
	剣道場	B	B	C	C	C	53
	卓球場	B	B	B	B	B	75

■屋根・屋上、外壁、内部仕上げの評価基準

- A：概ね良好
- B：部分的に劣化
- C：広範囲に劣化
- D：早急に対応する必要がある

■電気・機械設備の評価基準

- A：20年未満
- B：20年～40年
- C：40年以上
- D：経過年数に関わらず著しい劣化事象がある

以下に令和6年8月に実施した各学校施設の劣化状況を示します。

長滞第一小学校 校舎	健全度	40点
------------	-----	-----



R6年漏水による改修工事实施



屋上：草木の繁茂



屋上：パラペットのき裂



軒裏：塗装の剥離、剥落



外壁：塗装の剥離



外壁：汚損



階段室：内壁のはく離、剥落



廊下：天井の漏水



教室：天井の漏水

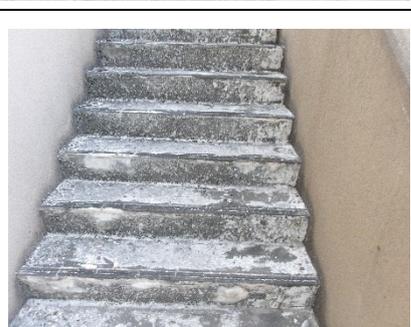
長瀬第一小学校 体育館	健全度	43点
-------------	-----	-----



屋根：支障なし



外壁：汚損



外階段：コンクリートの白華



アリーナ内壁：支障なし



アリーナ天井：支障なし



ギャラリー：塗装の剥離、剥落

長瀬中学校 校舎	健全度	53点
----------	-----	-----



屋上：支障なし



屋上：パラペットのき裂



塔屋：塗装の剥離



軒裏：塗装の剥離、剥落



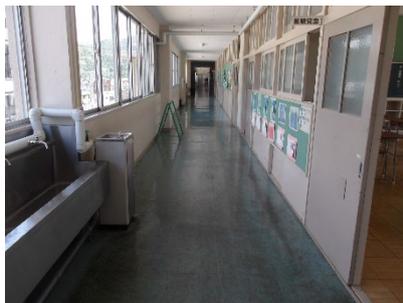
昇降口階段：塗装の剥離、剥落



昇降口階段：外壁の白華



昇降口：内壁のき裂



廊下：床の汚損



教室：支障なし



屋上：支障なし



軒裏：塗装の剥離、漏水痕



外壁：外壁の変形、浮き



外階段：鉄筋の露出、漏水痕



教室：梁のき裂



トイレ：タイルの剥落

長瀬第中学校 体育館	健全度	53点
------------	-----	-----



屋根：支障なし



屋根：防水層の汚損



外壁：き裂補修あり



アリーナ内壁：支障なし



アリーナ天井：支障なし



階段：踏面のき裂

長瀬第中学校 剣道場	健全度	53点
------------	-----	-----



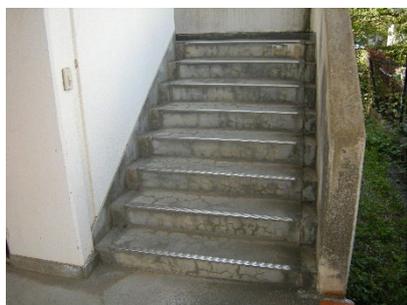
屋根：支障なし



軒裏：漏水痕、塗装の剥離等



外壁：塗装の剥落



外階段：踏面のき裂



道場：内壁支障なし



道場：天井支障なし

長瀬第中学校 卓球場

健全度

75点



屋根：支障なし



軒裏：漏水痕



外壁：支障なし



場内：内壁支障なし

5. 教育環境における教職員の意見

(1) 長瀬第一小学校教職員の意見

質問1 既存校舎や体育館等の施設状況について、使い勝手の良いところや悪いところ、気になっているところは？

【校舎について】

- ・ 専門業者による定期的なメンテナンスがされていない部分があり、築年数以上の劣化を感じる。
- ・ 天井の落下、雨漏りや壁面のひび割れの他、停電等の電気関係の故障も目立ってきている。
- ・ 児童数減少の中、空き教室の活用等はできていると思うが、全体的に劣化が進んでおり、学習環境としては課題があると感じる。
- ・ 特別教室にエアコンがなく、夏季における調理実習や図画工作等の授業の際に大変な部分がある。
- ・ 各教室に鍵がなく、防犯面での心配がある。
- ・ 校内電話、プロジェクターなど活用されているが、使いやすさや設置場所の検討が必要である。

質問2 小中一貫教育の実施に伴い、小学校と中学校を1箇所に集約する場合、どのような施設が良いか？こういった施設や設備があったら良いのではないか？

- ・ 小中一貫校なのか義務教育学校にもよるが、黒板を昇降式にしたり、トイレの大きさを変えたり、水道の高さを変えたり、といった配慮が必要だと思う。
- ・ 体育館や特別教室の数についても検討する必要がある。将来的には全学年1学級になる可能性が高いので、通常教室の数はあまり多い必要がないとも思う。
- ・ 小中で校舎が分けられると良い。
- ・ 小中や地域との交流スペース（広めの多目的室等）があると、活用の場が広がると思う。
- ・ 様々な課題を持った児童生徒の居場所として、現在第一小にあるスペシャルサポートルームも存続してほしい。

質問3 教育環境等について、これまで勤務してきた学校や他の学校と比較して、長瀬町の学校が優れていると思う点、改善したい点はどこか？

- ・ 優れている点としては自然が豊かであり、人柄が優しいという点である。自治体規模も小さく、町全体で子供たちを育てるという感覚が存在しているのだと思う。
- ・ 町教委（SC、SSW等を含めて）をはじめ、行政との連携体制が整っている点も、学校職員としては非常にありがたい限りである。夏季の長期休業も職員のリフレッシュに寄与していると感じる。
- ・ 学校（や子供が関わる校外）の行事の量が多く、行事の精選が必要だと感じる。また、教職員への人的物的なサポート体制の充実を図っていただければと考えている。

(2) 長瀬中学校教職員の意見

質問1 既存校舎や体育館等の施設状況について、使い勝手の良いところや悪いところ、気になっているところは？

【校舎について】

- ・普通に学校生活は送れるが、校舎全体としては古くなっている。修繕が必要な部分も多々ある。
- ・現在の学級数・生徒数の状況から、適切な教室の広さと教室数がある。
- ・各階に更衣室が設置されている。
- ・ドアの開閉がスムーズでない。特に生徒用トイレ。
- ・西側の3階男子トイレの奥の扉が勝手に開いてしまう。
- ・生徒用ロッカーの枠にキズが多い。
- ・壁に亀裂が入っている箇所が多い。(現在一時的に修繕してもらっている)
- ・調理室の教師用キッチンの台に穴があいており、養生テープを巻いている状態。
- ・技術科棟のトイレがボロボロである。(現在は使用していない) エアコンも入っていないので、夏場は学習環境としては厳しい。
- ・セキュリティ面が現在の鍵では弱い。
- ・サイネージがあると色々な用途で使える。(その日の予定、表彰関係)
- ・昇降口を統一する。
- ・リフォームや建て替え。
- ・黒板が上下できると良い。
- ・技術棟が古い。2階トイレが使用できない。

【体育館について】

- ・体育館の床が滑りやすい。ジャンプすると床が上下する。
- ・体育館、音楽室のピアノが40年以上経過しており、本来ならば弦を全て取り替えた方がよいと指摘を受けたことがある。
- ・蛍光灯はLED化する必要がある。体育館の照明LEDの方が安全。
- ・体育館のバスケットゴールを正規のゴールにしてほしい。
- ・体育館の冷暖房の完備。
- ・床が古く、時々釘が上に出てくるときがある。児童生徒の活動時に危険が伴う。

**質問2 小中一貫教育の実施に伴い、小学校と中学校を1箇所に集約する場合、
どのような施設が良いか？こういった施設や設備があったら良いのではないか？**

- ・施設一体型の校舎。
- ・広い校庭、サブグラウンド。
- ・音楽室を2つ。
- ・多目的スペース。
- ・防災備蓄倉庫。
- ・特別教室のエアコンの設置。
- ・特別教室の充実。(例) 2カ所必要：音楽室、美術室、家庭科室、理科室。
- ・エレベーターの設置(給食配膳)
- ・更衣室はあった方が良い。
- ・まだイメージや小中一貫の知識が乏しいため、武蔵台小中学校等を視察する機会があると良い。

**質問3 教育環境等について、これまで勤務してきた学校や他の学校と比較して、
長瀬町の学校が優れていると思う点、改善したい点はどこか？**

- ・学校行事が充実している。生徒の取り組む姿勢が前任校に比べてよい。一人一人が一生懸命に取り組んでいる。
- ・落ち着いた環境で授業が受けられている。
- ・地域に密着した教育活動が行える。
- ・施設設備の老朽化。修繕に時間がとられてしまい、勤務時間に影響が出るときがある。
- ・水道水にサビが含まれている(特に東側)

6. 小中一貫教育についてのアンケート

児童生徒数の減少に応じたより良い教育環境を整えるため、義務教育期間の9年間における長瀬町らしい教育課程の編成とその実行にふさわしい教育体制に向けてアンケートを行いました。

■アンケートの概要

調査内容：小中一貫校について

調査対象：保護者及び地域住民（1,009人）

調査方法：Web及び記入式

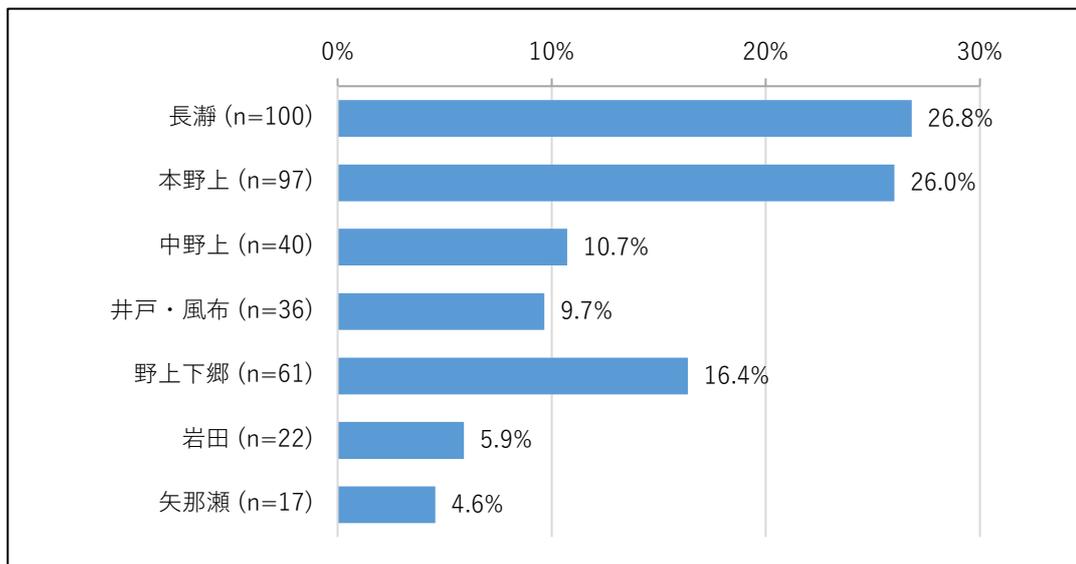
調査期間：令和6年7月17日（水）から令和6年8月2日（金）まで

回収率：37.0%（373/1,009）

各設問の内容は以下のとおりです。

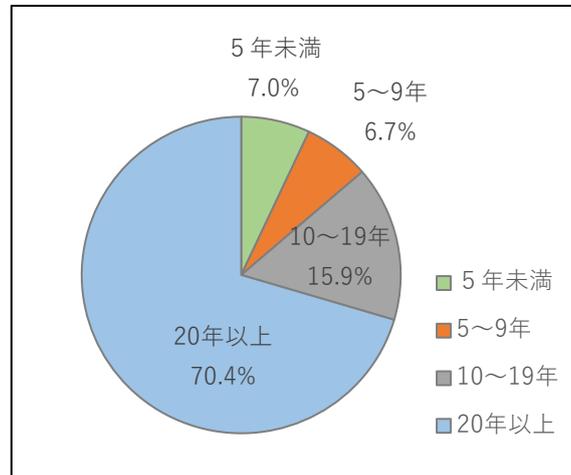
設問1 お住まいの地域を選択してください。

有効回答数373件のうち、住まう地域で最も多いのは、「長瀬」の100件（26.8%）、次に「本野上」の97件（26.0%）、「野上下郷」の61件（16.4%）の順となっています。



設問2 長瀬町での居住年数を選択してください。

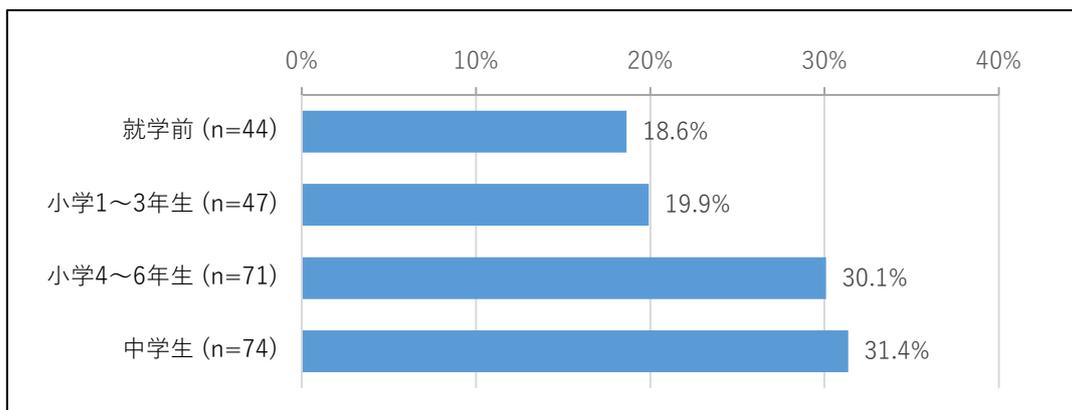
有効回答数 372 件のうち、居住年数で最も多いのは、「20年以上」の 262 件（70.4%）で、次に「10～19年」の 59 件（15.9%）、「5年未満」の 26 件（7.0%）の順となっています。



**設問3 お子さんの学年を教えてください。
2人以上お子さんがいる方は、該当するものすべてを選択してください。**

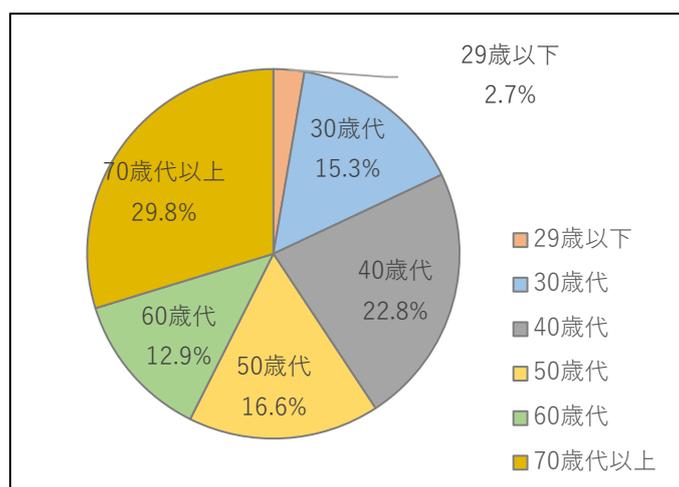
有効回答数 236 件のうち、子どもの学年で最も多いのは、「中学生」の 74 件（31.4%）、次に「小学4～6年生」の 71 件（30.1%）、「小学1～3年生」の 47 件（19.9%）の順となっています。

また、小学4年生以上の子どもの割合を見ると、4年生以下の子どもは20%以上子どもが少なくなっており、少子化の進行が進んでいます。



設問4 ご回答いただいている方の年齢を選択してください。

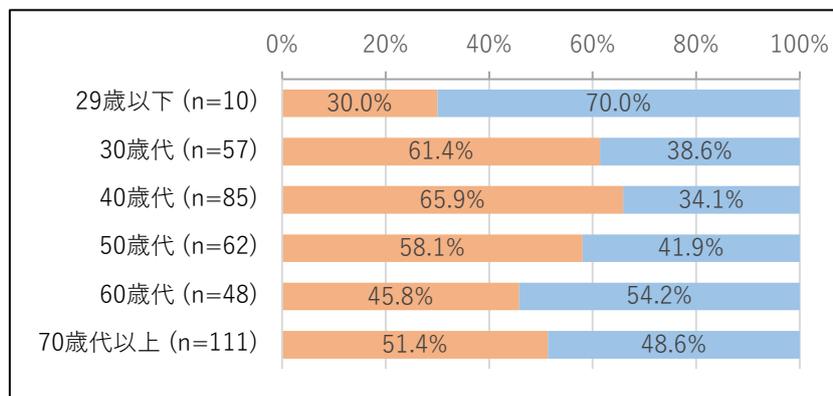
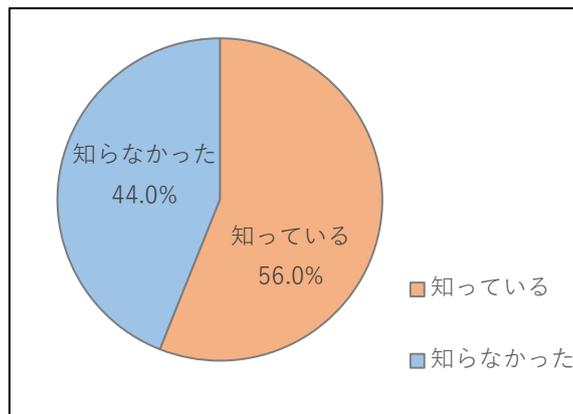
有効回答数 373 件のうち、回答者の年齢で最も多いのは、「70 歳代以上」の 111 件（29.8%）、次に「40 歳代」の 85 件（22.8%）、「50 歳代」の 62 件（16.6%）の順となっています。なお、「29 歳以下」の若い世代の回答は 10 件（2.7%）でした。



設問5 小学校から中学校までの9年間を通じて、教育内容の連携や教育目標の統一を図る一貫教育に向けた取り組みが検討されていることを知っていますか。

有効回答数 373 件のうち、一貫教育に向けた取り組みを「知っている」が 209 件 (56.0%)、「知らなかった」が 164 件 (44.0%) でした。

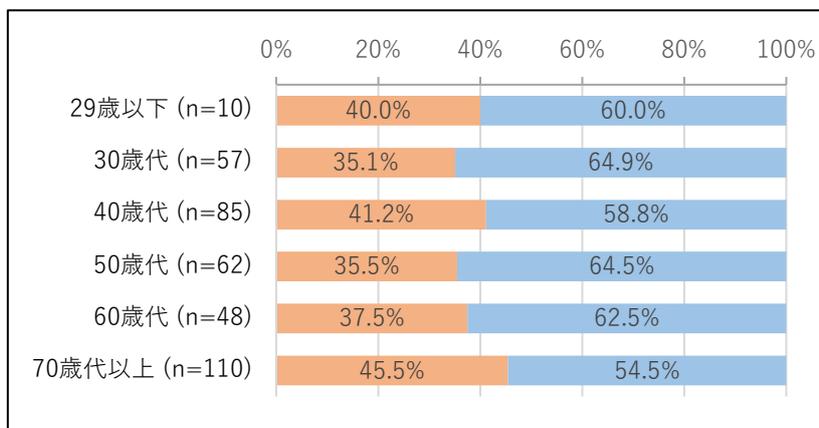
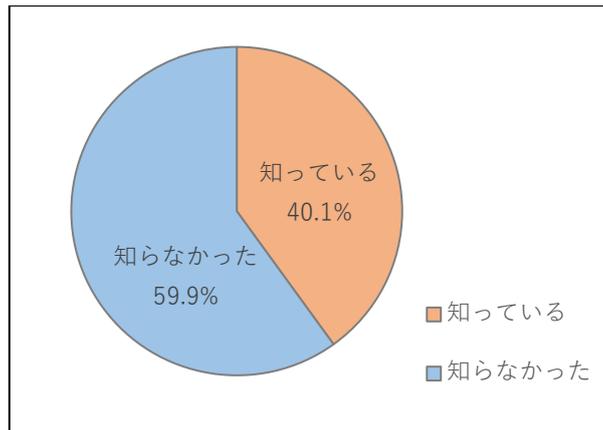
回答者を年齢別にみると、30 歳代から 50 歳代と義務教育期間の子どもがいると思われる世代の認識が 6 割程度と、全年代のなかでも高いことがわかりました。また、最も認識が低いのは、29 歳以下の 30% と、子どもの年齢が就学に達していないと思われる世代でした。



設問6 小中一貫教育の基本形態として、「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」があることを知っていますか。

有効回答数 372 件のうち、小中一貫教育の形態を「知っている」が 149 件（40.1%）、「知らなかった」が 223 件（59.9%）でした。

回答者を年齢別にみても、全世代の認識に大きな偏りはありませんでした。



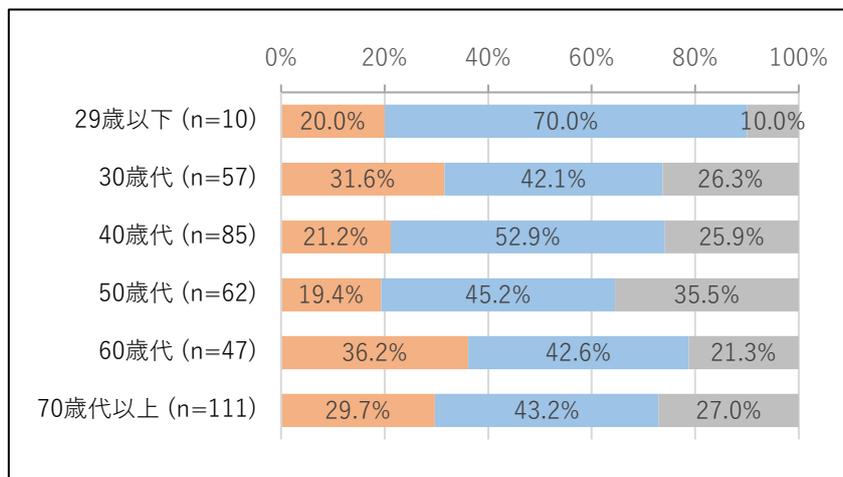
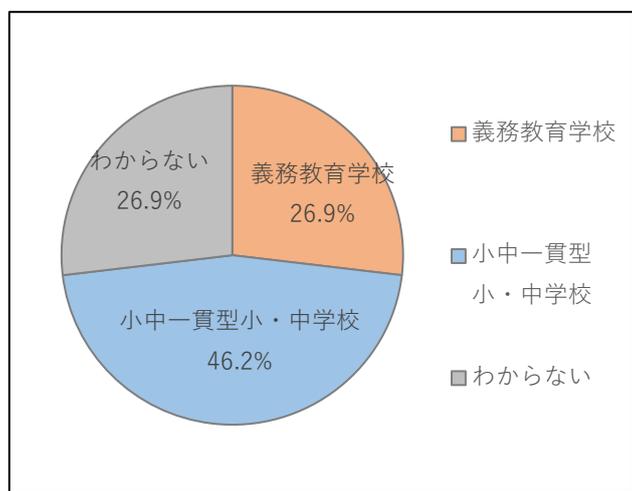
設問7 長瀬町で小中一貫教育を実施する場合、「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」のどちらがふさわしいと思いますか。

有効回答数 372 件のうち、長瀬町の小中一貫教育としてふさわしいと思うのは、「小中一貫型小・中学校」の 172 件 (46.2%)、「義務教育学校」と「わからない」が同数で 100 件 (26.9%) でした。

回答者を年齢別にみても、全年代で「小中一貫型小・中学校」を選ぶ割合が高くなっています。

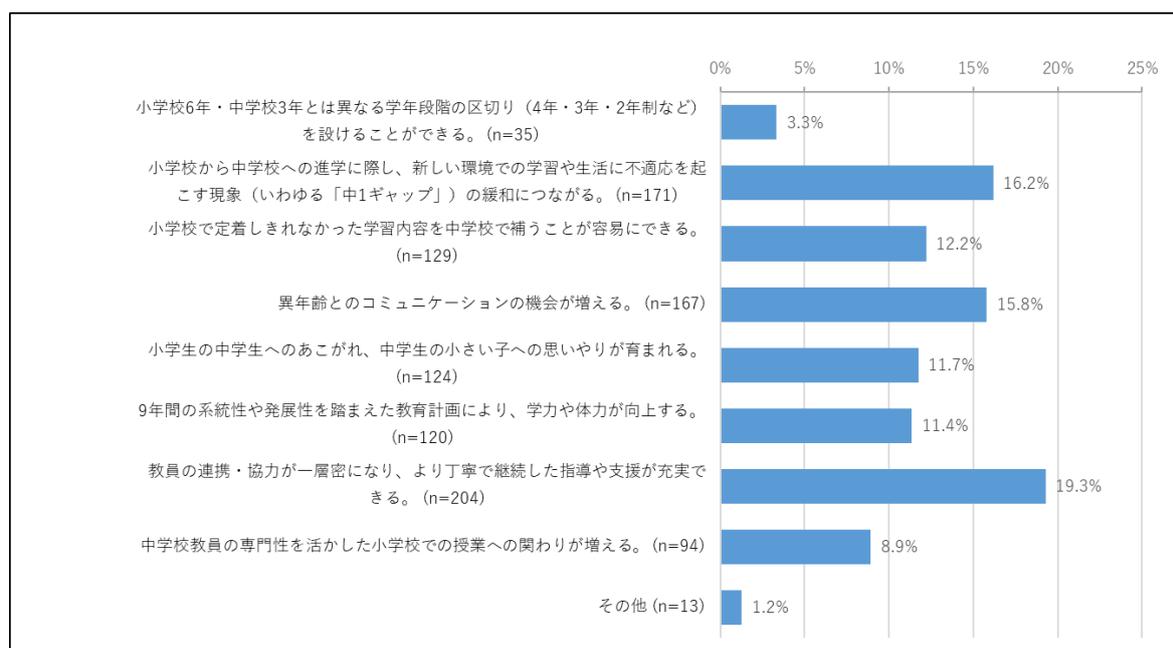
また、全体意見では「義務教育学校」と「わからない」が同数でしたが、回答者を年齢別にみると、40 歳代から 50 歳代で「義務教育学校」を選ぶ割合が低くなっています。これは、親の年齢からみて、子どもは高学年と思われ、子どもの就学中に学校の運営体制が変わることに何らかの不安があるものと推察されます。

なお、就学前の子どもがいると思われる 29 歳以下の 7 割が、「小中一貫型小・中学校」を選んでいきます。



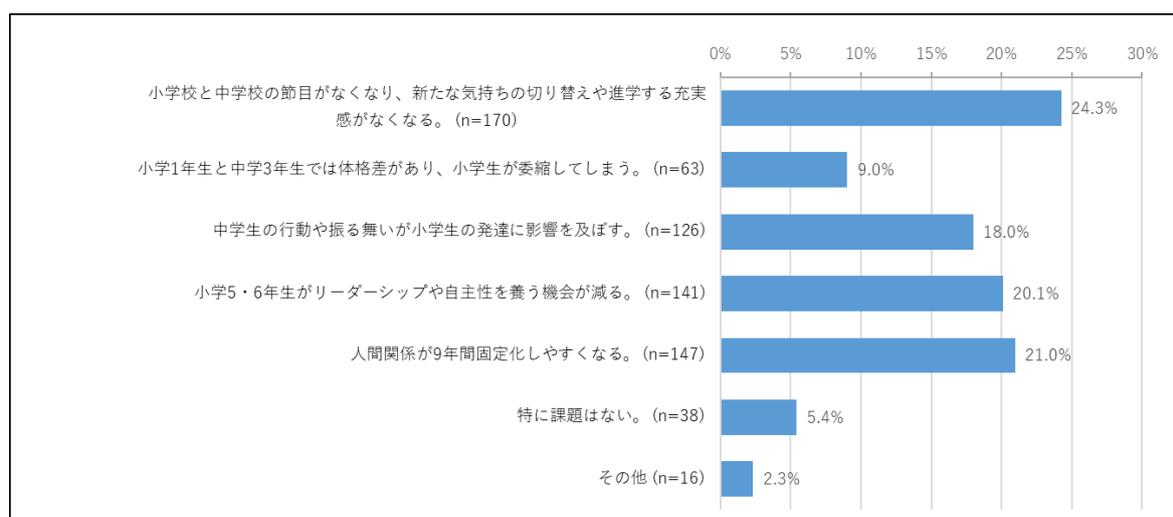
**設問8 小中一貫教育の実施にあたり、どのようなことを期待しますか。
3つ選択してください。**

有効回答数 1,057 件のうち、小中一貫教育で期待することで最も多いのは、「教員の連携・協力が一層密になり、より丁寧で継続した指導や支援が充実できる。」の 204 件（19.3%）、次に、「小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活に不適應を起こす現象（いわゆる「中1ギャップ」）の緩和につながる。」の 171 件（16.2%）、「異年齢とのコミュニケーションの機会が増える。」の 167 件（15.8%）の順となっています。



**設問9 小中一貫教育の実施にあたり、どのような課題があるとお考えですか。
2つ選択してください。**

有効回答数 701 件のうち、小中一貫教育の課題で最も多いのは、「小学校と中学校の節目がなくなり、新たな気持ちの切り替えや進学する充実感がなくなる。」の 170 件 (24.3%)、次に、「人間関係が9年間固定化しやすくなる。」の 147 件 (21.0%)、「小学5・6年生がリーダーシップや自主性を養う機会が減る。」の 141 件 (20.1%) の順となっています。

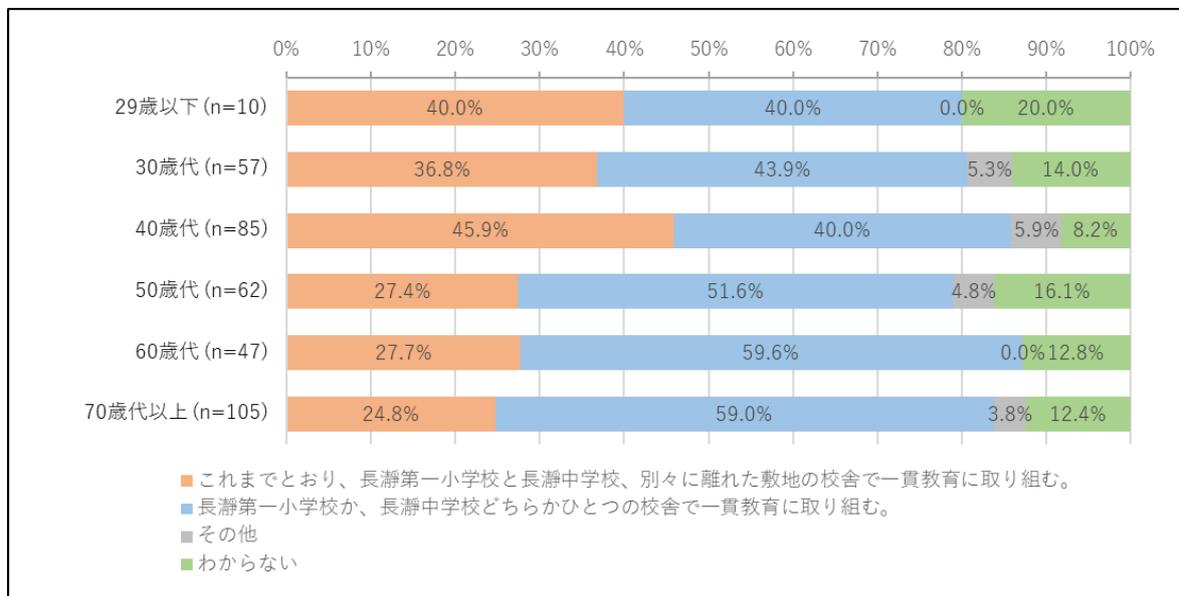
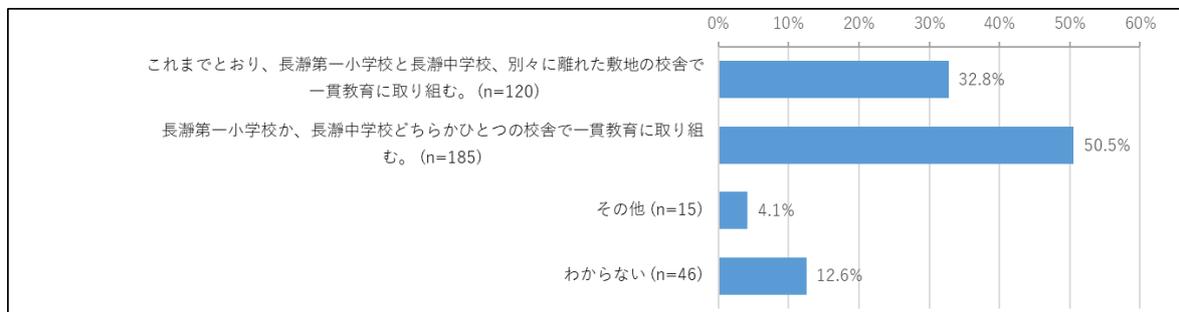


設問 10 9年間を通じた小中一貫教育の実施にあたり、どのような施設形態がふさわしいと思いますか。

有効回答数 366 件のうち、小中一貫教育の施設形態で最も多いのは、「長瀬第一小学校か、長瀬中学校どちらかひとつの校舎で一貫教育に取り組む。」の 185 件 (50.5%)、次に、「これまでとおり、長瀬第一小学校と長瀬中学校、別々に離れた敷地の校舎で一貫教育に取り組む。」の 120 件 (32.8%)、「わからない」の 46 件 (12.6%) の順となっています。

回答者を年齢別にみると、全世代を通して、「どちらかひとつの校舎」を選ぶ傾向にあり、50 歳以降では、「これまでとおり」より、「どちらかひとつの校舎」を選ぶ方が約 2 倍の結果となりました。

なお、その他の意見として、「同じ敷地に別々の校舎」や、「校舎の修繕にも費用がかかるので建替えを検討する」などの意見が寄せられています。

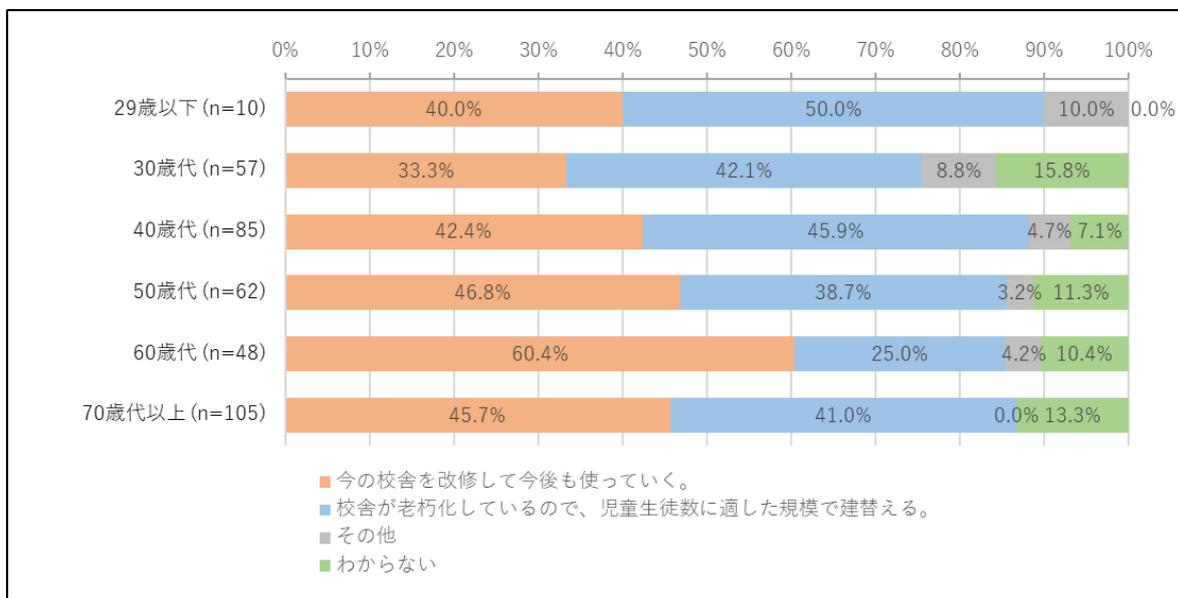
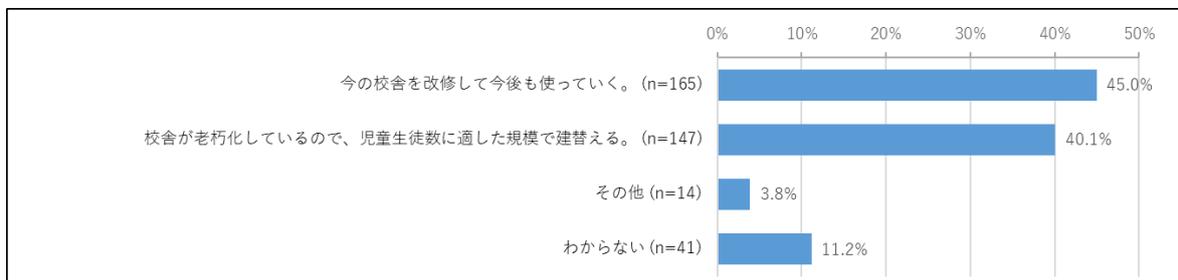


設問 11 小中一貫教育の実施にあたり、校舎の整備はどのような形がふさわしいと思いますか。

有効回答数 367 件のうち、小中一貫教育の校舎整備で最も多いのは、「今の校舎を改修して今後
も使っていく。」の 165 件 (45.0%)、次に、「校舎が老朽化しているので、児童生徒数に適した規模
で建替える。」の 147 件 (40.1%)、「わからない」の 41 件 (11.2%) の順となっています。

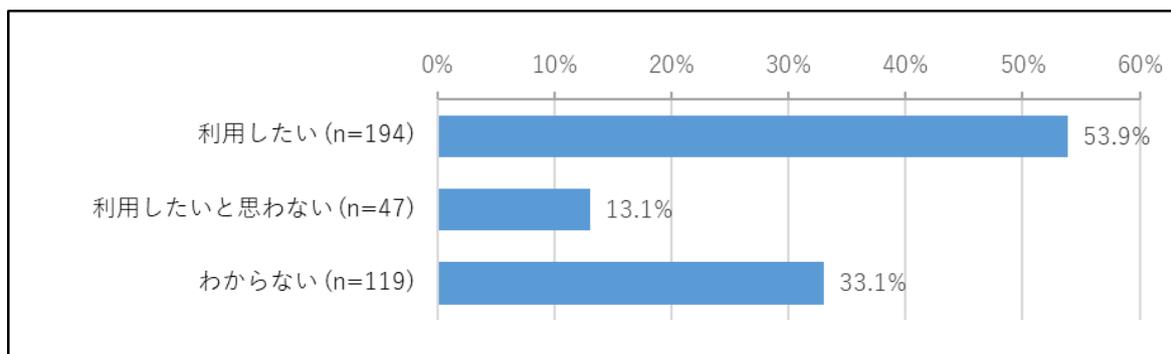
回答者を年齢別にみると、40 歳代までは、「建替え」の意向が高く、50 歳代以降で「改修」の意
向が高くなっています。

なお、その他の意見として、「コストを考慮して検討すべき」や、「避難所の機能を兼ね備えた施
設として建替え」、「オフィスや商店、福祉など、学ぶことができる施設と複合化して建設」などの
意見が寄せられました。



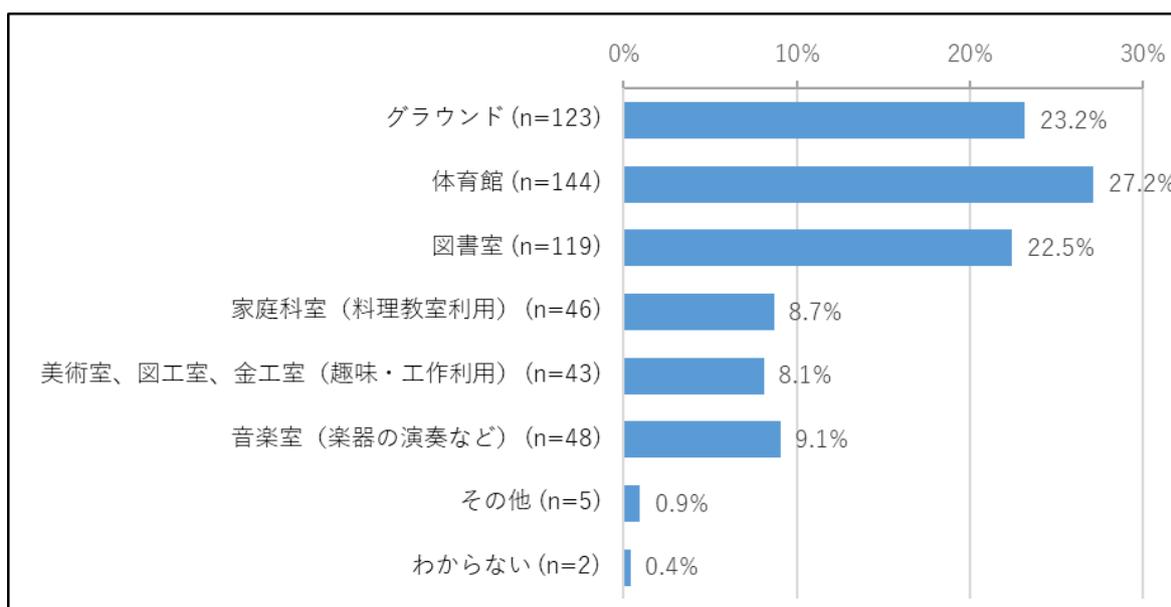
設問 12 地域に開けた学校施設に向けて、学校施設を学習や交流の場として地域住民に開放したら利用したいと思いますか。

有効回答数 360 件のうち、学校施設の地域開放で「利用したい」が 194 件 (53.9%)、「利用したいと思わない」が 47 件 (13.1%) となっています。



設問 13 設問 12 で、①学校施設を利用したいと回答した方にお尋ねします。どの施設を利用したいと思いますか。3つ選択してください。

地域開放で学校施設を利用したいと回答した方 (有効回答数 530 件) のうち、最も多いのは、「体育館」の 144 件 (27.2%)、次に、「グラウンド」の 123 件 (23.2%)、図書館の 119 件 (22.5%) の順となっています。



設問 14 自由意見

【一貫教育に関する意見】

- ・少子化が進み学校規模も小さくなっていくので、せめて質の高い教育環境を整えてほしい。
- ・第二小学校の卒業生ですが閉校となり寂しく思います。学校を閉校にしない小中一貫型に賛成です。
- ・一貫教育は中学校校舎が妥当である。中学校を改修している間、第一小学校を仮校舎としてはどうか。
- ・一貫校となったら電車通学になるのか。
- ・電車通学となったら最寄り駅に無料の駐輪場を整備してほしい。
- ・一貫校にするのであれば、送迎や保護者用の駐車場を整備してほしい。
- ・一貫教育の検討は、実践校を訪問して現場の意見を聴きながら検討を進めてほしい。
- ・小中学校は別々がよい。いじめが9年間続いたら大変。いじめに対応する教員がいると良い。
- ・小学生と中学生が同じグラウンドを利用するのに不安を感じる。

【地域開放に関する意見】

- ・児童生徒が減少しているので、学校施設を地域活用しながら全町で盛り上げていくことが必要と思う。
- ・給食センターや図書館、スポーツ施設、公民館等が学校と複合化し、地域とともにある学校づくりを進めてほしい。
- ・学校施設が様々なことに触れる機会を生み出す施設になることを期待する。学習塾やスイミングなど習い事もあると親と子が関わる時間も増えると思う。
- ・体育館は、地域住民の利用も考慮した規模で建替えを希望する。
- ・学校施設の地域開放の際は、送迎も検討してほしい。
- ・学校施設の地域開放の際は、教えてくれる先生（指導者）もほしい。
- ・学校施設の地域開放は子どもの危険が増えるので反対である。
- ・児童が学校にいる時間帯に学校施設を開放するのは慎重に検討すべきである。
- ・学校施設が開放されれば利用したいと思うが、開放したことで事故や事件が起きないか心配である。
- ・現在の体育館がなくなる（減る）と利用団体の間で競争になるなど影響が大きい。

7. 小中一貫教育検討に係るワークショップ

(1) ワークショップの目的

長瀬町にふさわしい小中一貫教育に向けた施設整備について、小中学校の教職員、PTA役員（保護者）、校長経験者などを交えて、学校施設の地域活用や新校舎などの配置を検討することで、学校関係者などの意見を取り入れた施設整備（案）を作成することを目的とします。

(2) 学校施設整備（案）に向けた前提条件

ワークショップにて学校施設整備を検討するにあたり、意見の方向性を見出すため前提条件を設定しました。なお、小中一貫教育の形態については、引き続き、検討委員会において協議を重ねるものとし、ワークショップでは学校施設整備を議論する場としました。

前提条件の設定にあたっては、児童生徒数の状況、学校施設の老朽化状況、町の財政状況、学校施設の立地・敷地状況などを勘案し、中学校敷地を活用した一校舎による建替えを前提に検討するものとなりました。

前提条件の設定に至る各要因は以下のとおりです。

【児童生徒数の状況】

学校施設に通う児童生徒数に着目すると、年々、児童生徒は減少しており、令和6（2024）年度の児童生徒数は396人（児童247人、生徒149人）となっています。平成元（1989）年の児童生徒数と比較すると4割程度の規模まで減少しており、この減少傾向は今後も続き、令和32（2050）年には279人まで縮小すると予想されます。

児童生徒数の減少に応じたより良い教育環境と教育体制の整備が必要となっています。

なお、ワークショップにおいては、現在使用している普通教室数（小学校13教室、中学校9教室）、特別教室（小学校11教室、中学校12教室）を維持した場合における最大施設規模（ボリュームチェック）を用いて検討を行うものとしします。

【学校施設の老朽化状況】

小学校、中学校ともに校舎及び体育館は建設から50年程度経過しています。第一小学校の校舎においては建物の老朽化から令和6年度に雨漏りが発生したことで、急遽、屋上防水工事を実施しました。また、中学校においても、教職員より、「普通に学校生活は送れるが、校舎全体としては古くなっている。修繕が必要な部分も多々ある。」との意見や、「体育館の床が滑りやすい。ジャンプすると床が上下する。」などの学校施設の老朽化や不具合についての意見も寄せられています。

長瀬町公共施設長寿命化計画では、長寿命化改修工事を建設から50年経過した時点で行い、85年間活用して改築（建替え）を行う計画を立てており、計画どおりに施設運用を図るのであれば、今のタイミングで長寿命化に向けた施設改修を行う必要があります。

【長瀬町の財政状況】

長瀬町公共施設長寿命化計画（令和2年3月策定）では、現在の学校施設をそのまま維持・更新する場合、今後40年間で42億円の経費が必要と試算し、今後10年間に必要な費用は約19億円との見通しを立てています。

なお、近年における物価の高騰や人件費の上昇など、建設コストが高騰しているため、現在においては試算額以上に費用がかかるものと思われます。

これまで整備してきた学校施設を含めた公共施設を今後も維持・更新していくためには多額の費用が必要となりますが、このままでは、昨今の人口減少と少子高齢化の進行から町の財政規模は縮小せざるを得ないと考えられます。既存の学校施設を長寿命化改修工事を行った上でこのまま維持したとしても30年後には校舎や体育館の建替えが必要となることから、財政面においては課題を先送りすることになります。

また、小学校の教職員より、「黒板を昇降式にしたり、トイレの大きさを変えたり、水道の高さを変えたり、といった配慮が必要」との、児童生徒の体格差に応じた施設整備についての意見も寄せられています。

ワークショップの開催にあたっては、将来の財政状況や児童生徒数の減少、体格差などを考慮して、小中学校を集約し、一棟の新設校舎のなかで運営することを条件とします。また、学校施設に関連する学校給食センターや体育館がある長瀬町中央公民館の施設も老朽化が進行していることから、学校施設への機能集約や地域住民が利用できる施設など、財政負担の軽減に向けた検討を行います。

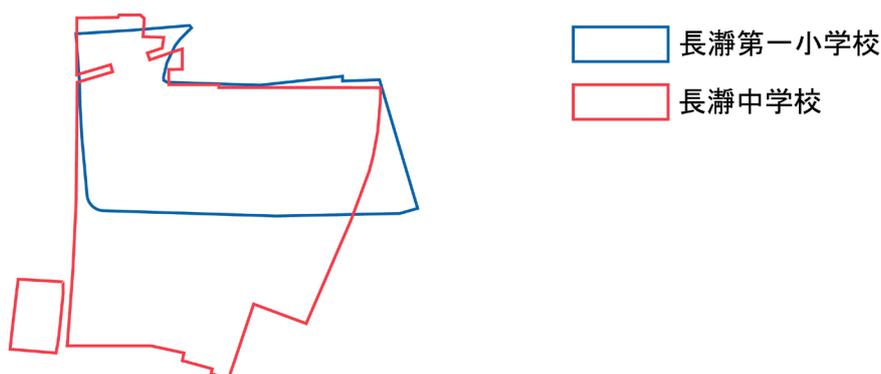
【立地・敷地状況】

学校施設の集約化を検討するにあたり、学校が地域の防災拠点施設としての役割を担うことから、長瀬町役場に隣接する中学校が災害時において円滑な支援活動が行えるとともに、秩父鉄道野上駅からの距離も近く、利便性が高いものと考えます。

また、小学校（15,182㎡）と中学校（22,636㎡）の敷地の広さにおいても中学校の敷地が広く、小学校より、ゆとりをもった施設配置が可能となります。特に、小学校においてはスクールバスによる送迎を行っているため、バスの待機スペースの確保も必要です。

これらのことから、ワークショップの開催にあたっては、中学校敷地に集約する案について検討を行うものとします。

図表：学校敷地の比較検討図



(3) ワークショップの主な内容

ワークショップは全2回で構成し、第1回ワークショップで発表された学校施設整備に関するグループ意見を学校施設整備の集約案（設計案）として取りまとめ、第2回ワークショップで報告し、作成した集約案に対して参加者から意見を求めました。

図表：開催内容

開催	主な内容
第1回：令和6年9月25日（水）	<ul style="list-style-type: none">・これまでの取り組み・小中一貫教育の方向性・現任教職員の意見・学校施設に対するグループディスカッション・学校施設の地域活用に対するグループディスカッション・学校施設の配置検討グループディスカッション・グループ発表
第2回：令和6年12月5日（木）	<ul style="list-style-type: none">・前回ワークショップの振り返り・ワークショップ意見を踏まえた集約案の報告・設計に対する意見・設計に対する意見交換（グループディスカッション）・グループ発表

■ワークショップ参加者の構成

小中学校教職員、小中学校PTA役員、校長経験者、児童生徒の保護者（公募含む）から構成される15名をメンバーに3グループを編成してワークショップを開催しました。

学校施設（全体）に関する各グループの意見

【グループ1の意見】

- ・小学生と中学生の身長差に配慮した施設
- ・特別支援学級は必要である
- ・駐車場の確保が必要である
- ・机にコンセントを設置してはどうか
- ・第一小、第二小の跡地をグラウンドとして活用
- ・体育館は小学校と中学校を分けて整備する
- ・1学年全体で集まれるスペースが必要
- ・南側に向けた校舎とする
- ・教室ロッカーの幅が狭い、大きくする

【グループ2の意見】

- ・校舎は木造とする
- ・校舎は一体にて設置する
- ・学童も一体とする
- ・校舎の中にも緑を設置する
- ・体育館に空調を設置する
- ・階段の有効活用を図る（座ったりできる）
- ・校舎に中庭を設置し階段にて繋ぐ
- ・施設を複合化させる
- ・図書館を駐車場の近くとする
- ・小学生用遊具を設置する
- ・災害時に備えて太陽光パネルを設置
- ・いろいろな所にローテーブル・椅子の設置

【グループ3の意見】

- ・長瀬町には公園がない
- ・体育館の下階を駐車場とし活用する
- ・デザイン性ではなく機能性を重視する
- ・欲張らずにコンパクトな施設とする
- ・セキュリティ上、事務室（受付）が必要
- ・1～4年生、5・6年生がかたまる傾向がある
- ・現在の校舎位置に建替える方が良かったと後から思わないようにしたい
- ・第二小を仮設校舎で利用すれば中学校を解体できる
- ・同一の建物にいたので小・中の壁を取り払いたい
- ・3年間新校舎に通学出来ない生徒がいることは避けたい
- ・校舎の位置が変わると住民から苦情があるのでは
- ・長瀬町にはホールがない
- ・通学にスクールバスが必要かもしれない
- ・小学生から見て中学生は怖いと感じる
- ・裏の道路からの車の出入りは不要である

教室・特別教室・体育館に関する各グループの意見

【グループ1の意見】

- ・児童生徒が一緒に使う図書館を整備する
- ・音楽準備室は小中で楽器が異なるので広く
- ・コンピューター室は不要である
- ・形や使用内容で変化できるつくりとする

【グループ2の意見】

- ・図書館は小・中共有とする
- ・体育館1階をバスケ他、2階を剣道・卓球
- ・体育館は1、2階を別々とする
- ・体育館はバスケコート2面設置する
- ・教室の入口側の壁を無くし解放感のある空間

【グループ3の意見】

- ・必要な部屋、不要な部屋を整理する
- ・視聴覚室、コンピューター室は不要ではないか
- ・特別教室は小・中で2室ずつは不要ではないか

地域開放に関する各グループの意見

【グループ1の意見】

- ・地域図書館の設置
- ・ラウンジ・多目的ホールの設置
- ・集会場の設置
- ・地域に開放出来る施設とする
- ・体育館を地域で利用できるようにする

【グループ2の意見】

- ・ラウンジを設置する
- ・コンピューター室をシアターにする
- ・1階に中庭に面した調理室を設置する
- ・調理室で土・日曜日にパン教室などを開く
- ・子供から大人のスタディスペースの設置

【グループ3の意見】

- ・図書館は一般開放しても校舎と分離しない
- ・中学生の部活で土・日に体育館は使えないので体育館を2つ設置し小学校はホールとして活用
- ・体育館・音楽室・図書館は地域開放する
- ・多目的ルームには収納が必要

学校の施設配置に関する各グループの意見

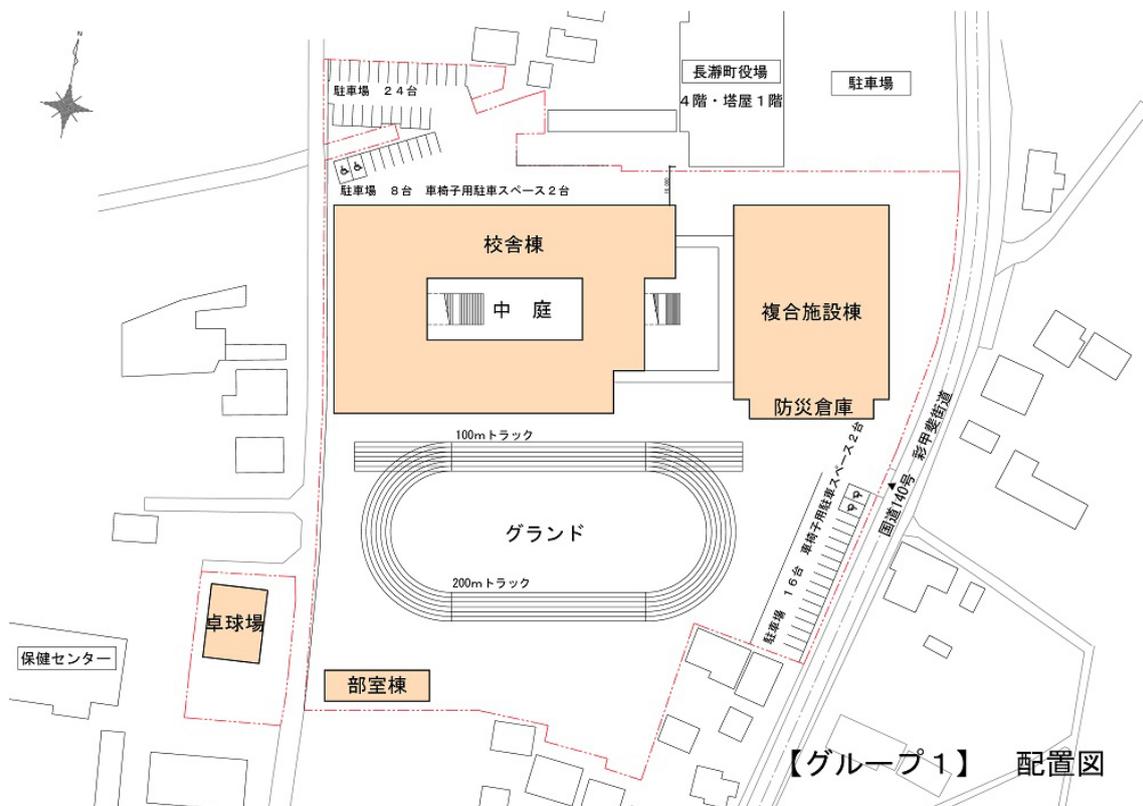
【グループ1の意見】

- ①北西に校舎、北東に体育館を設置し通路で繋げる
(地上または2Fに渡り廊下)
- ②体育館の南に駐車場を設置
- ③地域開放する施設と児童生徒がいる校舎は
セキュリティ上分離する



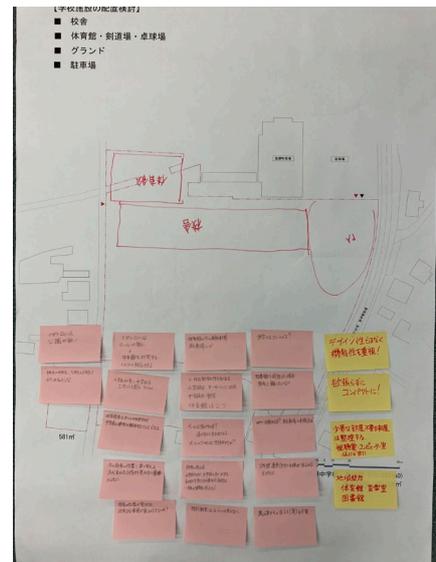
【グループ1の意見を基に施設整備（案）を作成】

※体育館は、複合施設棟の中に整備します。



【グループ3の意見】

- ①北西角に体育館
- ②北側に校舎
- ③北東に駐車場
- ④南側にグラウンド

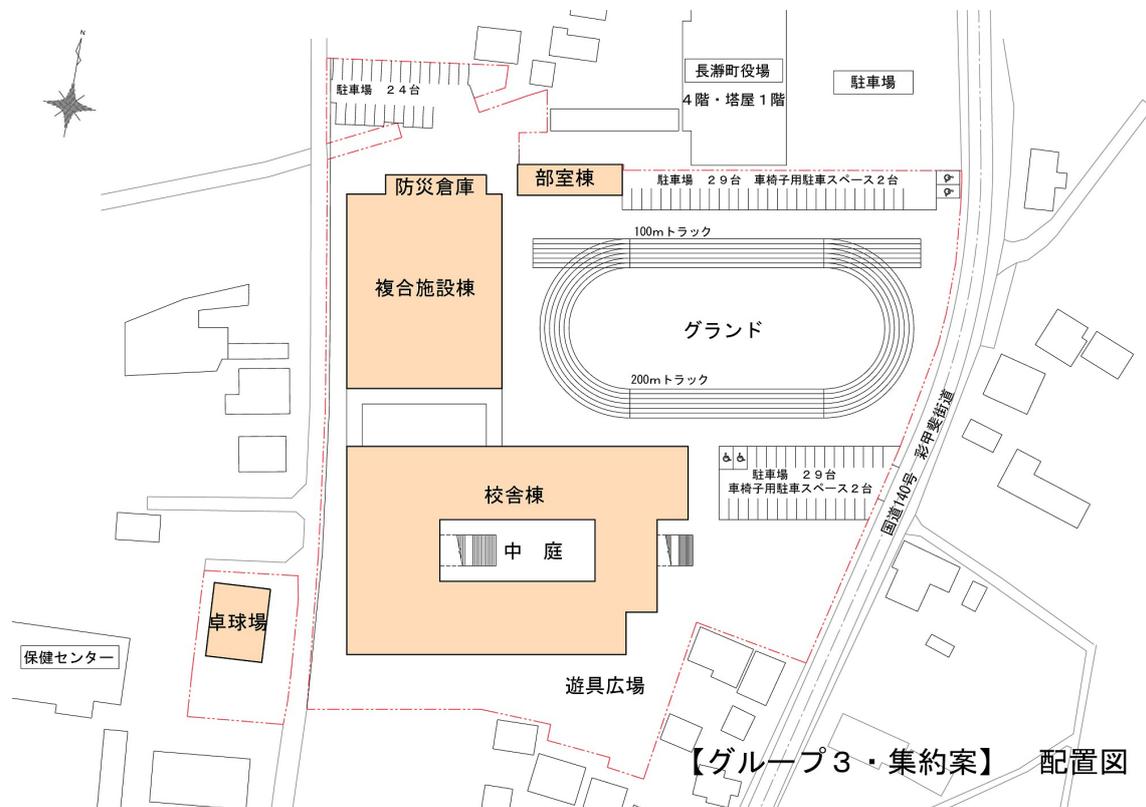


【グループ3の意見を基に施設整備（案）を作成】

意見を設計に反映するにあたり、体育館（複合施設棟）を北西角に配置すると水路直上に体育館が位置することとなり、水路の暗渠化工事が必要となります。また、建物重量を支持できるかの調査や構造計算が必要です。このため、体育館を北西角に配置することは現実的ではないと判断し、水路を避けて、水路南側まで体育館の位置を下げるものとなりました。

また、体育館を下げた位置の横（東側）に校舎を配置すると、グラウンドが整形に取れないという課題が発生することから、体育館の南側に校舎を配置し、体育館の東側にグラウンドを配置しました。

※体育館は、複合施設棟の中に整備します。



※グループ3の施設配置案を参考に集約案を作成しました。
 ※集約案に至る整備方針は次頁の「8. 学校施設整備の方向性」を参照のこと。

8. 学校施設整備の検討

(1) コンセプト

長瀬町小中一貫教育検討委員会における各委員からの意見及び、小中一貫教育に係るワークショップにおける参加者からの意見を基に、小中学校それぞれの必要諸室が求められる小中一貫型の規模を想定し建物配置の検討を行いました。

ワークショップにおける各グループからの意見により建物の配置3案を作成し、その中から諸条件を考慮し検討を行った結果、集約案としてグループ3の配置案を採用し、各諸室のゾーニングと工事工程などを含めた検討を行いました。

1) 仮設校舎について

- ・ 小学校を中学校の仮設校舎としない。
その理由としては、成長して体が大きくなり、トイレや手洗い場などの改修工事が必要となる。
- ・ ワークショップにより各グループから提案された施設配置案と、既存長瀬中学校の校舎、屋内運動場、付属棟の建物を重ねると、グループ1とグループ2の配置案では既存建物を解体・撤去しないと建設工事が開始できないので工事期間中に仮設校舎が必要となる。
- ・ グループ3の集約案の校舎配置の場合、中学校のグラウンド側に新校舎を建てることで仮設校舎は不要となり新校舎への引越しも一度で完了する。経費削減につながるプランである。



2) 新校舎設計（案）のコンセプト

【校舎棟】

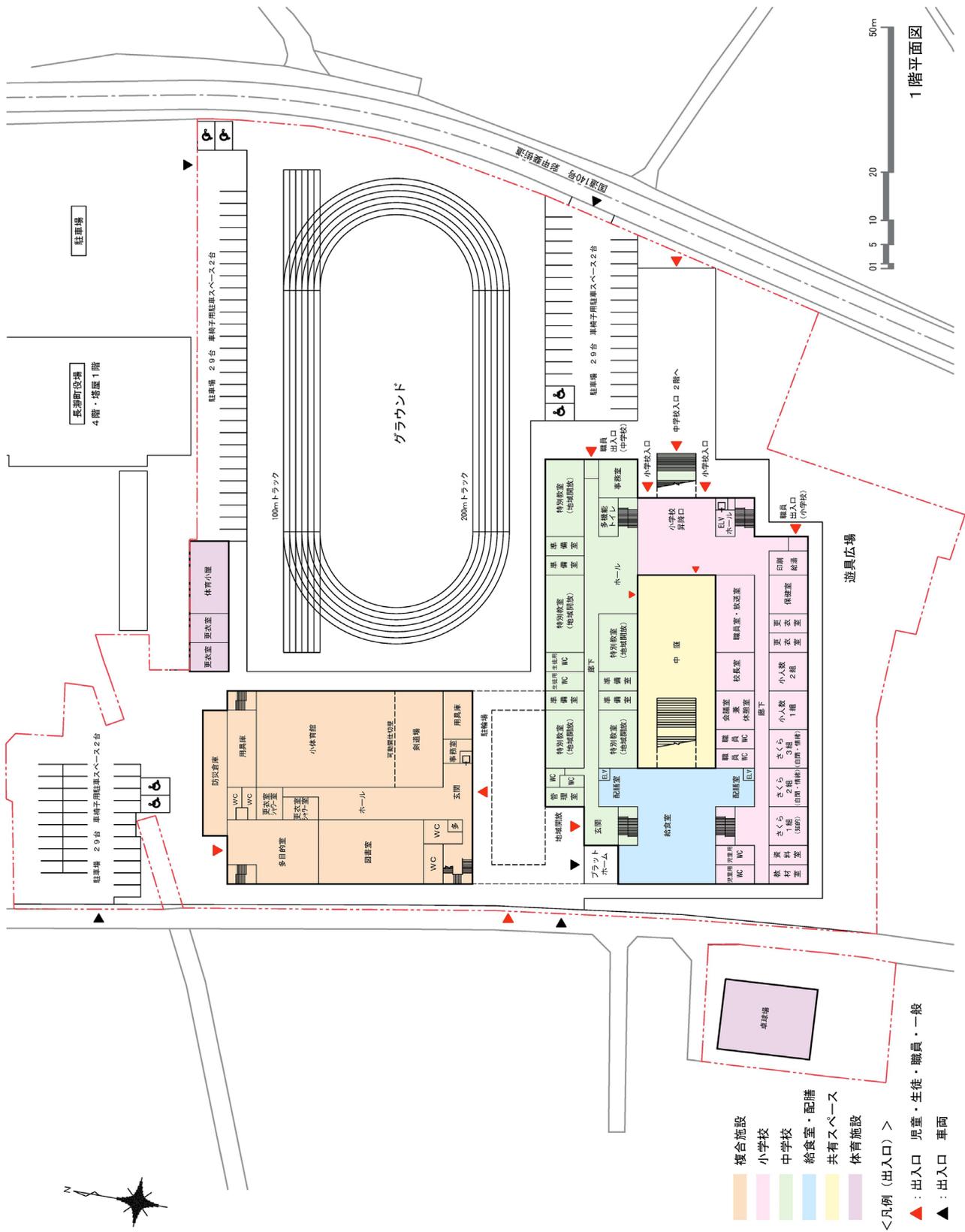
- ・ひとつの校舎の中に、小学校と中学校は中庭を挟んで、北側と南側に分けられる。
- ・中庭を設けることで、中庭に面する教室への採光を確保する。
- ・1階の中学校側は地域開放も可能なように特別教室のフロア構成とし、中庭を有効に利用できるようにする。
- ・廊下の両側に教室を配置する中廊下式とし、東西方向に廊下が長くないようにする。
- ・中廊下式とすることで、階ごとの床面積は大きくなるが、3階建てに納めることができる。
- ・小学生の昇降口は1階、中学生の昇降口は2階に分けて動線を交差させない。
- ・給食室は校舎の1階に設け、厨房の吸排気は配膳室のダクトから屋上まで通して屋外機械を設置する。また、西側の道路から搬入・搬出できるようにする。
- ・児童と生徒が集うことができるコミュニティスペースを2階と3階に設けている。
- ・バリアフリー化に伴い、車いす対応エレベーターと多機能トイレを設置する。

【複合施設棟】

- ・複合施設には地域開放できる施設を配置する。
- ・地域開放用のエントランスは1階に設け、児童生徒は2階の渡り廊下からアクセスする。
- ・1階に図書室と多目的室を設ける。小学校の体育館と剣道場を併設して、一体の空間での利用と、可動間仕切壁で仕切ることで別々に利用することも可能としている。
- ・2階は中学校用の体育館とし、基本的に土日の部活利用を優先する。学校行事などで児童生徒が集まれる設備を設ける。
- ・防災倉庫を外部、内部双方から利用できるように隣接する。
- ・バリアフリー化に伴い、車いす対応エレベーターと多機能トイレを設置する。

3) 設計（案）のポイント

- ・グループ3の意見では、体育館を北側に寄せ、校舎を体育館の南側に配置する案でしたが、北側の水路上に建物の設置は難しいため、体育館と校舎を南側に寄せると、グラウンドに200mトラックが納まらなくなり、グラウンドを北側に移し体育館と校舎をL型配置とした集約案となった。
- ・複合施設棟と校舎棟をL型配置とすることで、国道側からのアプローチ空間に余裕ができる。
- ・校舎棟を南側に設けることで、既存校舎は新校舎の工事が完了するまで利用し続けることが可能となり、校舎棟が完成すれば先行して新校舎の利用が可能となる。
- ・校舎棟にはバルコニーを設けていない（バルコニーのメンテナンス等の手間を省くため）。
- ・普通教室の窓側にバルコニーがないため、腰壁を設けて児童生徒用のロッカーを設置する。
- ・中廊下式とすることで、廊下に面した教室の壁を開放しオープンな空間として利用も可能。
- ・中庭を屋外ステージとして利用し、小中学校で行われる音楽発表の練習などを行い、児童生徒の表現力の育成の場として活用する。

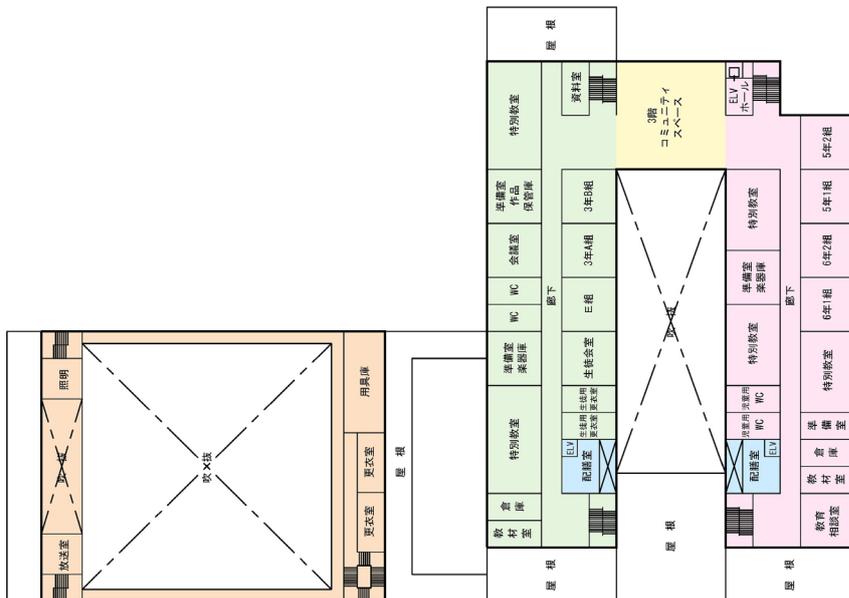


1階平面図

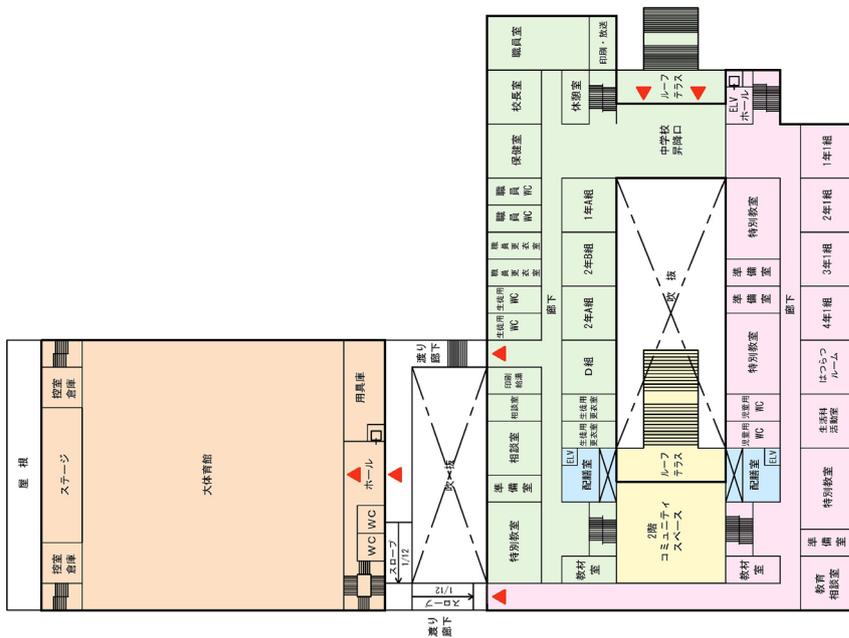
- 複合施設
- 小学校
- 中学校
- 給食室・配膳
- 共有スペース
- 体育施設

<凡例 (出入口)>

- ▲ : 出入口 児童・生徒・職員・一般
- ▲ : 出入口 車両



3階平面図

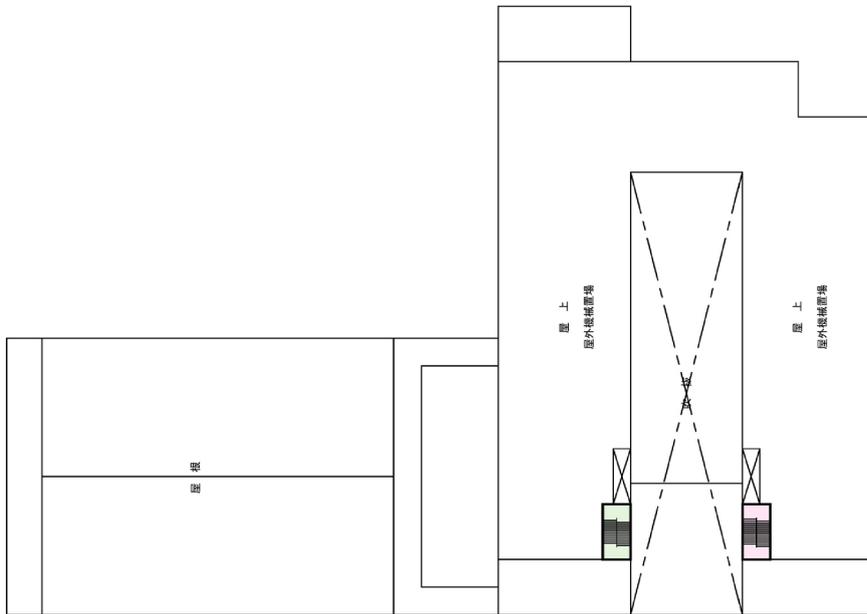


2階平面図

- 複合施設
- 小学校
- 中学校
- 給食室・配膳
- 共有スペース

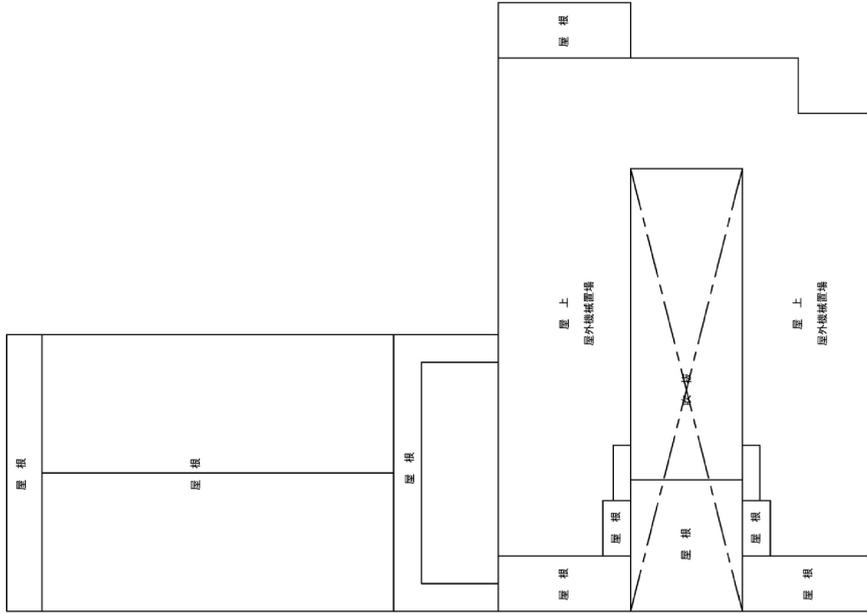
▲ : 出入口 児童・生徒・職員・一般

<凡例 (出入口) >



屋上平面図

- 小学校
- 中学校



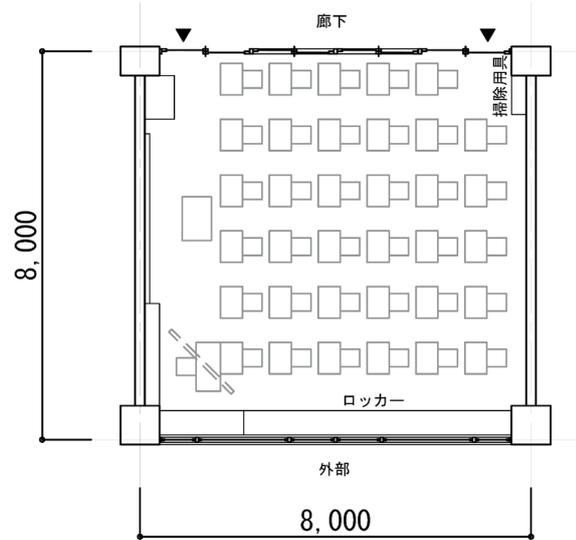
屋根伏図

■普通教室の現状との比較

既存の長瀬第一小学校、長瀬中学校、設計（案）による普通教室 35 人教室を比較。

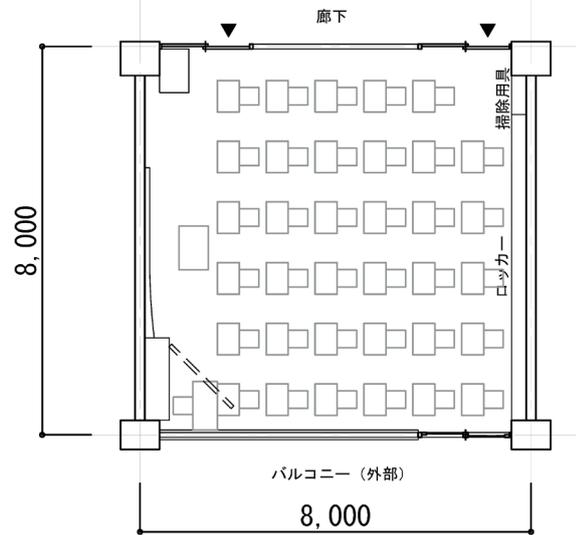
設計（案）

- 普通教室（35人教室）
- 柱スパン 8m×8m=64m²
- ロッカーを外壁側に設置
- 奥行寸法450mmを確保



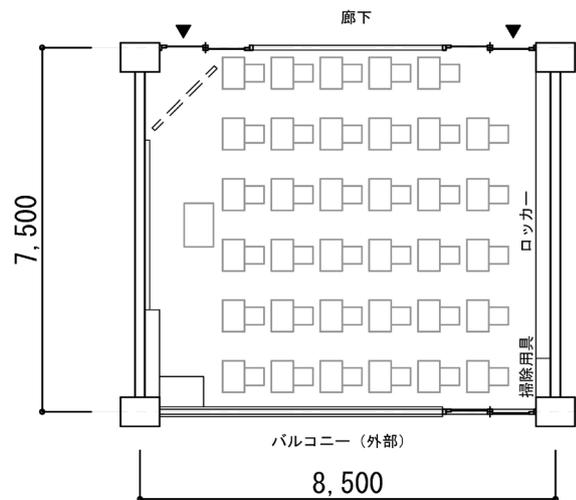
長瀬第一小学校

- 既存普通教室
- 柱スパン 8m×8m=64m²
- ロッカーを背面側に設置、奥行が浅い



長瀬中学校

- 既存普通教室
- 柱スパン 7.5m×8.5m=63.75m²
- ロッカーを背面側に設置、奥行が浅い



(3) 設計(案)における課題

- ・学童保育所、テニスコート、野球場が整備できていない。
- ・学校施設の建設中、グラウンドと体育館が使用できない。
- ・西側の道路幅員が狭いので、道路拡幅が必要となります。
- ・建替えの工事は、校舎棟工事、複合施設棟工事、解体工事、グラウンド整備工事などに分類されるため、工事ステップ等を検討し工期短縮にとりくみます。
- ・校舎棟建設工事を2年以内に完成させることで、3年目には新校舎を児童生徒が利用できるようにしたい。
- ・学校施設整備案では長瀬町の小中一貫校の設置形態を、施設一体型の小中一貫型小学校・中学校として作成しており、規模としては複合施設も含めた大きなものとなっています。

今後の検討を行う場合には、運営形態や設置形態を決めるにあたり、児童生徒数、教職員数に見合った学校施設規模の見直しなどの検討が必要となります。

(4) 学校施設整備（案）におけるタイムスケジュールの検討

ワークショップで検討した学校施設整備（案）を実現する場合、基本構想の検討から開校まで8年程度かかる見通しです。また、この整備（案）では、工事の工程から3年間グラウンドが使用できないという課題が見えてきました。

今後、この整備（案）とタイムスケジュールを参考に長瀬町の特色を反映した学校施設整備を検討していきます。

図表：タイムスケジュールの検討

実施項目	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目
基本構想	基本構想	小中一貫教育の方針、校舎配置の検討						
基本計画		基本計画	施設計画の検討・概算工事費の試算等					
敷地・レベル測量調査			敷地測量 学校用地取得・用地測量					
基本設計・実施設計	プロポーザル方式による設計会社の選定	基本設計・実施設計		基本設計：基本仕様を確定 実施設計：詳細設計・積算と申請・届出				
地盤調査			地盤調査 基礎・構造計画の条件整理					開校
解体工事					体育館 解体工事		校舎棟 解体工事	
建設工事 1期工事		長瀬第一小学校と長瀬中学校の校舎を使い続けながら工事を行う		1期工事 校舎棟建設工事		新校舎棟 供用開始		
建設工事 2期工事					2期工事 複合施設棟建設工事		複合施設棟 供用開始	
外構・グラウンド整備工事					3年間グラウンドが使用できない		グラウンド 整備工事	グラウンド 供用開始
引越し					児童生徒の引越しは一回で済む		引越し	
開校に向けた準備				開校に向けた準備				

※今後の検討に伴い変更の可能性があります。

9. 小中一貫教育の方向性

(1) 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校の特徴

長瀬町で小中一貫教育を実施する場合、「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校(併設型)」の2つの学校運営の方法があります。「小中一貫型小学校・中学校(併設型)」は小学校・中学校の枠組みを残しつつ小中一貫教育に取り組む運営形態で、「義務教育学校」は9年制の学校として義務教育を一貫して行うことにより、教育活動などについて一貫性を確保した取組みを容易にすることを目的に平成28年に国が導入した運営形態です。

図表：小中一貫教育の形態

小中一貫教育	
小中連携教育のうち小・中学校段階の教職員が目指す子ども像を共有するとともに、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育	
義務教育学校 <ul style="list-style-type: none">・ 9年制の学校 (前期課程6年、後期課程3年)・ 校長はひとり(教頭等が複数置かれます)・ 教員は原則として小学校と中学校の免許を併有(当面は併有しなくても可)	小中一貫型小学校・中学校(併設型) <ul style="list-style-type: none">・ 小学校と中学校の枠組みはこれまでと同じ・ 校長は各学校にひとりずつ・ 教員は各学校に対応した免許を保有

※義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校(併設型)のどちらであっても、施設の形態は、施設一体型(小中学校の校舎が一体的に設置されている形態)、施設隣接型(小中学校の校舎が隣接して別々に設置されている形態)、施設分離型(小中学校の校舎が隣接していない敷地に別々に設置されている形態)のいずれの形態もとることができます。

(2) 第2回検討委員会における小中一貫教育に向けた意見

義務教育学校か、小中一貫型小学校・中学校（併設型）のどちらが長瀬町の地域性に適した教育環境であるか検討しましたが、慎重を要する議題であるため2回の委員会では結論ができませんでした。

今後、更なる論議を深め、小中一貫校の施設及び整備等に伴った一貫校にふさわしい特色ある教育内容等について検討していきます。

なお、これまでの委員会が出された意見は以下のとおりです。

図表：小中一貫教育の形態に対する意見

委員	意見内容
A	小中一貫型がよい。学校施設は行政責任で建替えを行うべきである。
B	義務教育学校がよいと思っていたが今の運営形態にもよいところはある。卒業式などの教育の節目となる式典は必要と考える。子どもたちに文化を伝える学校であるべきだ。
C	小中一貫型がよい。学校に図書館などを整備して児童生徒以外でも地域活用していくべきと考える。
D	義務教育学校がよい。学校施設は今の形態を維持し、別々に建替えるべきである。
E	小・中・高の一貫校が流行っているので一貫校がよい。学校施設整備は将来に負の遺産を残さない配慮が必要である。
F	義務教育学校がよい。教育はマンパワーである。教職員が少ないとパワー不足となるので、地域で教育力を上げる取り組みが必要である。
G	義務教育学校がよい。ひとつの校舎で9年間はよいことがある。上級生を目の前で見ることができる。
H	小中一貫型がよい。財政の見通しが立つなら学校施設を建替えるべきである。学校の運営形態を子どもに聞いてもわからないと思われる。
I	小中学生を対象にスポーツ連携を行っている。指導者が変わると子どもの成長につながるのので小中一貫型がよい。学校施設の改修にはあまり費用をかけない方向で検討する。しかし、体育館を児童生徒数で建替えると施設規模が小さくなる。体育館にはバスケットコートが2面はほしい。児童生徒が同じ校舎で生活することに不安を感じる。
J	小中一貫教育に賛成する。校舎は同じ敷地内で小中学校を別々に建て替え、連携を図れる。
K	義務教育学校がよい。予算があれば併設型で建替えを行う。学校運営の連携を行いながら地域の魅力づくりを考える。体育館の暑さ対策を行うと共に、十分な広さの確保が必要。
L	教職員と保護者の意見を丁寧に聞く必要がある。義務教育学校か小中一貫教育か判断がつかないが、建替えは行うべき。

また、検討委員会の詳細については長瀬町ホームページの「長瀬町小中一貫教育検討委員会について」に会議資料や会議録を記載しておりますのでご参照ください。

■長瀬町対象ページのアドレス

<https://www.town.nagatoro.saitama.jp/life/長瀬町小中一貫教育検討委員会について>

右の二次元コードからも
対象ページにアクセスできます。



町 HP 二次元コード

(3) 検討委員会からの提言

小中一貫教育に向けた方向性を導き出すためには、「長瀬町らしさ」について更なる議論を深める必要があります。

教職員が感じる長瀬町が町外の学校より優れている点として、「自然が豊かで、人柄がやさしく、行政規模も小さいことから町全体で子どもを育てている実感がある。」との意見は、教育環境において、まさに「長瀬町らしさ」のひとつであると思われます。

また、委員より、「長瀬町の学校運営は、既に併設型の小中一貫型教育の仕組みに近いことを実現しているのでは」との発言もありました。

児童生徒の減少が止まらない現状において、教育の質を高め、特色ある教育と学校施設整備に向けた検討が引き続き必要となっています。

10. 長瀬町小中一貫教育に係る研修会の開催

日時：令和7年3月18日（火）午後6時開会

会場：役場3階 大会議室

講師：埼玉県教育局北部教育事務所副所長兼秩父支所長 市川篤史先生

出席：教育委員、小中一貫教育検討委員会委員、小中学校の教職員など約40名

【講話】

埼玉県教育委員会から初任者向けに「教師となって第一歩」というのを毎年ご案内しており、小中一貫教育について分かり易く取りまとめているので、その中からかいつまんで説明します。小中一貫教育とは、小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育のこと。

小中一貫教育が求められている背景としては、小学校から中学校に進学する際の接続が円滑なものになっていないことが考えられます。児童が小学校から中学校へ進学する際に、新しい環境での学習や生活に移行する段階で、いじめや不登校等が増加する、いわゆる「中1ギャップ」が指摘されることがあります。

（出典：令和6年度「教師となった第一歩」埼玉県教育委員会）

【小中一貫教育の推進に至る経緯】

小学校と中学校の連携について検討されるようになったのは、平成22年の中央教育審議会での答申『新しい時代の義務教育を創造する』において、義務教育の質の向上が求められました。すでに平成11年から中高一貫教育の重要性について叫ばれるようになっていましたが、その推進においては、小学校と中学校、そして幼児期の教育と小学校というように、学びや育ちの連続性で捉えることの必要性が示されました。

このあたりからかなり埼玉県の中で、グローバル化や情報化の進展、核家族化や少子化の進行といった社会状況が急速に変化するなかで、学校の現場でも児童・生徒を取り巻くさまざまな課題が多様化・複雑化しており、その解決には、幼保から小、そして、中、高と連続した教育が必要であると示されました。

（出典：文部科学省『新しい時代の義務教育を創造する（答申）』）

【小中一貫教育が必要とされている問題点・課題点】

- ① 新しい環境での学習や生活に不応を起す。「中1ギャップ」
- ② 学習・生徒指導面での小・中学校の接続が円滑でない。
- ③ 上級生や教職員との人間関係の変化による不安も影響されている。

（出典：文部科学省『小・中学校間の連携・接続に関する現状、課題認識』
『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』）

【小中一貫教育の目的】

- ① 小学校から中学校への接続を円滑化する。
学習や人間関係といった環境の変化を軽減し中1ギャップの解消につなげる
各児童・生徒の発達に合わせた指導を行う
 - ② 児童・生徒がさまざまな教職員、児童・生徒と関わる機会を増やす。
地域コミュニティの弱体化、核家族化、少子化の進行による人間関係の固定化
かかわる相手を増やすことで学びの機会や視野を広げる
 - ③ 教育内容や学習活動の量と質を向上させる。
小学校と中学校の教員が連携することで、9年間の義務教育の全体像を把握する
長期的な視点から学習・生徒指導の工夫に取り組む
- ※小学校の良さを中学校に、中学校の良さを小学校にという、お互いの良さを合わせていける。

(出典：日本教育新聞)

【小中一貫教育に期待できる効果】

- ① 中学生の不登校出現率の減少。
- ② 市町村または都道府県独自の学習到達度調査、全国学力・学習状況調査における平均正答率の上昇。
- ③ 児童・生徒の規範意識の向上。
- ④ 異年齢集団での活動による自尊感情の高まり。
- ⑤ 教職員の児童・生徒理解や指導方法改善意欲の高まりや意識面の変化。
特に小学校段階の中学生の先輩の良き振る舞いなどを学ぶことができたり、先輩である中学生も後輩である小学生の前でしっかりしなければならない。お互いの規範意識の向上が見込める教職員の児童・生徒理解、そういった部分を高めることができたり、指導方法の改善による意識面の変化も望めるのでないか。

(出典：日本教育新聞)

【埼玉県内ではどんな施設があるのか】

- ・施設一体型小中一貫校

坂戸市立城山小学校と城山中学校が埼玉県内では初の小中一貫校となる。

- ・義務教育学校

春日部市立江戸川小中学校が埼玉県内では初の義務教育学校となる。

その後、日高市で義務教育学校（日高市立武蔵台小中学校・日高市立高根小中学校）2校が開校した。

【法的な位置づけとして】

- ① 施設一体型小中一貫校

坂戸市立城山小学校・城山中学校は、通常の小・中学校の範囲での連携。

② 義務教育学校

学校教育法が平成 27 年に一部法改正により、義務教育学校という制度が創設され、小学校と中学校の教育を一貫して提供することを目的として、平成 31 年に春日部市立江戸川小中学校が創立令和 5 年と 6 年に日高市立武蔵台小中学校、日高市立高根小中学校の 2 校が創立された。

③ 校長

坂戸市立城山小学校・中学校は学校ごとに校長先生 2 名のところ、校長先生が兼務しており 1 名となる。

④ 複数教職員

教職員は小学校と中学校を合わせた形になるので、小中一貫校も義務教育学校も教頭先生 2 名、養護の先生 2 名、事務の先生 2 名となっている。坂戸市の場合、校長先生が兼務なので小学校に他 1 名加えることができる。義務教育学校でも同じ仕組み。

⑤ 定数

小学校 1 校と中学校 1 校を義務養育学校 1 校に移行する場合、統計としては同じ定数となり差はない。日高市の義務教育学校は前期課程を小学校で 6 学級、後期課程を中学校で 3 学級、それに特別支援は前期にあたる特別支援ということで知的 1 学級と自閉症 1 学級で 2 学級後期にあたる特別支援ということで知的 1 学級と自閉症 1 学級で 2 学級、全部合わせて 13 学級となり、13 学級にあたる定数の計算で教職員の配置が決まる。これが通常の学校の配置と変わらない。

【特色ある教育】

- ① 坂戸市では 9 年間を、発達段階の 4 (1～4 年)・3 (5～7 年)・2 (8・9 年) 制で設定している。1 年～4 年を 45 分授業、5 年～7 年までを学級担任制と教科担任制の授業の内容を 45 分と 50 分の授業の組合せをして併用している。同じようなことを春日部市と日高市でも行っている。
- ② 春日部市では 2～6 年一部教科担任制、5・6 年 50 分授業、1・2 年英語タイムがあり異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される。日高市では 7～9 年 50 分授業、同様に異学年交流に期待。
- ③ 日高市立武蔵台小中学校では、5 年生から部活動への入部を許可している。部活動は中学校のものだけではない。小中一貫校であれば柔軟に取り入れることでそれが可能となる。
- ④ 日高市の 2 校では「ふるさと科」という総合的な学習の時間を核とした新教科を設けている。文科省の教育課程の特例校と同じ扱いで、上限 10% の範囲で実数の増減ができる国語を何時間か減らし、理科を何時間か減らすなどで、総合時間に上乘せするなど義務教育学校では行うことができるということで、日高市ではウリにしている。
- ⑤ 日高市立武蔵台小中学校では、制服自由化となっている。

【期待される効果】

① 自尊感情の育成

多様な異学年交流を工夫することで自己肯定感が生まれ、下級生への慈愛や利他の心、上級生への尊敬や畏敬の念が育まれる。

② 小中を一体として捉える教育の推進

「目指す15歳像」を設定してその実現を目指すためには、小中の教職員が所属感を学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して臨むことが重要である。そのためには組織体としての一体感を醸成し、義務教育9年間の系統性・連続性を重視した教育課程の構築が必要である。

③ 小中ギャップの緩和・解消

小学校と中学校間の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中1の壁や小中ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する効果が期待される。

④ 異学年交流による精神的な発達

1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待される。

⑤ 継続的な生徒に対する指導

小学校と中学校が1つの学校という意識を持ち、9年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個に応じたきめ細かな丁寧な生徒指導が可能となる。

【課題】

① それぞれの小学校、中学校は別々でしたが、新年期から一緒になるというときに、小学校で行っている行事、中学校で行っている行事をどうやってすり合わせていこうか、そういったところの準備にはかなり時間を掛けたり労力が必要であったと聞いている。

② 委員会活動なども小学校の高学年から委員会活動がありますが、中学校の委員会活動と合わせた形で新しいものを作り上げていく。

③ 制服について、日高市の武蔵台中学校では制服は自由化という形にしている。ただ、小学校と同じ流れで中学校になっても私服でというのなかなか難しいという問題も出てきているという話を聞いている。高根中学校と江戸川中学校は後期課程にあたるところで制服としている。一応、卒業式はないが前期課程修了式というもので区切りをつけている。

④ 先生方の意識改革ということの難しさであったり、免許状の関係で義務教育学校は原則、小学校と中学校の教員免許を有することが求められる。中学校の美術の先生が美術の免許を持っていれば小学校の図工を教えることができる。中学校の音楽の先生が小学校の音楽を教えることができる。どちらかの学校の兼務をするだとか、そういうことはせずに小中一貫校の中だけでやりくりできる。ただし、技術・家庭の技術の部分とかそのあたりは非常に悩ましいかなと思います。そこは特別支援のところに入って時間をある程度カウントするだとか、うまく工夫をしていかないとなりません。

【質疑応答】

質問 1	中学校の先生は上級免許を持っていれば小学校を教えることが可能だと言うお話を頂きました小学校の先生の中にも中学校や高校の免許をお持ちの先生がいらっしゃると思いますそういった先生方は、一番心配なのは小学校で採用されているから中学校で教えて良いのかなという疑問に思うところがあるのですが
-------------	---

先生方の中でやってみたいという気持ちがあれば、それをくみ取って相談しながら進めていく。

質問 2	私は小学校の免許しか持っていないですが、その場合は義務教育学校で勤務することは難しいということになりますか
-------------	--

原則、小中学校の免許を持っていることになるのですが、当分の間はそれぞれ1つの免許で可能だということも明記されている。ですので先生が小学校の免許をお持ちであれば、義務教育学校とすれば前期課程を専門に授業を行って頂くこととなりますが、同じ学校の中に教え子がいるので授業以外で関わっていくこともできます。

質問 3	小中学校で先生方の持ち時間というものが違う 小中学校となった時に学校の中で先生方の持ち時間の差が出たときに何か問題になっていることがあるのか
-------------	---

今の小学校や中学校での学校の規模が変わってくる。
一般的には小学校の先生の持ち時間が多く、中学校の方が小学校より少し少ないというのが統計的な数値です。

質問 4	小中一貫校を進めていくうえで何か最大の課題なのか 財政的な面は相当難題になるだろうがそれを除いて先生が予想される課題は何でしょうか
-------------	--

日高市に聞いてみましたが、それといった課題はないと言っていた。
しいて言うなら、そこに行くまでの間に小中学校の先生は不安を抱えていた大丈夫なのか？それが大きな課題になっていた。始まるとそのようなことは言ってもらえないし、半年もする内に良かったねと、そこまでに至るまで非常に不安である。

質問 5	PTAはどう運営されているのでしょうか
-------------	----------------------------

義務教育学校はPTAは一つである。

質問 6	先生の負荷をいかに下げられるか 小中一貫校と義務教育学校とは先生方の業務課程は変わるものなのか
-------------	--

先生の負荷の部分ということでは、いろいろお話を伺っている中で差はほとんどない。
子供たちにとって行っていることは同じことで、それがそれぞれの学校の違いだけである。
城山小中学校でいうと義務教育学校ではないがやっていることは義務教育学校と同じことをしている。

質問 7	義務教育学校の準備期間がどれくらいあってスタートしているのか
------	--------------------------------

準備期間については情報として聞いていないので、確認次第にお知らせする。

【参考資料「内外教育」2025.3.4 から】

■石川県珠洲市立宝立小中学校

小学校へ入学したところから卒業するまでの9年間に、ふるさとを題材にして学ぶ「ふるさと珠洲科」の学習を実施している。

その学習を通してふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的としている。

長瀨町に置き換えれば、その地域の良さであったり課題や問題点であったりそれを小学校段階から系統的に学び、そしてそれが卒業した後も地域活動や町おこしなどに繋がっていくのではないかと期待できる。日高市ではそれを意識している。

人口減少であったり、そういったところに現実的な課題について、小中学校段階で取り組んでいきたいということが書かれている。

11. 坂戸市と日高市への学校視察の実施

■坂戸市 城山学園（小中一貫型小学校・中学校）

日時：令和7年5月16日

参加人数：11名

長瀬町教育委員会 2名 検討委員会委員 9名

坂戸市教育委員会 2名 城山学園教職員 2名

内容：資料説明、学校見学、質疑応答

■日高市 武蔵台小中学校（義務教育学校）

日時：令和7年5月21日

参加人数：11名

長瀬町教育委員会 3名 検討委員会委員 6名

坂戸市教育委員会 2名 城山学園教職員 2名

内容：資料説明、学校見学、質疑応答

【坂戸市 城山学園（小中一貫型小学校・中学校）の特徴】

- ・ 施設一体型の為、中学生が小学生の良いお手本になっている。
- ・ 地域住民からの評判が良い。
- ・ 不安要素無く中学への進級を感じている。
- ・ 生徒一人ひとりに目が行き届く。（一番多いクラスで18名）
- ・ 中学校教員が小学校高学年授業一部に関わっている。
- ・ 地元学校応援団 大学との連携。
- ・ 入学式、卒業式は1年～9年生全学年で行う。
4月から中学生になる子供達は卒業式後1週間（終業式までの間）程学校に通い、中学校への準備期間としている。
- ・ 運動会、音楽会も1年～9年生全学年で行う。
中学生（の歌声）から大きな影響力があると感じる。
- ・ 近隣住民の方々に通学路の除草・昇降口 植栽等の手入れ整備をボランティアにて行って頂いている。
- ・ 大豆造り体験 弓削田醤油
- ・ 近隣大学の学生に来ていただいて合同部活動練習、校舎見学。
- ・ 中学校教員が5・6年生の授業を受け持つ。
50分授業、中学校教員に慣れてもらうことで中一ギャップ対策に繋がっている印象。
- ・ 小学生5年生から部活動への参加を許可することで中学生との交流に繋げている。
しかし、中学生数が少なく、部活動は成り立っていない背景もある。

- ・ 文化部以外は小学生が所属している。
人数による存続は今後の課題としている。
近隣のチームと合同にての活動も行っている。
- ・ 中学校は1クラス 各教科の先生の持ち時数が少ない。
小学校には理科専科が在中。
小学校専科指導の充実。
- ・ 中学校にはスペシャルサポートルームがあり、毎日毎時間希望の授業を組んでいる。

【学校見学】



【質疑応答】

質問 1	通学についてはどのように変化がありましたか
<p>従来と変わらず基本的に徒歩通学としている。</p> <p>一部特認校制度を採用（市内外からの生徒）</p> <p>小学校 3名 保護者の送迎</p> <p>中学校 2名 1名保護者の送迎 1名自転車(特例)</p> <p>少人数での手厚い制度に魅力を感じている親御さんからの支持を感じている。</p>	

質問 2	西校舎プレハブについて 元々の中学校の規模感で賄えると思うがあえて建てた意図はなんですか
<p>体の大きさに合わせたつくりとしている。</p> <p>水道の高さ、トイレ等、中学校仕様は暮らしづらいと判断したため。</p>	

質問 3	空き家になっている小学校の 10 年後はどうなっているイメージか 現状空き家になっている箇所があるとのことですが維持管理はどうなっていますか
<p>教育委員会から現在離れてしまっている。 定期的な警備等は確認できていない。 そのままでもいいかというところに関しては地域住民の声はあるのではないかと感じている市全体の課題として捉えている。 小学校に限らず市内にある公共施設跡地に向けた跡地利用検討委員会があります。 そちらで協議していく形になります。</p>	

質問 4	当初施設が小学校、中学校で分離していたと思うが H27 から一体型になった経緯は何かありますか
<p>H20 に施設一体型のモデル校がいいのではないかと提言が出てきたところから始まっている。</p>	

質問 5	校長先生がこの規模での兼務が続き、慣れてしまい、このままで良いのではないかと教育委員会でなった場合、教頭への委任の可能性はありますか
<p>教育委員会から 現校長で 4 代目となるが決裁について軽微なものは兼務している。 代理出席が許可されていない研修等は見直して頂きたいと感じている。 時間外勤務について、80 時間を超える等は現状無しで副校長などの検討はしていない。</p> <p>校長先生から 教務主任がいる為、協力し合っている。 小学校文化、中学校文化が未だあり日課表等など完全に一体化し工夫、改善など行ってきたい。</p>	

質問 6	現時点では義務教育学校への移行していく必然性は感じていないというお話から先生達の目線、子供達の目線では移行への考えはどういうものがありますか
<p>義務教育学校への取り組みはまだ走り出しているという印象がある。 こちらではあんまり知見が得られていない。 義務教育学校の良さは教育課程を変えられることだと思っているが実績による良さ等の判断材料がまだ得られていない。 今のところはこのままでも良いと思っている。 もしも 10 年前の検討会での義務教育学校という選択肢があった場合には義務教育学校になっていた可能性も考えられる。</p>	

質問 7	最大の課題はなんですか
<p>教育委員会から 人数の少なさへの課題。 部活動に活発化が難しい。 市役所があるなどと違いアクセスがづらい。 クラス替えができない。 固定された人間関係によって気分を変えたりが難しい。</p> <p>校長先生から 地域制も併せて家庭の事情も様々で、協力を得辛い生徒も中にはいる為、生徒指導等で苦慮するケースもある。 小学校の内容の提案、中学校の内容の提案、小中合同の内容の提案をまとめるのに時間が掛かる。</p>	

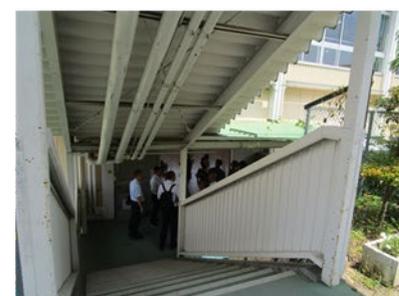
【その他の意見】

動きが違うため教員全員が揃う時間が無い。
 朝、放課後等に会議や意見交換の場を作りづらい。
 小学校の先生の生徒に対する思い、中学校の先生の生徒に対する思いの違い、運動会にしてもそれぞれ先生方の思いを抑えて頂いたり、説得して頂いたり積み上げてきたもの、今の形に収まるまでに 11 年目で自然になっていった。
 義務教育となるとまた別ですが折り合いを付けていくことが大切。

【日高市 武蔵台小中学校（グランドデザイン）】

- ・ 武蔵台地区として育てたい児童生徒像：たくましく未来を切り拓き一步上を目指す台っ子
- ・ 経営理念：みんなが笑顔になる学校づくり
- ・ 特色ある教育活動：児童生徒会活動を中心とした異年齢交流活動
地域の教育力を生かした教育活動
前期課程における一部教科担任制
- ・ 目指す学校像：「地域に愛され、みんなが笑顔で安心して過ごせる学校」
- ・ 目指す教師像：「実力があって信頼される教師」
- ・ 学校教育目標：自立 かんがえる子じょうぶな子
創造 かんどうする子
共生 なかよくする子
- ・ 9カ年カリキュラムに基づく一貫した指導・学びの連続性の重視
1年～4年（基礎・基本の定着）、5年～7年（基礎・基本の拡充）
8年・9年（発展・活用） 9年間を見通した教育

【学校見学】



【質疑応答】

質問 1	城山学園を視察後に参考にした点等がありますか その他検討した事案がありますか
	<p>城山学園含め、浅野学園含め、義務教育学校、小中一貫校どちらも視察した結果先生方の意識の違い、小学校には小学校の文化、中学校には中学校の文化がある。</p> <p>その文化の違いを割ることが生徒達にとって一番都合が良いことなのかどうか考えた時に日高市の場合はそれを一緒にすることによって1人の校長で1年生～9年生までカリキュラムを組んでお互いに助け合ったりするそういうことを意図してやってきた。</p>

先生方の意識改革、教職員の色々な意見を取り入れていきながら1つの大きなまとまりを作り上げたここが一番の大きな違いだと思います。

ただ城山学園の教育を中に入って体験したわけではないのでなんとも言えませんが日高市はそっちの方がやりやすい、先生方の意識が向きやすいそういうかたちで義務教育学校にしたというのがあります。

質問 2 日高市が6地区の小中一貫教育を進める中で3つの義務教育学校、3つの小中一貫教育の流れで今に至りますが、規模の問題で義務教育学校にならなかったとのことですが、いずれは移行していくのでしょうか

いずれ R10、20 年、人数が減っていけば統合の話も現在出ています。

現在ある施設を生かすという面で現状は人数が減ってきてからの検討としています。

質問 3 名称が義務教育学校（後期）になっていない点について

子供たちにとって義務教育学校は長すぎる。

「義務教育学校」「小中一貫教育校」等は冠称として使用している。

質問 4 新しい教科、ふるさと科について
郷土に対する誇りなどは芽生えていますか

本校生徒はほとんどが団地から通学している。

保護者の方々はほとんど地域の特性を知らない中で、昨年の活動を通して生徒達の感想を見る限り、地域の特性を知ることが出来たと感じている。

今後は発展させて未来を提言させていくことが課題。

質問 5 ふるさと科は週何時間と決まっていますか

生活科と総合科を合わせている。

年間約 70 時間として行っている。

質問 6 運動会での退屈を感じない様になっている工夫はありますか

基本午前中での開催としている。

1 年生の種目の時は 9 年生が補助にあたる。

リレーなど全学年合同の種目も取り入れている為、退屈を感じない様になっている。

質問 7 PTA について小学校、中学校で体制の違いはどのように解決しましたか

開校前年度に「持続可能な PTA にしよう」を前提とし、出来る人は出来ることをやって、負担をかける様にならなう。

内容の見直しをした上で必要最小限のピックアップ、すり合わせを行いました。

どちらに合わせるという考えではなく、ゼロベースで 1 から考え直しました。

質問 8	PTAについて小学校、中学校で体制の違いはどのように解決しましたか
<p>義務教育学校、小中一貫校どちらにするかの議論の中で内容の見直しをした上で必要最小限のピックアップ、すり合わせを行いました。どちらに合わせるという考えではなく、ゼロベースで1から考え直しました。</p>	

質問 9	義務教育学校、小中一貫校どちらにするかの議論の中で「1つの学校としてやるのが大事なこと」としていましたが1番の課題としていたことはなんですか
<p>子供達はすぐに順応できたが教職員の意識が向きづらいというのがあった。品川学園にR2視察時に校長先生が言っていたのは、やはりどうしても教職員同士がギクシャクしてしまうという点がある。</p> <p>中学校教員が部活に出る時に小学校教員がお菓子を食べている。小学生がうるさい、という声が聞こえてくることを問題視していた。</p> <p>「1つの学校」であればそのような問題は起こらないのではないかと考えた。開校時から伝え続けることで次第に先生方の意識が徐々に変わっていった。そのような意識改革は行っている。</p>	

質問 10	教員免許への弊害はありますか
<p>特に感じてはいません。</p> <p>日高市全体にて希望者へは通信制度や夏休みの集中講座など助成金制度があります。</p>	

質問 11	開校1年を経て制服自由化について保護者の意見はどんな内容ですか
<p>開校後約半年後に保護者向けアンケートを行った結果、心配な点として「正装が分かりにくい」という意見があり、行う上で課題として1つは冠婚葬祭（TPO）についてこうしなければならないという指導ではなく、どう思うかを投げかけ、問いかけを行っている。</p>	

質問 12	中学3年生はどのような服装で入試に行きますか
<p>今までの制服やお下がり等、いっさい制服が無い生徒については、制服もどきを提案、保護者支援できるよう準備途中です。</p> <p>昨年度の音楽会では8割が今までの制服やリサイクル品を身に着けていた。</p>	

質問 13	義務教育学校になってから不登校生徒についての変化や良かった点等がありますか
<p>現時点で成果といえるものはありませんが、教員側としては全職員が把握できる状況になったといえる。</p> <p>全生徒と全教職員が関わる様に制度が成り立っているため、今後不登校生徒の数も減っていくのではないかと考えている。</p>	

12. 小中一貫教育に係るワーキンググループの開催

(1) ワーキンググループ メンバーの意見

検討委員会では、委員の長瀬町小中一貫教育に向けた思いを整理し、委員会当日の議論をより充実したものとするために、事前課題を用意し配布をしました。

委員会当日は、その事前課題を用いて A・B・C の3つのグループに分かれて討議を行いました。

【課題1】一貫教育で期待できることはなんですか

一貫教育で「何がしたいか」から、新しい学びの場として「何ができるか」を考え活用イメージを具体化する。

【課題2】長瀬町の小中一貫校の設置形態

小中一貫教育を実施するには、どのような形が望ましいと考えるか？

Aグループ	一貫教育で期待できることはなんですか
	<ul style="list-style-type: none">・9年間の一体的教育・教員間の連携強化による教育効果の向上(特色ある教育)。・小学校課程高学年における教科担任制による専科教育の充実。・小学校・中学校の教員の相互乗入れ授業の展開。・長瀬町の教育理念を活かした小学校・中学校の系統性及び連続性を活かした教育活動の展開。・総合的な学習時間における「ふるさと学」「長瀬学」の充実。・地域教育力の活用(大学・公的研究機関等との連携・分野別人材バンク)。
	<ul style="list-style-type: none">・ふるさと教育を充実させたい。 9年間を見通した計画で、長瀬の歴史、文化、観光など探究的な学習を実現し、長瀬の良さを学べる。・小中合同の学校行事を行う。 合同で体育祭や文化祭などを行うことで人間関係を広げたり、成長した自分をイメージできる。・不登校児童生徒を減らしたい。 児童と生徒、小と中の職員がつながることで、中1ギャップを少なくできると考える不登校の減少や児童生徒の支援の充実を図ることができると考える。
	<ul style="list-style-type: none">・長瀬の自然、歴史、観光を教科書にする。 地域全体を学びの場とし、主に地域の専門家や観光業者と連携し実社会とつながる学びを9年間で継続的に行うことができると考える。 具体的には、まず長瀬町がどんな町なのか調べる。・ジオパーク学習(理科、地学、実地観察、体験)。・STEAM教育(地形、川の流れ)。・自然防災教育(河川氾濫、土砂災害、避難シミュレーション)。・歴史、文化を探求(町、地域史を小中連携で、地元の伝統や文化を知る方々にインタビュー)。・観光資源を活かした実践的なキャリア教育(ライン下り、宝登山、秩父鉄道→実社会に近い学び)。

<ul style="list-style-type: none"> ・観光英語（外国人観光客向けの案内パンフレット、英語ガイド動画を児童生徒が作成）。 ・SDGs観光教育（自然と共生する観光→ゴミ問題、エコツーリズムを考える） 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性（自然、文化、歴史）を生かし、郷土愛と探究心を育てる。また、新たな特色を持つようになれば良いと考えます。 ・長瀬の自然を題材に理科、歴史、外国語を合わせた探究授業。 ・子どもたちを中心にした新しい特色の創出（〇〇町、〇〇の学校など）。 例：バスケの街能代 ニュースポーツ、モルック ・小中合同の活動の実施（学校、教師間の連携等の強化）中学生が小学生に勉強を教える時間を設ける。 	
<p>※ 部活動については、地域移行や体力、身体の差が大きいので注意</p>	
Bグループ	一貫教育で期待できることはなんですか
<ul style="list-style-type: none"> ・私は、この一貫教育で「豊かな自然体験活動を通しての長瀬を誇りに思う人づくり」をしたいと考えています。長瀬は地質学の聖地であります。 また、荒川を拠点として水辺活動が盛んです。 更に、宝登山を中心に軽登山としてもメッカとなっています。 長瀬らしさは、この環境を活用した「長瀬学」の学びをすることで実現化できると考えています。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・私は一貫教育で、9カ年を見据えた長期的なカリキュラムの作成と実行を考えています。長瀬らしさとしての縦割りによる知識や伝統の継承、きめ細やかな学習支援・指導、地域の中の子供たちとしてのふるさと教育の充実などを活用することで、一町一枚のメリットを実現できると思います。 ・具体的には、異年齢の繋がり強化、少ない人数だからこそその集団所属意識の向上、地域の教育資産（人、物、施設、観光など）の重点的な活用などから、長瀬町全体で子供たちを育てる意識が高めることができると考えます。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・私は小中一貫教育で、「自分の住む地域を教材として学ぶ学習」を行いたいと考えております。 具体的には、身近な自然体験、地域の産業や伝統文化を9年間通して学ぶ。 例えば、小学校で幅広く体験や見学を行い、中学校でそれぞれのテーマで調査し、まとめ、発表する。9年間一貫して行うことにより、テーマを深めたり、成長に応じた探究ができる。 自ら課題を見つけ、調べ、考え、表現することにより、子ども達の主体性を育みながら、郷土愛も芽生えると思います。 	
Cグループ	一貫教育で期待できることはなんですか
<ul style="list-style-type: none"> ・子供達が長瀬ならではの体験を通じて、地域の方と交流し、ふるさとの誇りを育て、守り発展させるための学習ができることを期待します。 ・具体的には、長瀬ならではの体験→自然豊か、川のレジャー、岩畳、宝登山神社。 ・縦割り班でテーマを決めて更に深ぼり学習。 ・必要に応じて地域の方に講師となってもらう。 ・低学年から英語学習で長瀬町の良さを英語で表現できるように。 ・外国人観光客に英語でツアーガイドができる英語力を育てる。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・長瀬町の自然環境ふまえた、環境保全のとりくみ。
<ul style="list-style-type: none"> ・教育従事者でない為、小中学校での年間で学ぶ内容・時間等の制限の有る中で新しい事にどの位の時間が取れるのか実感が湧きません。 <p>その中でも、フィールドラーニングや国際教育（英語他外国語）などの今後必要となって来る（現状も行われていると思います）機会や時間が増えて行く事を期待します。</p> <p>又、小中合同で夏休みなど期間を利用し防災キャンプなども交流を深めながらの体験学習なども出来るのではと考えます。</p>

Aグループ	長瀬町の小中一貫校の設置形態
<ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型（併設型）小中一貫校（義務教育学校との折衷）。 ・小学校と中学校の施設を同一敷地内に設置し、9年間を一体的に教育する。 ・将来的には義務教育学校にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型の小中一貫校が望ましいと考える。 ・小中が同一の建物にあることで、連携がしやすくなる。 ・費用が抑えられる。（分離型よりも）
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を実践するにあたり、上記で記した内容を実施するには、義務教育学校が適しているのではないかと考える。 <p>小中一貫教育ならではの各学年の発達に応じた継続的な学びを実現するために、9年間で計画できる。それには、現社会の発展に応じたICT連携学習の強化は必須だろう。</p> <p>義務教育学校のメリットと思われるものをあげてみた。</p> <p>【メリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校運営計画や教育課程を一体的に編成できる。 ・9年間の学びを6-3制ではなく、他実施校の4-3-2制のように再編が可能。 ・中学内容の先取りや、小学校での理解不足の補修がしやすい。 ・総合的な学習の時間が小中連続したプロジェクトで組み込むことができる。 ・小中教員の連携が強化され（申し継ぎ申し送り不要）、児童生徒の理解の継続性が保てる。 ・異学年交流が増え、学習のサポートや責任感向上、情操教育の場となり協働力の養成につながる。 <p>【デメリット】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中教育の考え方、意識の違いにより生じる摩擦。 ・小学低学年生と中学高学年生の発達段階の違いから生じるトラブルの発生。 ・保護者、地域住民の不安感や反対意見。 ・カリキュラムの複雑化や一貫になったことによる学力差の拡大リスク。 ・学校行事の小中すりあわせの難しさ。 ・新校舎の新設費用。 	

<ul style="list-style-type: none"> ・長期的にみると“義務教育学校”が望ましいが短期的にみると“小中併設型”（施設一体型）のほうが有効であるように感じます。 小中併設型でスタートし、最終型として将来“義務教育学校”に移行する二段階方式が望ましいのではないのでしょうか？ （メリット・デメリットはありますか） ・一度に変えるのではなく合同行事や共同カリキュラムで段階的に慣らすようにすれば、保護者や地域の人たちの理解も得られるのではないかと。
Bグループ 長瀬町の小中一貫校の設置形態
<ul style="list-style-type: none"> ・長瀬町小中一貫教育検討委員会中間報告書にも示されている様に、財政面を考え、現在の長瀬中学校に義務教育学校として設置する形態が望ましいと考えます。 ・その上で長瀬町の地域性に適した特色ある教育活動の展開を義務教育学校に期待しています。
<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校の設置形態としては、野上駅から近い、現長瀬中学校の敷地に同一校舎として設置することが望ましいと考えます。 ・交通の便が良いこと、現中学校の敷地を活用することができること。 ・役場(教委)が近いことなどが理由として挙げられます。 ・立地のよさ(樋口駅に近い、校舎の耐久性など)から、旧長瀬第二小学校の活用(第1学年～第2学年など一部の学年が使用するなど)も考えましたが、小中一貫校のメリットから考えますと、現長瀬中学校の敷地への新校設置が良いと考えます。
<p>施設一体型</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校を新設した場合の金額。 ・現行校舎を修繕する場合の金額。 ・どちらが安いのか？町の予算は？借金の拡大は避けたい。
<p>ハード面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな公共施設をまとめた複合施設型小中学校の新設。もしくは、必要最低限のミニマムな小中学校の新設。 ・入学式や卒業式を大事にしたいので、小中一貫型学校。 ・人材 BANK。 ・教育委員会主体で始める。
Cグループ 長瀬町の小中一貫校の設置形態
<p>施設一体型の義務教育学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縦割り班での活動を沢山取り入れて。
<ul style="list-style-type: none"> ・施設一体型義務教育学校が望ましい。 ・小学校と中学校が同じ校舎となる「施設一体形」が望ましいと思います。 <p>(理由)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中間の連携を深めスムーズな接続が図れ、問題として上がる中1ギャップの緩和・解消が期待出来る為。但し、今後生徒数の減少が見込まれる中、小中一貫校から義務教育学校への移行も議論して行く必要が有ると考えます。

(2) ワーキンググループ グループ発表

【課題1】一貫教育で期待できることはなんですか

Aグループ	一貫教育で期待できることはなんですか
	<ul style="list-style-type: none">・ 9年間の一体的教育・教員間の連携強化による教育効果の向上(特色ある教育)が期待できる。・ 合同の学校行事(体育祭・文化祭など)を合同で行い人間関係を広げ、成長した自分をイメージできる。・ 児童と生徒、小学生と中学生の職員がつながることで、子どもたちへの支援がより充実したものになるため、中1ギャップや不登校を減らすことができる。・ 観光資源を活かした実践的なキャリア教育やSDGs 観光教育などの長瀬町の地域全体を学びの場とし、地域と連携して実社会とつながる学びを9年間継続的に行える。・ 地域の特性を活かし、郷土愛と探究心を育てられる。
Bグループ	一貫教育で期待できることはなんですか
	<ul style="list-style-type: none">・ 「豊かな自然体験を通しての長瀬を誇りに思う人づくり」をしたい。 荒川や宝登山など環境を活かした「長瀬学」の学びをすることで実現化できると考える。・ 一貫教育で9年間を見据えた長期的なカリキュラムが作成実行できる。 具体的に異年齢のつながりの強化、少ない人数だからこそその集団所属意識の向上、地域の教育資産(人、物、施設、観光資産)の活用で長瀬町全体で子どもたちを育てる意識が高まる。・ 身近な自然体験、地域の産業や伝統文化を9年間通して学び、9年間一貫して行うことでテーマを深めたり、成長に応じた探究ができる。 子どもたちの主体性を育みながら「郷土愛」も芽生える。
Cグループ	一貫教育で期待できることはなんですか
	<ul style="list-style-type: none">・ 小中学校での年間で学ぶ内容・時間等の制限のある中で、新しいことにどの位の時間がとれるかわからないが、交際教育などの時間が増えることや、小中合同で夏休みなどを利用した防災キャンプなど体験学習などできるのではないかと期待できる。・ 長瀬ならではの体験を通じて地域の方と交流し、ふるさとの誇りを育て守り発展させるための教育ができることを期待している。 また低学年から英語教育を行い外国人観光客に英語でツアーガイドができる英語力を育てる。

【課題2】長瀬町の小中一貫校の設置形態

Aグループ	長瀬町の小中一貫校の設置形態
	<ul style="list-style-type: none">・施設一体型の小中一貫校が望ましい。 同一建物であれば連携がとりやすく費用も抑えられる。・長期的にみると義務教育学校が望ましい。・一貫教育で期待できることを実践するには、義務教育学校が適しているのではないかと思う。
Bグループ	長瀬町の小中一貫校の設置形態
	<ul style="list-style-type: none">・中間報告書にも示されているように、財政面を考え、現在の長瀬中学校に義務教育学校として設置する形態が望ましい。・交通の便が良い（野上駅から近い）、現中学校の敷地を活用し、小中同一校舎として設置することが望ましい。
Cグループ	長瀬町の小中一貫校の設置形態
	<ul style="list-style-type: none">・施設一体型の義務教育学校が望ましい。・小・中学校間の連携や接続が図れ、問題とされる中1ギャップの緩和、解消が期待できる。・今後生徒数の減少が見込まれ、小中一貫型小・中学校にした場合は義務教育学校への移行が必要ではと考える。

13. 小中一貫教育に係るワーキンググループの開催

(1) ワーキンググループの開催

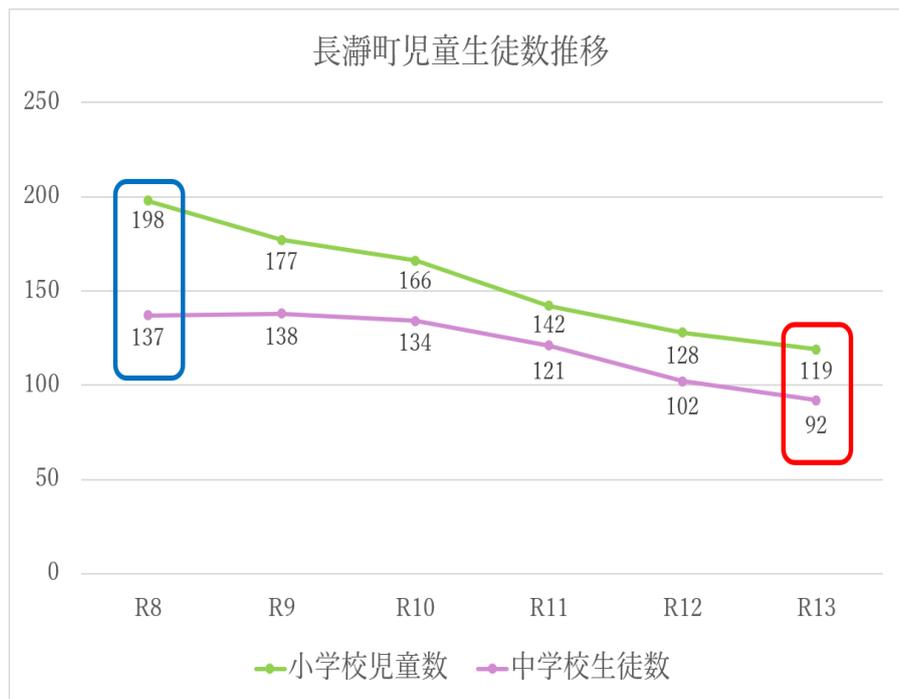
総合的に長瀬町の地域性及び、属性に即した魅力ある小中一貫教育の実現に向けて協議を行うため、改めて今までの経緯・経過として児童生徒数の推移や、配置される教職員数、施設の劣化状況や維持管理などの状況について確認をしました。

児童生徒数の推移や、施設の状況を踏まえて、施設分離型が相応しいのか、同一敷地内隣接型が相応しいのか、施設一体型が相応しいのか、増改築や新築なども含めてどういった学校施設のあり方が相応しいのかを考えるため、A・B・Cの3つのグループに分かれて討議を行いました。

(2) 経緯・経過の説明

1) 児童生徒数の推移

年々、児童生徒数が減少していくなかで、将来必要な学校施設規模を把握するため、小中一貫校の開校を令和13年度とした場合の推計を行いました。



① 小中一貫校の開始をR13年度とした場合

学校名	児童生徒数
長瀬第一小学校	119
長瀬中学校	92

② 各学校における教職員数

各学校における教職員数について、学校に配置される職員数は学級数を根拠に確定されます。小中一貫校の場合、小学校・中学校の学級数で決定されます。

【教職員数を令和13年度で仮定すると】

学校	学級(見込み)	職員定数
長瀬第一小学校	8(通常6・特支2)	11(校長・教頭・教諭) 養護教諭1・事務職員1
長瀬中学校	5(通常3・特支2)	12(校長・教頭・教諭) 養護教諭1・事務職員1
これを小中一貫とした場合	職員数は27名となる	

小中一貫校には上記の教職員が配置されます。

※校長を1名とした場合、もう1名分は教諭を配置することができます。

【ほかの学校施設の教職員数】

	A		B		C		D	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
通常 学級数	6	3	6	3	7	3	10	6
特支 学級数	2	2	2	2	3	2	3	2
職員数	11	12	11	12	13	12	17	16
養教	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	1	1	1	1	1	1	1	1
職員数 計	13+14 =27		13+14 =27		15+14 =29		19+18 =37	

追加での教員配置について、市町・学校の実態に合わせて、職員が配置される場合があります。

③ 小中一貫校が一体型の場合のメリット

- ・9年間で一貫したふるさと教育の実現
- ・中1ギャップへの対策
- ・小中学校それぞれの視点に立った児童生徒支援
- ・小中での一貫した学習指導が可能

④ 長瀬第一小学校と長瀬中学校の老朽化状況

長瀬第一小学校・長瀬中学校の状況としては、小学校が約 50 年、中学校も約 54 年が経過しており、屋根、外装、内装、設備とも広範囲にわたり劣化が進行しています。

昨年は漏水により天井の一部が落下するなど、改修工事を行っています。

そういうことから、今後、長寿命化改修工事はさけては通れないと考えます。

⑤ 学校給食センターの老朽化状況

学校給食センターは竣工後 44 年が経過し、その後は大規模な改修工事行われていないため、屋根、外装、内装、設備の劣化が進んでおり、特に排水管の劣化が著しい状況にあります。

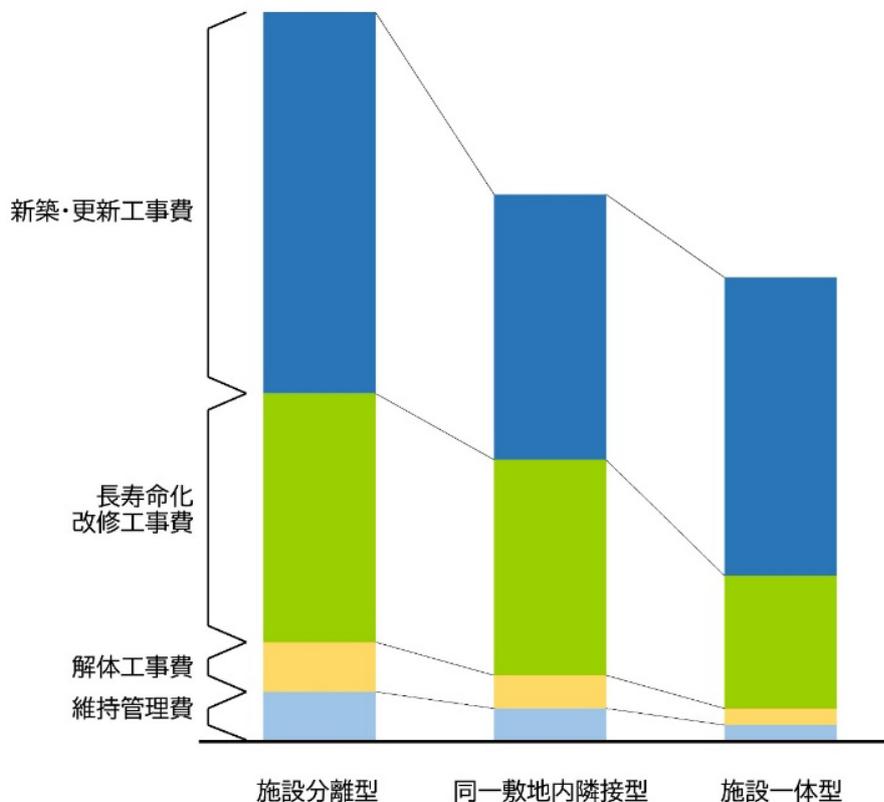
学校給食衛生管理基準を満たしていないため、早急な改築工事が必要になります。

⑥ 長瀬第一小学校と長瀬中学校と学校給食センターの施設について

・管理の効率化

将来、児童生徒の数が減少する中で、小学校と中学校と給食センターを目標使用年数まで維持し、その間に長寿命化改修工事など莫大な費用を掛けても、いずれそれぞれの建物が更新の時期を向かえて、建替えを行うのであれば、施設一体型へシフトすることで、財政的にも負担が軽くなります。

【小中一貫校の設置形態別のコスト比較】



(3) ワーキンググループ グループ発表

【課題1】児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について

Aグループ	児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について
施設一体型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同一建物の方が連携しやすい ・ 教育上のメリットが多い ・ 建設費用をおさえられる 体育館等はある程度の大きさが必要
Bグループ	児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について
施設一体型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中の交流がしやすい、児童生徒同士（ふるさと教育など）、教員同士（中学教師が小学校授業）、職員室が一緒 相談しやすい ・ 学習指導要領の改訂と時期の一致 ・ 施設分離型 → 老朽化にたえられない ・ 同一敷地隣接型 → 児童生徒の減少いずれ無駄になるかも
Cグループ	児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について
施設一体型	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給食センターも含めたもの 外部業者に頼むのもありか？将来的に高齢者向けの配食サービスもありか？ ・ 最小必要限の施設

【課題2】義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがよいか

Aグループ	義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがよいか
義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 補助金 ・ 教職員の定数
Bグループ	義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがよいか
義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中一貫校との差があまり感じられなかった ・ 補助金が厚いなら
Cグループ	義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがよいか
義務教育学校	<ul style="list-style-type: none"> ・ 義務…も小中も大差ないなら、カリキュラムを工夫してほしい ・ ふるさと教育に力を入れてほしい

(4) 長瀬町の小中一貫校の設置形態、教育形態について

総合的に長瀬町の地域性及び、属性に即した魅力ある小中一貫教育の実現に向けて協議を行う学校施設の集約化を検討するにあたり、学校が地域の防災拠点としての役割を担うことから、改めて今までの経緯・経過として児童生徒数の推移や、配置される教職員数、施設の劣化状況や維持管理などの状況について確認を行い、児童生徒数の推移や、施設の状況を踏まえて、施設分離型が相応しいのか、同一敷地内隣接型が相応しいのか、施設一体型が相応しいのか、増改築や新築なども含めてどういった学校施設のあり方が相応しいのかを考えるため、3つのグループに分かれて討議を行いました。

1回目のワーキンググループでは、長瀬町の小中一貫校の設置形態について討議した結果、施設一体型が望ましいという3グループからの共通意見でした。

教育形態としては、小学校と中学校の施設を同一敷地内に設置して、小中一貫型併設校で進める。最初から義務教育学校だと、地域の方の抵抗があるだろうから、だんだん慣れてきたら将来的に義務教育学校に切替える。という意見でした。それと、施設一体型の義務教育学校が望ましい。という意見に分かれました。

2回目のワーキンググループでは、今までの経緯・経過を確認しそれを踏まえて、改めて討議を行った結果、3つのグループとも共通して、施設一体型の義務教育学校が望ましいという意見にまとまりました。

学校施設のあり方については、施設一体型の方が連携しやすい。児童生徒、教職員も様々な面で離れている建物よりも同じ建物の方がいろいろな意味で良い。教育上のメリットが多いというのは物理的なだけではなく、教育課程とか、ふるさと教育とかの部分でも連携はしやすくなる。中一ギャップの解消というところでも良い教育ができるのではないかと。建替えとなった場合に、同じ建物のほうが建設費を抑えられるが、小中が一緒になることで体育として使う施設は、ある程度の大きさを確保しないと今まで通りの活動が難しくなる。という意見でした。

あまり大きな施設を造っても、将来、空き教室になっては困るので、その時の必要最小限の施設を造るべきということになりました。

(5) 長瀬町における小中一貫教育について

【学校施設の設置形態について】

長瀬町では、児童生徒数が将来的に減少していくことが推計されている。このような状況下で、既存の小学校・中学校・給食センターを維持し続けると、老朽化した施設の改修費や更新費が増加し、財政負担が大きくなるため、小学校と中学校、給食センターを1つの敷地と1つの建物に集約する施設一体型とすることで校舎や設備を共有し、建設費と維持管理費を大幅に節減できます。

教職員の連携も取りやすくなり、教育の質向上につながる。また、地域との連携拠点としての役割を持たせることで、学校・地域の魅力化を促進できます。

通学動線がわかりやすくなり、児童生徒の安全確保にも寄与することが考えられます。

このような観点から、長瀬町の将来を見据えた学校づくりとして、施設一体型の整備が望ましいと判断いたしました。

【教育形態について】

小学校と中学校を一体化し、9年間を見通した継続的な教育課程を編成する義務教育学校の形態を採用することで、以下のような具体的な教育効果が得られると考えられます。

- ・児童生徒1人ひとりの成長を9年間の視点で見守ることで、より丁寧な学習支援・生活支援が可能となる。
- ・思春期の不安定な時期に学校環境が大きく変わらないため、中1ギャップの軽減につながる。
- ・教育指導では、中学校教員の専門性を早い段階から生かすことができ、学力向上にも寄与する。
- ・学校行事や部活動などの共有することで、学校の一体感も生まれる。

これらの点から、長瀬町の教育を安定的に質の高いものとするため、教育形態としては、義務教育学校の導入が望ましいと判断いたしました。

【ふるさと教育について】

長瀬の自然、地質、歴史、文化、観光などの地域資源を活かした教育は、子どもたちが自分のふるさとに対し、愛着や誇りを持つための重要な基盤となる「ふるさと教育」について、施設一体型の義務教育学校であれば、9年間で見通した計画をたてて、学んでいくことができると考えられます。

長瀬の魅力を理解し、発信する活動を通じて、社会に関わる姿勢や主体性を育成でき、将来の進路選択や地域貢献への意識向上にも寄与すると考えられます。

ふるさと教育の一層の充実を図り、ふるさとへの愛着や誇りに思う気持ち、未来を切り開く力が育まれる教育を推進することが望ましいと判断いたしました。

14. 参考資料

(1) 長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例・委員名簿

○長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例

令和6年3月8日

条例第3号

(設置)

第1条 長瀬町の地域性及び特性に即した魅力ある小中一貫教育の実現に向け、幅広い見地から検討を行うため、長瀬町小中一貫教育検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 検討委員会は、長瀬町教育委員会（以下「教育委員会」という。）の諮問に応じ、次に掲げる事項を協議し、答申するものとする。

- (1) 小中一貫教育校の施設及び整備等に関すること。
- (2) その他小中一貫教育の推進に関すること。

(組織)

第3条 検討委員会は、委員16人以内をもって組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから教育委員会が委嘱する。

- (1) 学識経験のある者
- (2) 行政区を代表する者
- (3) 保護者を代表する者
- (4) 教職員を代表する者
- (5) 前各号に掲げる者のほか、教育委員会が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から第2条に規定する所掌事務が終了する日までとする。

2 委員が欠けた場合は、補欠の委員を置くことができる。

(委員長及び副委員長)

第5条 検討委員会に委員長及び副委員長を置く。

2 委員長及び副委員長は、委員の互選により定める。

3 委員長は、検討委員会を代表し、会務を総理する。

4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 検討委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

2 会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

4 会議は、公開とする。ただし、必要に応じ、会議の決定により非公開とすることができる。

(部会)

第7条 検討委員会は、必要があると認めるときは、部会を置くことができる。

2 部会に属する委員は、委員長が指名する。

- 3 部会に部会長を置き、部会に属する委員の互選により定める。
- 4 部会長は、部会を代表し、会務を総理する。
- 5 部会長に事故があるときは、部会に属する委員のうちからあらかじめ部会長が指名する委員がその職務を代理する。

(関係者の出席等)

第8条 検討委員会は、必要があると認めるときは、関係者に対し、会議に出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は必要な資料の提出を求めることができる。

(報酬)

第9条 委員への報酬は、特別職の委員の報酬及び費用弁償支給条例（昭和31年長瀬町条例第8号）の規定により支給する。

(庶務)

第10条 検討委員会の庶務は、教育委員会教育総務担当において処理する。

(その他)

第11条 この条例に定めるもののほか、検討委員会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、令和6年4月1日から施行する。

(会議の招集に係る特例)

- 2 この条例の施行後最初に行われる会議の招集は、第6条第1項の規定に関わらず、教育委員会が行う。

(この条例の失効)

- 3 この条例は、第2条に規定する所掌事務が終了した日限り、その効力を失う。

図表：長瀬町小中一貫教育検討委員会委員名簿（令和6年度）

No.	氏名	区分	備考
1	野澤 直美	学識経験のある者	日本薬科大学客員教授 元県立高等学校長
2	堀口 芳嗣	学識経験のある者	山村学園短期大学講師 元中学校長
3	小島 雅之	行政区を代表する者	長瀬町区長会長
4	蓮沼 大明	保護者を代表する者	長瀬第一小学校 PTA 会長
5	野村 秀穂	保護者を代表する者	長瀬中学校 PTA 会長
6	浅見 博美	教職員を代表する者	長瀬第一小学校長
7	設楽 昌宏	教職員を代表する者	長瀬中学校長
8	福島 博	教育委員会が必要と認める者	長瀬町商工会長
9	染野 益代	教育委員会が必要と認める者	長瀬町学校運営協議会長 長瀬町社会教育委員長
10	平井 琢	教育委員会が必要と認める者	長瀬町学校運営協議会委員
11	鈴木 正人	教育委員会が必要と認める者	長瀬町スポーツ推進委員長 長瀬町学校運営協議会委員
12	浅見 正英	教育委員会が必要と認める者	長瀬中学校後援会長
13	高橋 勝利	教育委員会が必要と認める者	長瀬町青少年育成会連絡協議会
14	大沢 貴之	教育委員会が必要と認める者	長瀬町スポーツ推進審議会長 長瀬町スポーツ協会長
15	林 秀美	教育委員会が必要と認める者	長瀬町生活支援体制整備協議体委員

- ・任期：長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例第4条の規定により、委嘱の日から第2条に規定する所掌事務が終了する日まで

図表：長瀬町小中一貫教育検討委員会委員名簿（令和7年度）

No.	氏名	区分	備考
1	野澤 直美	学識経験のある者	日本薬科大学客員教授 元県立高等学校長
2	堀口 芳嗣	学識経験のある者	山村学園短期大学講師 元中学校長
3	小島 雅之	行政区を代表する者	長瀬町区長会長
4	蓮沼 大明	保護者を代表する者	長瀬第一小学校 PTA 会長
5	野村 秀穂	保護者を代表する者	長瀬中学校 PTA 会長
6	本多 齋士	教職員を代表する者	長瀬第一小学校長
7	酒井 春昭	教職員を代表する者	長瀬中学校長
8	福島 博	教育委員会が必要と認める者	長瀬町商工会長
9	染野 益代	教育委員会が必要と認める者	長瀬町学校運営協議会長 長瀬町社会教育委員長
10	平井 琢	教育委員会が必要と認める者	長瀬町学校運営協議会委員
11	鈴木 正人	教育委員会が必要と認める者	長瀬町スポーツ推進委員長 長瀬町学校運営協議会委員
12	浅見 正英	教育委員会が必要と認める者	長瀬中学校後援会長
13	高橋 勝利	教育委員会が必要と認める者	長瀬町青少年育成会連絡協議会
14	大沢 貴之	教育委員会が必要と認める者	長瀬町スポーツ推進審議会長 長瀬町スポーツ協会長
15	林 秀美	教育委員会が必要と認める者	長瀬町生活支援体制整備協議体委員

- ・任期：長瀬町小中一貫教育検討委員会設置条例第4条の規定により、委嘱の日から第2条に規定する所掌事務が終了する日まで

(2) 長瀬町小中一貫教育検討委員会

1) 第1回検討委員会資料



資料4

第1回
長瀬町小中一貫教育
検討委員会

開催：令和6年6月27日

1



本日の
主な内容

- はじめに
- これまでの児童生徒数の推移状況
- これからの児童生徒数の推移予測
- 学校施設の整備状況
- 学校施設の今後の維持・更新コスト(長寿命化型)
- 課題
- 課題解決に向けて
- 今後のスケジュール

2



はじめに

長瀬町の児童生徒数は年々減少しており、このままのペースで減少を続けると令和9年には小学校が、令和12年には中学校を含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されています。

長瀬町教育委員会では、将来の児童生徒の減少に対応しながら、より良い教育環境の整備を図るため「小中一貫教育」に向けた検討を行っています。

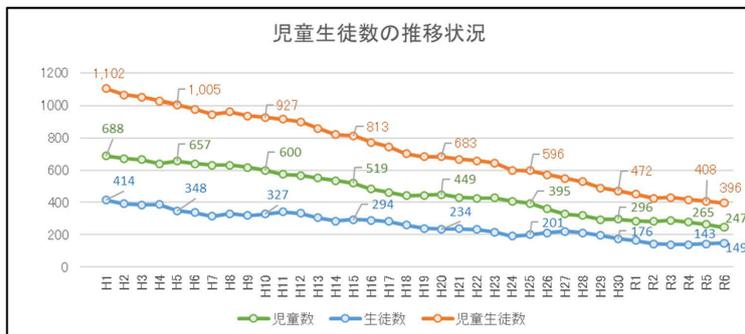
3

これまでの取り組み

年月	内容
R2年3月	長瀬町公共施設長寿命化計画(総合管理計画)策定 ・学校施設の劣化状況評価を実施 ・学校施設の長寿命化に向けたロードマップを作成
R2年7月	長瀬町学校のあり方検討委員会設置
R3年2～6月	学校教育についてアンケートを実施 ・保護者(子どもが町内の小中学校、保育園、認定こども園に通う)及び町民を対象
R4年6月	長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画策定 ・長瀬第一小学校と長瀬第二小学校の統合 ・ 小中一貫教育に向けた施設の検討
R6年4月	長瀬町公共施設劣化状況調査・耐力度調査を実施
R6年4月	長瀬第一小学校に長瀬第二小学校を統合
R6年6月	長瀬町小中一貫教育検討委員会設置

4

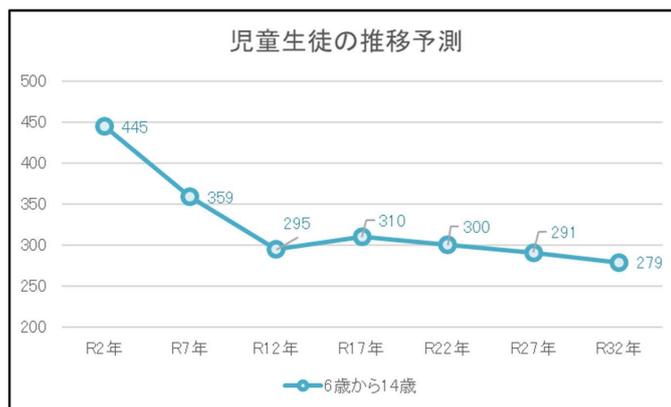
これまでの 児童生徒数の 推移状況



項目	児童生徒数	H1年と比較	5年前と比較
H1年	1,102	-	-
H5年	1,005	-8.8%	-8.8%
H10年	927	-15.9%	-7.8%
H15年	813	-26.2%	-12.3%
H20年	683	-38.0%	-16.0%
H25年	596	-45.9%	-12.7%
H30年	472	-57.2%	-20.8%
R5年	408	-63.0%	-13.6%

5

これからの 児童生徒数の 推移予測



R2年3月の住民基本台帳を基にコーホート要因法による推計

2050年(R32年)の児童生徒数は、2020年(R2年)と比べて約6割(279人)まで減少する見通しです。

6



学校施設の整備場状況

※基準年：2024年

施設名	建物名	構造	建築年度	経過年数	目標使用年数	残り使用年数
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	47	85	38
	体育館	RC造	1978	46	85	39
長瀬第二小学校	校舎	RC造	1976	48	85	37
	体育館	RC造	1977	47	85	38
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52	85	33
	特別教室棟	RC造	1979	45	85	40
	体育館	RC造	1970	54	85	31
	剣道場	SRC造	1984	40	85	45
	柔道場	木造	1995	29	50	21

SRC造：鉄骨鉄筋コンクリート造、RC造：鉄筋コンクリート造、S造：鉄骨造
 ※目標使用年数は、大規模改造工事を実施した場合の使用年数となります。

目標使用年数は、「長瀬町公共施設長寿命化計画」のなかで、建物の構造ごとに設定しています。

構造	SRC、RC造	S造	木造
目標使用年数	85年	65年	50年





長瀬第二小学校



長瀬中学校



2A教室



10

学校施設の劣化状況評価

※基準年:2020年

施設名	建物名	構造	建築年数	経過年数	屋根屋上	外壁	内部仕上	電気設備	機械設備	健全度(100点)
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	43	B	B	C	B	C	58
	体育館	RC造	1978	42	B	B	C	-	-	57
長瀬第二小学校	校舎	RC造	1976	44	B	B	C	B	B	62
	体育館	RC造	1977	43	B	B	C	-	-	57
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	48	B	B	C	B	B	62
	特別教室棟	RC造	1979	41	B	D	C	-	-	32
	体育館	RC造	1970	50	B	B	C	-	-	57
	剣道場	SRC造	1984	36	B	B	B	-	-	75
	柔道場	木造	1995	25	B	B	B	-	-	75
学校給食センター	共同作業所	RC造	1980	40	B	C	C	B	B	52

出典:長瀬町公共施設長寿命化計画(R2年3月)より抜粋

- A:概ね良好
 B:部分的に劣化
 C:広範囲に劣化
 D:早急に対応する必要がある

11

耐力度調査結果

施設名	建物名	構造耐力 ^㉑	健全度 ^㉒	立地条件 ^㉓	耐力度 (^㉑ × ^㉒ × ^㉓)	判定
長瀬第一小学校	西校舎	97点	66点	0.94	6,018点	○
	東校舎	97点	66点	0.94	6,018点	○
長瀬中学校	校舎	90点	66点	0.94	5,584点	○

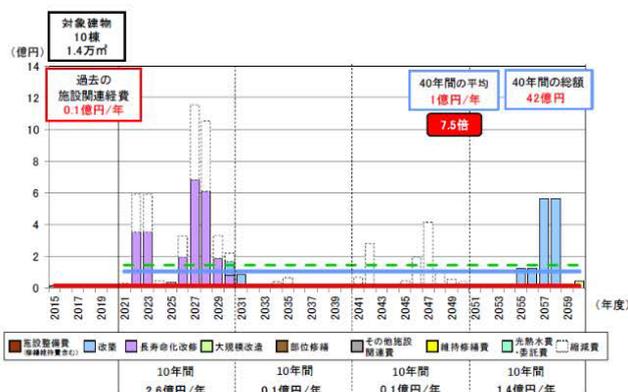
出典:長瀬町公共施設劣化状況調査・耐力度調査(R6年4月)より抜粋

- ※調査は、「既存鉄筋コンクリート造学校建物の耐力度測定方法(平成30年改訂版)を適用。
 ※構造耐力^㉑、健全度^㉒は、100点満点における評価点数。
 ※立地条件^㉓は、指数評価(1.00)。
 ※耐力度は、10,000点満点における評価点数で、4,500点以上が耐力度基準をクリア。

12

学校施設の 今後の維持・ 更新コスト (長寿命化型)

今後の維持・更新コスト(長寿命化型)



分類	周期
部位修繕(D評価)	5年
部位修繕(C評価)	10年
大規模改造	30年
長寿命化改修	50年
改築(建替え)	85年

現在の学校施設をそのまま維持・更新すると、今後40年間で42億円、年平均約1億円必要と試算されました。

13

今後10年間のロードマップ

施設名	建物名	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
長瀬第一小学校	校舎					修繕	修繕		基設計	実設計	長寿化
	体育館				修繕	修繕等	修繕			修繕	修繕
長瀬第二小学校	校舎		修繕					修繕等			
	体育館			修繕		修繕	修繕		修繕	修繕	修繕
長瀬中学校	校舎			基設計	実設計	長寿化					修繕
	特別教室棟	修繕				基設計	実設計	長寿化			
	体育館	修繕				基設計	実設計	長寿化			
	剣道場					修繕等	更新				修繕
学校給食センター	共同作業所	修繕	修繕	修繕	修繕		修繕	修繕	基設計	実設計	長寿化

長寿化:長寿命化改修工事
 長瀬中学校剣道場の更新:屋根・外部
 基設計:基本設計
 実設計:実施設計

出典:長瀬町公共施設長寿命化計画(R2年3月)より作成

2020年(R2年)からの10年間における学校施設の修繕・改修工事費に約19億円かかる見通しです。

14



- 四半世紀後、長瀬町の児童生徒数は現在の6割程度まで減少する見通しです。このままのペースで減少し続けると令和9年には小学校が、令和12年には中学校も含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されます。
- 児童生徒数の減少に対応しながら、より良い教育環境の整備が必要となっています。
- 学校施設の老朽化が進行しており、これからも建物を長く活用していくためには、長寿命化改修工事が必要な時期を迎えています。
- 現在の学校施設を維持・更新していくと40年間で、42億円の費用が必要と試算されました。

15



- 長瀬町教育委員会では、将来の児童生徒の減少に対応しながら、より良い教育環境の整備を図るため、「小中一貫教育に向けた検討」を行っています。

16

小中連携、小中一貫教育制度の関係

小中連携教育	小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育。		
小中一貫教育	小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。 いずれの学校も施設の形態(一体型、隣接型、分離型)は問わない。		
	①義務教育学校 新たな学校種(1つの学校) ⇒1人の校長、1つの教職員組織	小中一貫型小学校・中学校 組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態 ⇒それぞれの学校に校長、教職員組織	
	修業年限:9年 (前期課程6年+後期課程3年)	②併設型小学校・中学校 (同一の設置者)	③連携型小学校・中学校 (異なる設置者)
	 <p>一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件 ・統合調整を担う校長を定める ・学校運営協議会の合同設置 ・校長等の併任</p>		 <p>併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備</p>

出典:小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き/文部科学省より作成

今後のスケジュール

時期	開催項目	主な内容
8月下旬	第2回 検討委員会	・施設調査報告 ・アンケート結果報告 ・ワークショップ開催に向けて
9月下旬	第1回 ワークショップ	・現地視察:長瀬中学校 ・(仮)校舎のゾーニングプラン検討
11月下旬	第2回 ワークショップ	・ゾーニングプラン(案)に対する 意見交換
1月中旬	第3回 検討委員会	・基本構想報告書(素案)報告
2月下旬	第4回 検討委員会	・基本構想報告書(案)報告

第2回
長瀬町小中一貫教育
検討委員会

開催:令和6年8月29日



本日の
主な内容

1. 学校施設の劣化状況等について
2. アンケート調査結果について

1. 学校施設の劣化状況等について

基準年:2024年

施設名	建物名	構造	建築年数	経過年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点)
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	47	C	C	C	C	C	40
	体育館	RC造	1978	46	B	C	C	C	C	43
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52	B	B	C	C	C	53
	技術棟 (特別教室棟)	RC造	1979	45	B	D	D	C	C	23
	体育館	RC造	1970	54	B	B	C	C	C	53
	剣道場	SRC造	1984	40	B	B	C	C	C	53
	卓球場 (柔道場)	木造	1995	29	B	B	B	B	B	75

■屋根・屋上、外壁の評価基準
 A:概ね良好
 B:部分的に劣化
 C:広範囲に劣化
 D:早急に対応する必要がある

■内部仕上げ、電気・機械設備の評価基準
 A:20年未満
 B:20年～40年
 C:40年以上
 D:経過年数に関わらず著しい劣化事象がある

3

■長瀬第一小学校



□校舎



屋上：防水工事中

- ・R2年：東側廊下屋上防水改修工事実施
- ・R3年：屋上防水工事実施
- ・R6年：漏水事故発生により防水工事中

5



↑ パラペットのき裂、損傷



↑ 塗膜防水の剥離



↑ 廊下：天井の漏水



↑ 草木の繁茂

6



校舎裏：外壁の汚損

軒裏：塗装の剥離、剥落

塗装の剥離

塗装の剥離、剥落

7



廊下

廊下：天井の漏水

廊下：天井の漏水

階段室

内壁：塗装の剥離、剥落

8



教室



教室：天井の漏水



教室：天井の漏水

□体育館



屋根



外壁の汚損



館内天井



内壁：塗装の剥離、剥落

11

■長瀬中学校



12

校舎

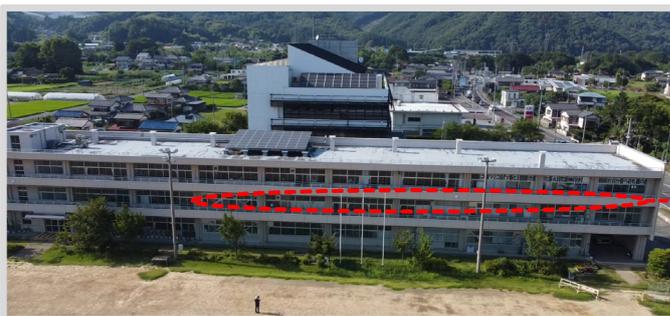


屋上：防水層の汚損



パラペットのき裂

13



軒裏：塗装の剥離、剥落



昇降口階段



外壁の白華

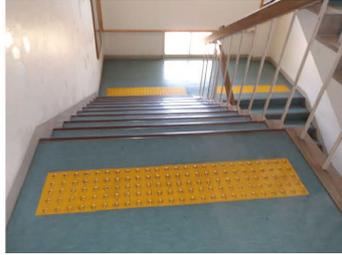


階段裏：塗装の剥離、剥落

14



廊下



階段室



教室

□体育館



屋根



防水層の汚損



館内天井



ステージ裏：床材の欠損

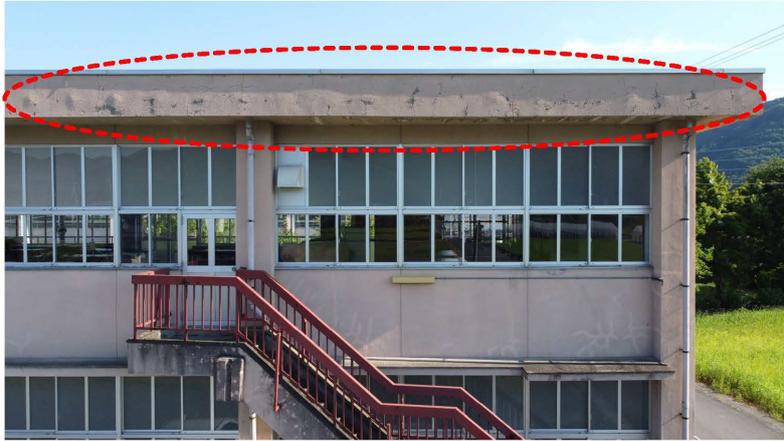
17

□技術棟(特別教室棟)



屋上

18



外壁の変形、浮き



軒裏：塗装の剥離、漏水痕



階段裏：鉄筋の露出、漏水痕

19



教室：梁のき裂



男子トイレ：内壁タイルの浮き

20

2. アンケート調査結果について

調査内容:小中一貫教育について

調査対象:保護者及び地域住民(1,009人)

調査方法:Web及び記入式

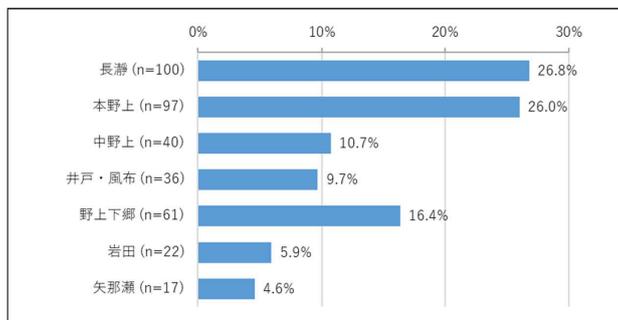
調査期間:令和6年7月17日(水)～令和6年8月2日(金)迄

回収率:37.0%(373/1,009)

21

設問1. お住まいの地域を選択してください。

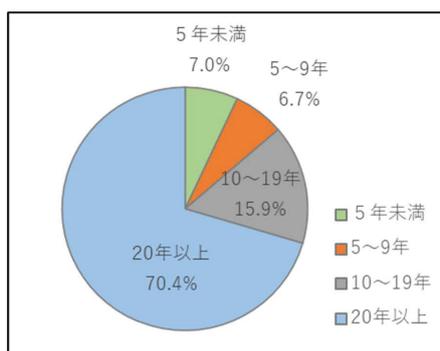
有効回答数373件のうち、住まう地域で最も多いのは、「長瀬」の100件(26.8%)、次に「本野上」の97件(26.0%)、「野上下郷」の61件(16.4%)の順となっています。



22

設問2. 長瀬町での居住年数を選択してください。

有効回答数372件のうち、居住年数で最も多いのは、「20年以上」の262件(70.4%)で、次に「10～19年」の59件(15.9%)、「5年未満」の26件(7.0%)の順となっています。



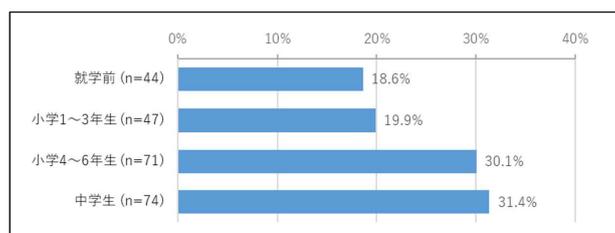
23

設問3. お子さんの学年を教えてください。

2人以上お子さんがいる方は、該当するものすべてを選択してください。

有効回答数236件のうち、子どもの学年で最も多いのは、「中学生」の74件(31.4%)、次に「小学4～6年生」の71件(30.1%)、「小学1～3年生」の47件(19.9%)の順となっています。

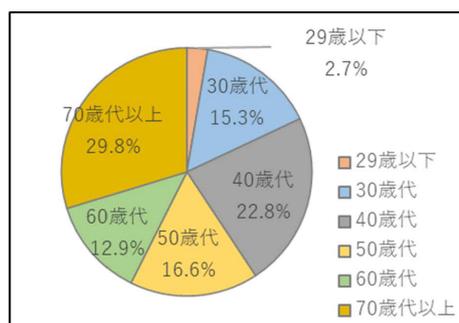
また、小学4年生以上の子どもと4年生以下の子どもの割合を見ると、4年生以下の子どもは20%以上子どもが少なくなっており、少子化の進行が進んでいます。



24

設問4. ご回答いただいている方の年齢を選択してください。

有効回答数373件のうち、回答者の年齢で最も多いのは、「70歳代以上」の111件(29.8%)、次に「40歳代」の85件(22.8%)、「50歳代」の62件(16.6%)の順となっています。なお、「29歳以下」の若い世代の回答は10件(2.7%)でした。

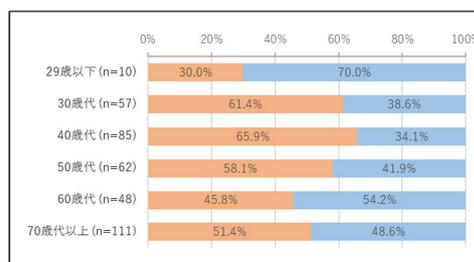
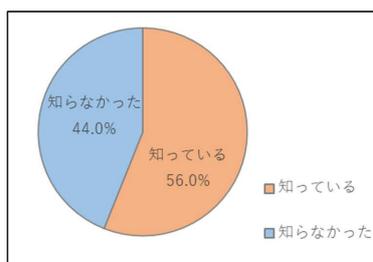


25

設問5. 小学校から中学校までの9年間を通じて、教育内容の連携や教育目標の統一を図る一貫教育に向けた取り組みが検討されていることを知っていますか。

有効回答数373件のうち、一貫教育に向けた取り組みを「知っている」が209件(56.0%)、「知らなかった」が164件(44.0%)でした。

回答者を年齢別にみると、30歳代から50歳代と義務教育期間の子どもがいると思われる世代の認識が6割程度と、全年代のなかでも高いことがわかりました。また、最も認識が低いのは、29歳以下の30%と、子どもの年齢が就学に達していないと思われる世代でした。

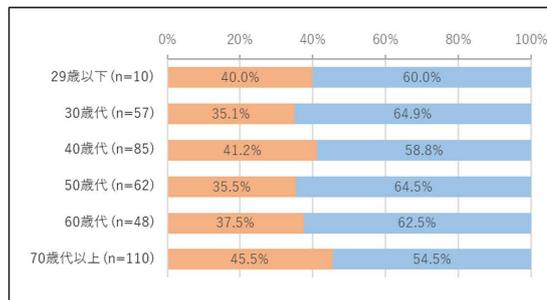
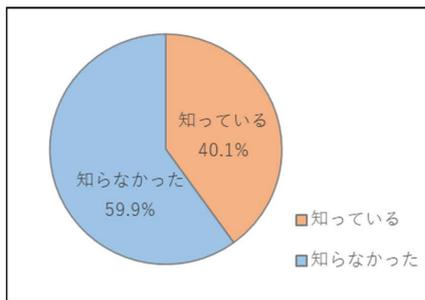


26

設問6. 小中一貫教育の基本形態として、「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」があることを知っていますか。

有効回答数372件のうち、小中一貫教育の形態を「知っている」が149件(40.1%)、「知らなかった」が223件(59.9%)でした。

回答者を年齢別にみても、全世代の認識に大きな偏りはありませんでした。



27

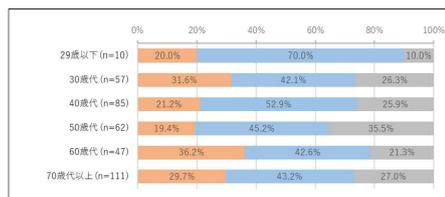
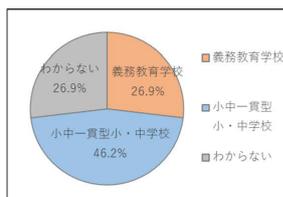
設問7. 長瀬町で小中一貫教育を実施する場合、「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」のどちらがふさわしいと思いますか。

有効回答数372件のうち、長瀬町の小中一貫教育としてふさわしいと思うのは、「小中一貫型小・中学校」の172件(46.2%)、「義務教育学校」と「わからない」が同数で100件(26.9%)でした。

回答者を年齢別にみても、全年代で「小中一貫型小・中学校」を選ぶ割合が高くなっています。

また、全体意見では「義務教育学校」と「わからない」が同数でしたが、回答者を年齢別にみると、40歳代から50歳代で「義務教育学校」を選ぶ割合が低くなっています。これは、親の年齢からみて、子どもは高学年と思われる、子どもの就学中に学校の運営体制が変わることに何らかの不安があるものと推察されます。

なお、就学前の子どもがいると思われる29歳以下の7割が、「小中一貫型小・中学校」を選んでいます。



28

**設問8. 小中一貫教育の実施にあたり、どのようなことを期待しますか。
3つ選択してください。**

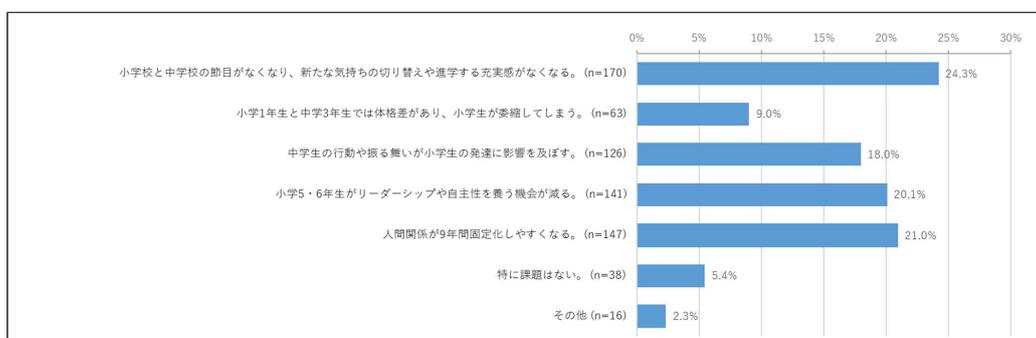
有効回答数1,057件のうち、小中一貫教育で期待することで最も多いのは、「教員の連携・協力が一層密になり、より丁寧で継続した指導や支援が充実できる。」の204件(19.3%)、次に、「小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活に不応を起こす現象(いわゆる「中1ギャップ」)の緩和につながる。」の171件(16.2%)、「異年齢とのコミュニケーションの機会が増える。」の167件(15.8%)の順となっています。



29

**設問9. 小中一貫教育の実施にあたり、どのような課題があるとお考えですか。
2つ選択してください。**

有効回答数701件のうち、小中一貫教育の課題で最も多いのは、「小学校と中学校の節目がなくなり、新たな気持ちの切り替えや進学する充実感がなくなる。」の170件(24.3%)、次に、「人間関係が9年間固定化しやすくなる。」の147件(21.0%)、「小学5・6年生がリーダーシップや自主性を養う機会が減る。」の141件(20.1%)の順となっています。



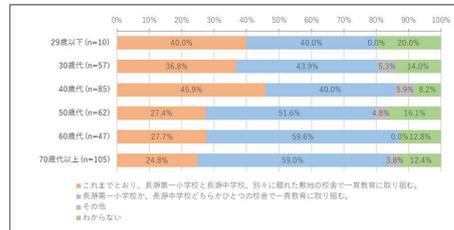
30

設問10. 9年間を通じた小中一貫教育の実施にあたり、どのような施設形態がふさわしいと思いますか。

有効回答数366件のうち、小中一貫教育の施設形態で最も多いのは、「長瀬第一小学校か、長瀬中学校どちらかひとつの校舎で一貫教育に取り組む。」の185件(50.5%)、次に、「これまでとおり、長瀬第一小学校と長瀬中学校、別々に離れた敷地の校舎で一貫教育に取り組む。」の120件(32.8%)、「わからない」の46件(12.6%)の順となっています。

回答者を年齢別にみると、全世代を通して、「どちらかひとつの校舎」を選ぶ傾向にあり、50歳以降では、「これまでとおり」より、「どちらかひとつの校舎」を選ぶ方が約2倍の結果となりました。

なお、その他の意見として、「同じ敷地に別々の校舎」や、「校舎の修繕にも費用がかかるので建替えを検討する」などの意見が寄せられています。



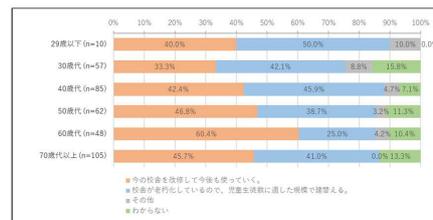
31

設問11. 小中一貫教育の実施にあたり、校舎の整備はどのような形がふさわしいと思いますか。

有効回答数367件のうち、小中一貫教育の校舎整備で最も多いのは、「今の校舎を改修して今後も使っていく。」の165件(45.0%)、次に、「校舎が老朽化しているので、児童生徒数に適した規模で建替える。」の147件(40.1%)、「わからない」の41件(11.2%)の順となっています。

回答者を年齢別にみると、40歳代までは、「建替え」の意向が高く、50歳代以降で「改修」の意向が高くなっています。

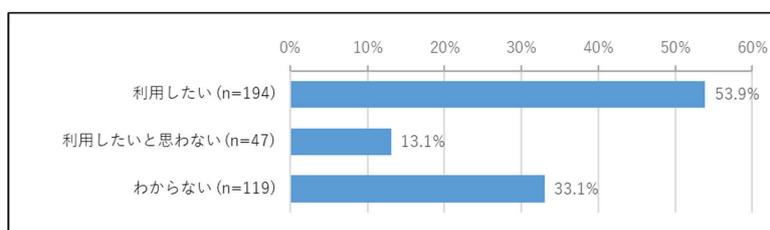
なお、その他の意見として、「コストを考慮して検討すべき」や、「避難所の機能を兼ね備えた施設として建替え」、「オフィスや商店、福祉など、学ぶことができる施設と複合化して建設」などの意見が寄せられました。



32

設問12. 地域に開けた学校施設に向けて、学校施設を学習や交流の場として地域住民に開放したら利用したいと思いますか。

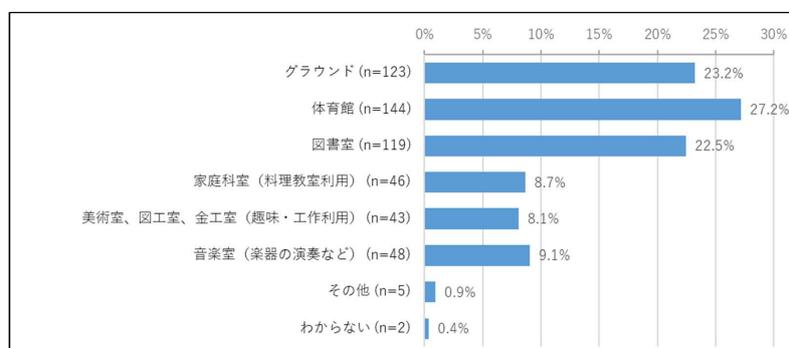
有効回答数360件のうち、学校施設の地域開放で「利用したい」が194件(53.9%)、「利用したいと思わない」が47件(13.1%)となっています。



33

設問13. 設問12で、①学校施設を利用したいと回答した方にお尋ねします。どの施設を利用したいと思いますか。3つ選択してください。

地域開放で学校施設を利用したいと回答した方(有効回答数530件)のうち、最も多いのは、「体育館」の144件(27.2%)、次に、「グラウンド」の123件(23.2%)、図書館の119件(22.5%)の順となっています。



34

設問14. 自由意見

■一貫教育に関する意見

- ・少子化が進み学校規模も小さくなっていくので、せめて質の高い教育環境を整えてほしい。
- ・第二小学校の卒業生ですが閉校となり寂しく思います。学校を閉校にしない小中一貫型に賛成です。
- ・一貫教育は中学校校舎が妥当である。中学校を改修している間、第一小学校を仮校舎としてはどうか。
- ・一貫校となったら電車通学になるのか。
- ・電車通学となったら最寄り駅に無料の駐輪場を整備してほしい。
- ・一貫校にするのであれば、送迎や保護者用の駐車場を整備してほしい。
- ・一貫教育の検討は、実践校を訪問して現場の意見を聴きながら検討を進めてほしい。
- ・小中学校は別々がよい。いじめが9年間続いたら大変。いじめに対応する教員がいると良い。
- ・小学生と中学生が同じグラウンドを利用するのに不安を感じる。

35

■地域開放に関する意見

- ・児童生徒が減少しているので、学校施設を地域活用しながら全町で盛り上げていくことが必要と思う。
- ・給食センターや図書館、スポーツ施設、公民館等が学校と複合化し、地域とともにある学校づくりを進めてほしい。
- ・学校施設が様々なことに触れる機会を生み出す施設になることを期待する。学習塾やスイミングなど習い事があると親と子が関わる時間も増えると思う。
- ・体育館は、地域住民の利用も考慮した規模で建替えを希望する。
- ・学校施設の地域開放の際は、送迎も検討してほしい。
- ・学校施設の地域開放の際は、教えてくれる先生(指導者)もほしい。
- ・学校施設の地域開放は子どもの危険が増えるので反対である。
- ・児童が学校にいる時間帯に学校施設を開放するのは慎重に検討すべきである。
- ・学校施設が開放されれば利用したいと思うが、開放したことで事故や事件が起きないか心配である。
- ・現在の体育館がなくなる(減る)と利用団体間で競争になるなど影響が大きい。

36

第3回
長瀬町小中一貫教育
検討委員会

開催:令和7年1月16日



本日の
主な内容

1. ワークショップの報告
2. 長瀬町小中一貫教育委員会検討状況
中間報告書(案)について

1. ワークショップの報告

ワークショップの開催

小中一貫教育に向けた施設整備の基本方針や、今後の長瀬町の学校のあり方等についてのアンケート結果や、小学校と中学校の教職員からの既存校舎や体育館の施設状況、教育環境等についての問題点や改善点に関する意見を基に、小中一貫教育の方向性を検討します。

中学校敷地に建替え行なうなかで学校施設整備についての議論や施設配置を検討するためのワークショップを開催し意見を求めました。

第1回目では、**学校施設、学校施設の地域活用、学校施設の配置検討についての意見交換。**

第2回目では、**ワークショップの意見を踏まえた集約案の報告と、集約案に対する意見交換。**

ワークショップの参加者

第一小学校PTA役員 3名 第一小学校教職員 3名

中学校PTA役員 3名 中学校教職員 3名

校長経験者 児童生徒の保護者（公募含む） 3名

15名の参加者により、1グループ5名の3グループで検討しました。

3

小中一貫教育の方向性

施設整備の方向性

- **長瀬第一小学校を長瀬中学校に集約する。**
- **校舎、体育館などは建替えを行う。**

施設整備の理由

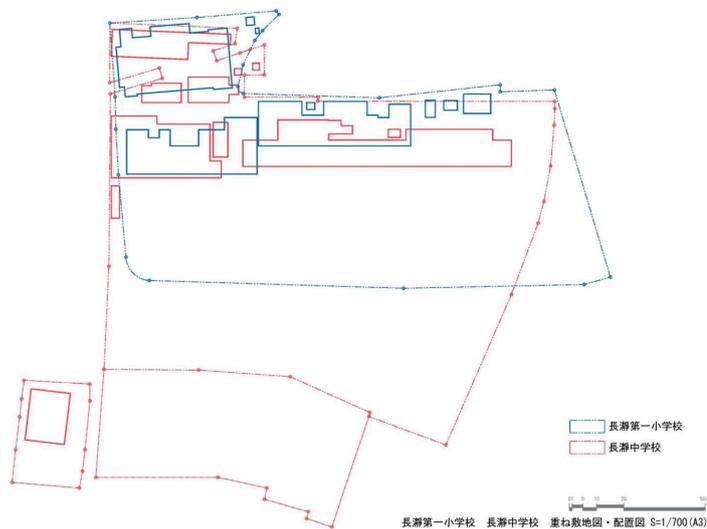
- 小学校より中学校の方が利便性が高い（立地条件）。
- 小学校より中学校の方が敷地が広い（敷地条件）。
- 校舎、体育館は、すでに建設から50年以上経過している。
- 費用をかけて改修しても30年後に建替えが必要となる。
- 児童生徒数が減少している。
- 各種補助制度が活用できる。

など



4

長瀬第一小学校と 長瀬中学校の敷地面積の比較



5

各グループの意見

(1) 全体としての意見 (抜粋)

グループ	主な意見
グループ1	小学生と中学生の身長差配慮した施設
	体育館は小学校と中学校を分けて整備する
	1学年全体で集まれるスペースがない
グループ2	校舎は木造とする
	施設を複合化させる
	校舎に中庭を設置し階段にて繋ぐ
グループ3	小学生から見て中学生は怖いと感じる
	欲張らずにコンパクトな施設とする
	同一の建物にいるので小・中の壁を取り払いたい

6

各グループの意見

(2) 教室・特別教室・体育館の意見 (抜粋)

グループ	主な意見
グループ1	児童生徒が一緒に使う図書館を整備する 音楽準備室は小中で楽器が異なるので広く 形や使用内容で変化できるつくりとする(地域開放)
グループ2	教室の入口側の壁を無くし解放感のある空間 図書館は小・中共有とする 体育館は1階をバスケ他、2階を剣道・卓球
グループ3	必要な部屋、不要な部屋を整理する 視聴覚室、コンピューター室は不要ではないか 特別教室は小・中で2室ずつは不要ではないか

7

各グループの意見

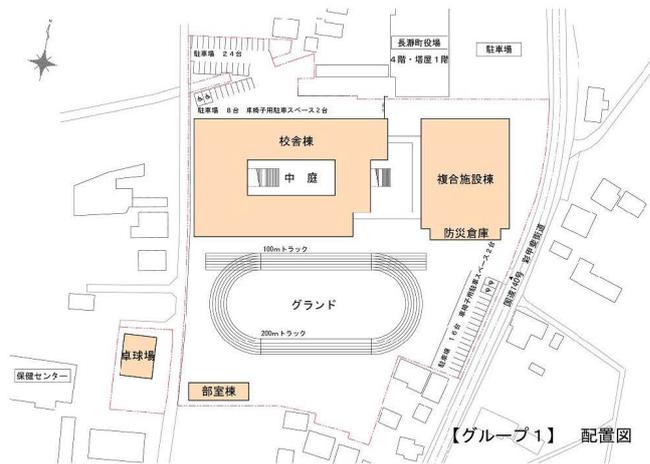
(3) 地域開放についての意見 (抜粋)

グループ	主な意見
グループ1	地域図書館の設置 ラウンジ・多目的ホールの設置 集会場の設置
グループ2	子供から大人のスタディスペースの設置 ラウンジを設置する コンピューター室をシアターにする
グループ3	図書館は一般開放しても校舎と分離しない 体育館を2つ設置し小学校はホールとして活用 体育館・音楽室・図書館は地域開放とする

8

各グループの意見

(4) 学校施設の配置案：グループ1



- ①北西に校舎、北東に体育館を設置し通路で繋げる（地上または2F渡り廊下）。
- ②体育館南に駐車場を設置。
- ③体育館、駐車場、校舎、グラウンドをセキュリティ上分離する。

【グループ1】 配置図

9

各グループの意見

(4) 学校施設の配置案：グループ2



- ①北西に体育館、北東に駐車場、中央に校舎
- ②校舎東側に学童を設置
- ③校舎が中庭を囲む
- ④南側にグラウンドを設置
- ⑤南西にある別敷地を駐車場とする

【グループ2】 配置図

10

各グループの意見

(4) 学校施設の配置案：グループ3



- ①北西角に体育館
→水路上の設置は難しいため南側に下げる
- ②北側に校舎
→体育館が南側に下がるため校舎も南側に配置される
- ③北東に駐車場
- ④南側にグラウンド
→体育館と校舎が南側に下がるためグラウンドが北側に配置される

11

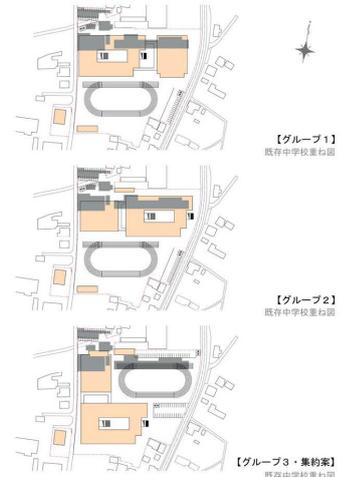
ワークショップを踏まえた集約案の報告

ワークショップにおける各グループからの意見により校舎、体育館、駐車場などの配置3案を作成し、その中から諸条件を考慮し検討を行った結果、集約案としてグループ3の施設配置案を採用しました。

集約案に対し各諸室のゾーニングと工事工程などを含めた検討を行いました。

仮設校舎について

- ・小学校を中学校の仮設校舎としない。
その理由としては、成長して体が大きくなり、トイレや手洗い場などの改修工事が必要となる。
- ・ワークショップにより各グループから提案された施設配置案と、既存長瀬中学校の建物を重ねると、グループ1とグループ2の配置案では既存建物を解体・撤去しないと建設工事が開始できないので工事期間中に仮設校舎が必要となる。
- ・グループ3の校舎配置の場合、中学校のグラウンド側に新校舎を建てることで仮設校舎は不要となり新校舎への引越しも一度で完了する経費削減につながるプランである。



12

設計（案）のポイント

- ・グループ3の意見では、体育館を北側に寄せ、校舎を体育館の下に配置する案でしたが、北側の水路上に建物の設置は難しいため、体育館と校舎を南側に寄せると、グラウンドに200mトラックが納まらなくなり、グラウンドを北側に移し体育館と校舎をL型配置とした集約案となった。
- ・複合施設棟と校舎棟をL型配置とすることで、国道側からのアプローチ空間に余裕ができる。
- ・校舎棟を南側に設けることで、既存校舎は新校舎の工事が完了するまで利用し続けることが可能となり、校舎棟が完成すれば先行して新校舎の利用が可能となる。
- ・校舎棟にはバルコニーを設けていない。（バルコニーのメンテナンス等の手間を省くため）
- ・普通教室の窓側にバルコニーがないため、腰壁を設けて児童生徒用のロッカーを設置する。
- ・中廊下式とすることで、廊下に面した教室の壁を開放しオープンな空間として利用も可能。
- ・中庭を屋外ステージとして利用し、小中学校で行われる音楽発表の練習などを行い、児童生徒の表現力の育成の場として活用する。

13

新校舎の設計におけるコンセプト

【校舎棟】

- ・ひとつの校舎の中に、小学校と中学校は中庭を挟んで、北側と南側に分けられる。
- ・中庭を設けることで、中庭に面する教室への採光を確保する。
- ・1階の中学校側は地域開放も可能なように特別教室のフロア構成とし、中庭を有効に利用できるようにする。
- ・廊下の両側に教室を配置する中廊下式とし、東西方向に廊下が長くならないようにする。
- ・中廊下式とすることで、階ごとの床面積は大きくなるが、3階建てに納めることができる。
- ・小学生の昇降口は1階、中学生の昇降口は2階に分けて動線を交差させない。
- ・給食室は校舎の1階に設け、厨房の吸排気は配膳室のダクトから屋上まで通して屋外機械を設置する。また、西側の道路から搬入・搬出できるようにする。
- ・児童と生徒が集うことができるコミュニティスペースを2階と3階に設けている。
- ・バリアフリー化に伴い、車いす対応エレベーターと多機能トイレを設置する。

14

新校舎の設計におけるコンセプト

【複合施設棟】

- ・複合施設には地域開放できる施設を配置する。
- ・地域開放用のエントランスは1階に設け、児童生徒は2階の渡り廊下からアクセスする。
- ・1階に図書室と多目的室を設ける。小学校の体育館と剣道場を併設して、一体の空間での利用と、可動間仕切壁で仕切ることによって別々に利用することも可能としている。
- ・2階は中学校用の体育館とし、基本的に土日の部活利用を優先する。学校行事などで児童生徒が集まれる設備を設ける。
- ・防災倉庫を外部、内部双方から利用できるように隣接する。
- ・バリアフリー化に伴い、車いす対応エレベーターと多機能トイレを設置する。

15

各グループの意見

(1) 集約案の良いところ(抜粋)

グループ	主な意見
グループ1	引越しが1回で済む
	廊下をはさんで教室が配置されている
	小中の昇降口が分かれている
グループ2	建替えなくてよい
	小中分かれている
	2階の大体育館 中学校の活動の確保
グループ3	駐車場が多い
	小中の入口が別なのがよい
	中庭があってよい

16

各グループの意見

(2) 集約案の改善点 (抜粋)

グループ	主な意見
グループ1	防音対策はどうなっていますか
	テニス・野球・学童はどこに作る？移動の時間も考えて
	部室がほしい
グループ2	小体育館せまい
	図書室とおい
	学童は小学校内、出来れば1階
グループ3	地域開放はどちらかの棟にしぼった方がよい
	遊具広場に緑や生き物（自然）がほしい
	近隣の日当たりは大丈夫か

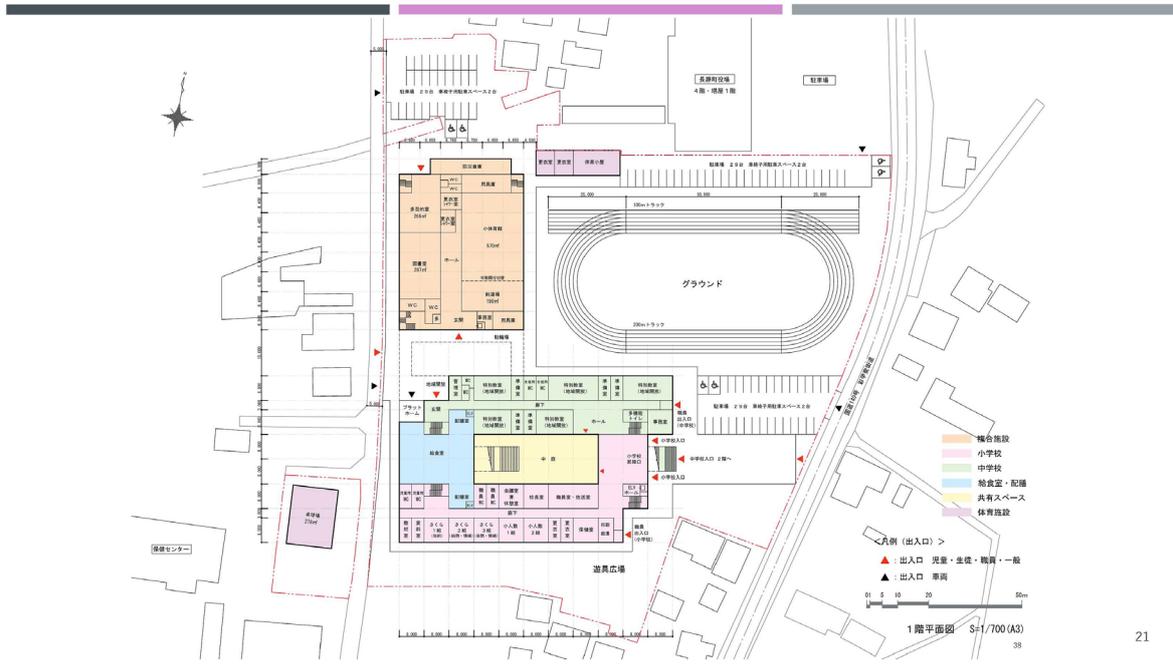
17

各グループの意見

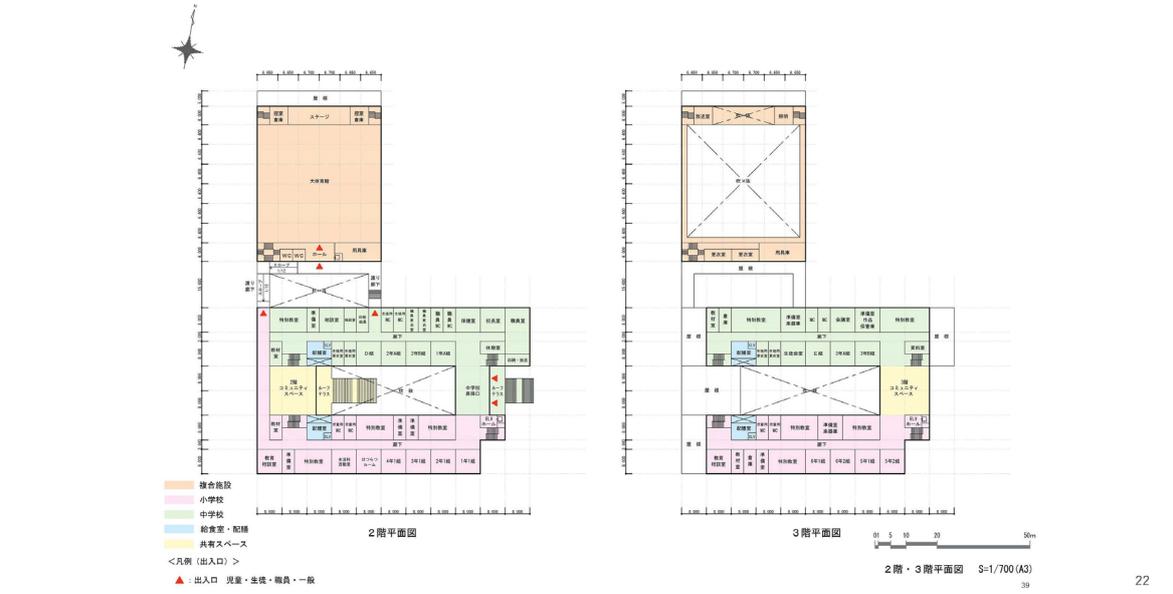
(3) 学校施設整備に向けた提案 (抜粋)

グループ	主な意見
グループ1	グラウンドと駐車場のしきりが必要（安全対策）
	学童を作るなら、駐車場を隣接してほしい
	児童・生徒用の図書室を校舎に設ける
グループ2	コミュニティスペースに少し本を置きたい
	風が強いときの対策（防風ネット）
	グラウンドを人工芝またはトラック用に整備
グループ3	卓球場を新設すれば、今の卓球場のところに学童も設置できる
	長瀬らしさを入れたい
	保健センターとプール跡を可能なら再生（活用）？

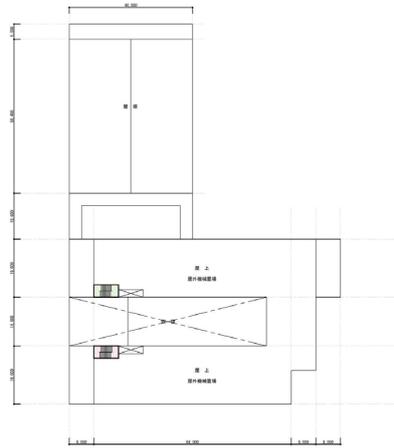
18



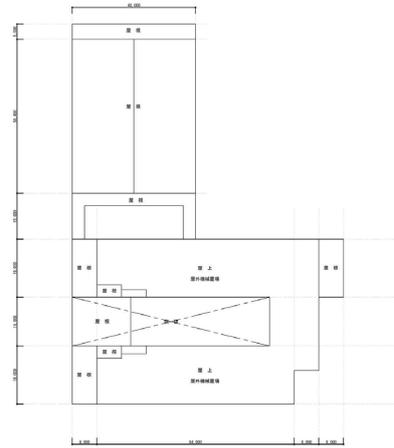
21



22

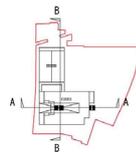


屋上平面図

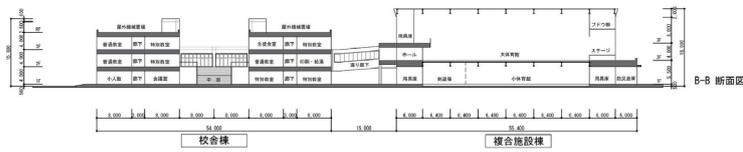


屋根伏図

屋上平面図・屋根伏図 S=1/700 (A3)
00 5 10 20 50m



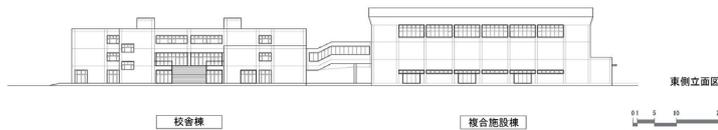
A-A断面図



B-B断面図



南側立面図



東側立面図

断面図・立面図 S=1/500 (A3)
01 5 10 20 50m

2. 長瀬町小中一貫教育委員会検討状況

中間報告書(案)について

第5回
長瀬町小中一貫教育
検討委員会

開催:令和7年6月25日



本日の
主な内容

1. 長瀬町小中一貫教育に係る研修会について
2. 坂戸市と日高市への学校視察について

1. 長瀬町小中一貫教育に係る研修会の開催

日時：令和7年3月18日(火)

午後6時開会

会場：役場3階 大会議室

講師：埼玉県教育局北部教育事務所副所長兼秩父支所長 市川篤史先生

出席：教育委員、小中一貫教育検討委員会委員、小中学校の教職員
など約40名

3

講 話

小中一貫教育

埼玉県教育委員会から初任者向けに「教師となって第一歩」というのを毎年ご案内しており、小中一貫教育について分かり易く取りまとめているので、その中からかいつまんで説明します。

小中一貫教育とは、小中連携のうち、小・中学校が9年間を通じた教育課程を編成し、それに基づき行う系統的な教育のこと。

小中一貫教育が求められている背景としては、小学校から中学校に進学する際の接続が円滑なものになっていないことが考えられます。

児童が小学校から中学校へ進学する際に、新しい環境での学習や生活に移行する段階で、いじめや不登校等が増加する、いわゆる「中1ギャップ」が指摘されることがあります。

(出典：令和6年度「教師となった第一歩」埼玉県教育委員会)

4

小中一貫教育の推進に至る経緯

小学校と中学校の連携について検討されるようになったのは、平成22年の中央教育審議会での答申『新しい時代の義務教育を創造する』において、義務教育の質の向上が求められました。すでに平成11年から中高一貫教育の重要性について叫ばれるようになっていましたが、その推進においては、小学校と中学校、そして幼児期の教育と小学校というように、学びや育ちの連続性で捉えることの必要性が示されました。

このあたりからかなり埼玉県の中で、グローバル化や情報化の進展、核家族化や少子化の進行といった社会状況が急速に変化するなかで、学校の現場でも児童・生徒を取り巻くさまざまな課題が多様化・複雑化しており、その解決には、幼保から小、そして、中、高と連続した教育が必要であると示されました。

(出典:文部科学省『新しい時代の義務教育を創造する(答申)』)

『幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続の在り方に関する調査研究協力者会議』平成22年)

5

小中一貫教育が必要とされている問題点・課題点

- ① 新しい環境での学習や生活に不適應を起こす「中1ギャップ」
- ② 学習・生徒指導面での小・中学校の接続が円滑でない
- ③ 上級生や教職員との人間関係の変化による不安も影響されている

(出典:文部科学省『小・中学校間の連携・接続に関する現状、課題認識』)

『児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査』)

6

小中一貫教育の目的

① 小学校から中学校への接続を円滑化する

学習や人間関係といった環境の変化を軽減し中1ギャップの解消につなげる
各児童・生徒の発達に合わせた指導を行う

② 児童・生徒がさまざまな教職員、児童・生徒と関わる機会を増やす

地域コミュニティの弱体化、核家族化、少子化の進行による人間関係の固定化を避ける
かかわる相手を増やすことで学びの機会や視野を広げる

③ 教育内容や学習活動の量と質を向上させる

小学校と中学校の教員が連携することで、9年間の義務教育の全体像を把握する
長期的な視点から学習・生徒指導の工夫に取り組む

※ 小学校の良さを中学校に、中学校の良さを小学校にという、お互いの良さを合わせていける。

(出典:日本教育新聞)

7

小中一貫教育に期待できる効果

① 中学生の不登校出現率の減少

② 市町村または都道府県独自の学習到達度調査、全国学力・学習状況調査における平均正答率の上昇

③ 児童・生徒の規範意識の向上

④ 異年齢集団での活動による自尊感情の高まり

⑤ 教職員の児童・生徒理解や指導方法改善意欲の高まりや意識面の変化

特に小学校段階の中学生の先輩の良き振る舞いなどを学ぶことができたり、先輩である中学生も後輩である小学生の前でしっかりしなければならない、お互いの規範意識の向上が見込める
教職員の児童・生徒理解、そういった部分を高めることができたり、指導方法の改善による意識面の変化も望めるのではないかと

(出典:日本教育新聞)

8

埼玉県内ではどんな施設があるのか

施設一体型小中一貫校

坂戸市立城山小学校と城山中学校が埼玉県内では初の小中一貫校となる

義務教育学校

春日部市立江戸川小中学校が埼玉県内では初の義務教育学校となる

その後、日高市で義務教育学校(日高市立武蔵台小中学校・日高市立高根小中学校)2校が開校した

9

法的な位置づけとして

① 施設一体型小中一貫校

坂戸市立城山小学校・城山中学校は、通常の小・中学校の範囲での連携

② 義務教育学校

学校教育法が平成27年に一部法改正により、義務教育学校という制度が創設され、小学校と中学校の教育を一貫して提供することを目的として、平成31年に春日部市立江戸川小中学校が創立、令和5年と6年に日高市立武蔵台小中学校、日高市立高根小中学校の2校が創立された

③ 校長

坂戸市立城山小学校・中学校は学校ごとに校長先生2名のところ、校長先生が兼務しており1名となる
春日部市と日高市の場合は、校長先生が1名となり、もともと中学校籍の校長先生となっている

④ 複数教職員

教職員は小学校と中学校を合わせた形になるので、小中一貫校も義務教育学校も教頭先生2名、養護の先生2名、事務の先生2名となっている
坂戸市の場合、校長先生が兼務なので小学校に他1名加えることができる
義務教育学校でも同じ仕組み

10

法的な位置づけとして

⑤ 定数

小学校1校と中学校1校を義務養育学校1校に移行する場合、統計としては同じ定数となり差はない
日高市の義務教育学校は前期課程を小学校で6学級、後期課程を中学校で3学級、それに特別支援は前期にあたる特別支援ということで知的1学級と自閉症1学級で2学級
後期にあたる特別支援ということで知的1学級と自閉症1学級で2学級、全部合わせて13学級となり、13学級にあたる定数の計算で教職員の配置が決まる
これが通常の学校の配置と変わらない

11

特色ある教育

- ① 坂戸市では9年間を、発達段階の4(1～4年)・3(5～7年)・2(8・9年)制で設定している
1年～4年を45分授業、5年～7年までを学級担任制と教科担任制の授業の内容を45分と50分の授業の組合せをして併用している
同じようなことを春日部市と日高市でも行っている
- ② 春日部市では2～6年一部教科担任制、5・6年50分授業、1・2年英語タイムがあり異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される
日高市では7～9年50分授業、同様に異学年交流に期待
- ③ 日高市立武蔵台小中学校では、5年生から部活動への入部を許可している
部活動は中学校のものだけではない
小中一貫校であれば柔軟に取り入れることでそれが可能となる
- ④ 日高市の2校では「ふるさと科」という総合的な学習の時間を核とした新教科を設けている
文科省の教育課程の特例校と同じ扱いで、上限10%の範囲で実数の増減ができる
国語を何時間が減らし、理科を何時間が減らすなどで、総合時間に上乗せするなど義務教育学校では行うことができるということで、日高市ではウリにしている
- ⑤ 日高市立武蔵台小中学校では、制服自由化となっている

12

期待される効果

① 自尊感情の育成

多様な異学年交流を工夫することで自己肯定感が生まれ、下級生への慈愛や利他の心、上級生への尊敬や畏敬の念が育まれる

② 小中を一体として捉える教育の推進

「目指す15歳像」を設定してその実現を目指すためには、小中の教職員が所属感を高め、学習指導や生徒指導において互いに協力し、責任を共有して臨むことが重要である
そのためには組織体としての一体感を醸成し、義務教育9年間の系統性・連続性を重視した教育課程の構築が必要である
各教科等における系統性を明らかにしたカリキュラムの作成や、教科内や教科間の学習内容の関連性を意識して指導順序・指導内容を入れ替えたり、理解が難しく生徒がつまづき易い内容は、後の学年でも繰り返し指導をしたりするなどの工夫が可能となる

13

期待される効果

③ 小中ギャップの緩和・解消

小学校と中学校間の段差を緩和することで、小学校教育から中学校教育への円滑な移行を促すことが可能となり、中1の壁や小中ギャップと呼ばれる問題が緩和・解消する効果が期待される

④ 異学年交流による精神的な発達

1年生から9年生までの児童生徒が学校行事などを通じて異学年交流を行うことによって、上級生から下級生に対する思いやりの心、上級生・下級生の規範意識、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなどの醸成が期待される
異学年交流によって精神的な発達や社会性の育成等の効果が期待される

⑤ 継続的な生徒に対する指導

小学校と中学校が1つの学校という意識を持ち、9年間継続して児童生徒に対する指導が行われるため、教員間で児童生徒の情報が共有しやすくなり、児童生徒の個に応じたきめ細かな丁寧な生徒指導が可能となる

14

課題

- ① それぞれの小学校、中学校は別々でしたが、新年期から一緒になるときに、小学校で行っている行事、中学校で行っている行事をどうやってすり合わせていこうか、そういったところの準備にはかなり時間を掛けたり労力が必要であったと聞いている
- ② 委員会活動なども小学校の高学年から委員会活動がありますが、中学校の委員会活動と合わせた形で新しいものを作り上げていく
- ③ 制服について、日高市の武蔵台小中学校では制服は自由化という形にしている
ただ、小学校と同じ流れで中学校になっても私服でというのなかなか難しいという問題も出てきているという話を聞いている
高根小中学校と江戸川小中学校は後期課程にあたるところで制服としている
一応、卒業式はないが前期課程修了式というもので区切りをつけている

15

課題

- ④ 先生方の意識改革ということの難しさであったり、免許状の関係で義務教育学校は原則、小学校と中学校の教員免許を有することが求められる
中学校の美術の先生が美術の免許を持っていれば小学校の図工を教えることが出来る
中学校の音楽の先生が小学校の音楽を教えることが出来る
どちらかの学校の兼務するだとか、そういうことはせずに小中一貫校の中だけでやりくりできる
ただし、技術・家庭の技術の部分とかそのあたりは非常に悩ましいかなと思います
そこは特別支援のところに入って時間をある程度カウントするだとか、うまく工夫をしていかない
となりません

16

質疑応答

中学校の先生は上級免許を持っていれば小学校を教えることが可能だと言うお話を頂きました
小学校の先生の中にも中学校や高校の免許をお持ちの先生がいらっしゃると思います
そういった先生方は、一番心配なのは小学校で採用されているから中学校で教えて良いのかなという
疑問に思うところがあるのですが

先生方の中でやってみたいという気持ちがあれば、それをくみ取って相談しながら進めていく

私は小学校の免許しか持っていませんが、その場合は義務教育学校で勤務することは難しいということになりますか。

原則、小中学校の免許を持っていることになるのですが、当分の間はそれぞれ1つの免許で可能だということも明記されている

ですので先生が小学校の免許をお持ちであれば、義務教育学校とすれば前期課程を専門に授業を行って頂くこととなりますが、同じ学校の中に教え子がいますので授業以外で関わっていくこともできます

17

質疑応答

小中学校で先生方の持ち時間というものが違う
小中学校となった時に学校の中で先生方の持ち時間の差が出たときに何か問題になっていることがあるのか

今の小学校や中学校での学校の規模が変わってくる、一般的には小学校の先生の持ち時間が多く、中学校の方が小学校より少し少ないというのが統計的な数値です

小中一貫校を進めていくうえで何か最大の課題なのか
財政的な面は相当難題になるだろうがそれを除いて先生が予想される課題は何でしょうか

日高市に聞いてみましたが、それといった課題はないと言っていた
しいて言うなら、そこに行くまでの間に小中学校の先生は不安を抱えていた
大丈夫なのか？それが大きな課題になっていた
始まるとそのようなことは言ってもらえないし、半年もする内に良かったねと、そこまで至るまで非常に不安である

18

質疑応答

PTAはどう運営されているのでしょうか

義務教育学校はPTAは一つである

先生の負荷をいかに下げられるか
小中一貫校と義務教育学校とは先生方の業務課程は変わるものなのか

先生の負荷の部分ということでは、いろいろお話を伺っている中で差はほとんどない
子供たちにとって行っていることは同じことで、それがそれぞれの学校の違いだけである
城山小中学校でいうと義務教育学校ではないがやっていることは義務教育学校と同じことをしている

義務教育学校の準備期間がどれくらいあってスタートしているのか

準備期間については情報として聞けていないので、確認次第にお知らせする

19

参考資料「内外教育」2025.3.4から

■ 石川県珠洲市立宝立小中学校

小学校へ入学したところから卒業するまでの9年間に、ふるさとを題材にして学ぶ「ふるさと珠洲科」の学習を実施している

その学習を通してふるさとへの誇りと愛着を育むことを目的としている

長瀬町に置き換えれば、その地域の良さであったり課題や問題点であったりそれを小学校段階から系統的に学び、そしてそれが卒業した後も地域活動や町おこしなどに繋がっていくのではないかと
いうことが期待できる

日高市ではそれを意識している

人口減少であったりそういったところに現実的な課題について、小中学校段階で取り組んでいきたいということが書かれている

20

2. 坂戸市と日高市の学校視察について

■坂戸市 城山学園 (小中一貫型小学校・中学校)

日時:令和7年5月16日

参加人数:11名

長瀬町教育委員会 2名 検討委員会委員 9名

坂戸市教育委員会 2名 城山学園教職員 2名

内容:資料説明、学校見学、質疑応答

■日高市 武蔵台小中学校 (義務教育学校)

日時:令和7年5月21日

参加人数: 9名

長瀬町教育委員会 3名 検討委員会委員 6名

日高市教育委員会 2名 武蔵台小中学校教職員 2名

内容:資料説明、学校見学、質疑応答

21

■坂戸市 城山学園 (小中一貫型小学校・中学校)

資料説明

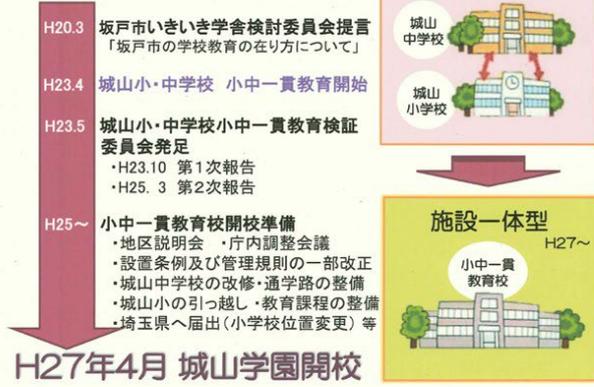


西坂戸 城山小学校 現在は廃校
跡地利用は今後の課題として未だ保留

現在は城山中学校に小も中もいるという状況

22

1 開校までの経緯



実際の会議はH18年より開始されている

H18 参加対象
学校関係者
保護者
市長
委員組織

一小一中で同じ学区の為
小中一貫校のモデルとして対象になる

H23 参加対象
両方のPTA会長
校長先生
教頭先生
学校協議委員

H25
中学校にて一体型にすると決定

23

坂戸市いきいき学舎検討委員会

(H18.10~H20.2)

委員	15名 (区長、PTA連合会、校長会、公募 等)
開催回数	10回 (委員会9回、先進地視察1回)
内容	・小中一貫教育の在り方 ・公立小・中学校の適正規模及び適正配置の在り方 ・その他坂戸市教育委員会が必要と認める事項

■ H20.3.27 提言「坂戸市の学校教育の在り方について」 ■

【抜粋】小中連携を深めていく中で、現状の立地条件を鑑みて、城山小学校と城山中学校は、同じ敷地内で学校生活を行う小中一貫校の「施設一体型」のモデル校として小中一貫教育を推進していく。

城山小・中学校小中一貫教育検証委員会

(H23.5~H25.3)

委員	10名	開催回数	10回
内容	施設一体型小中一貫校の設立に向けた検証		

■ H23.10.28 第1次報告

【抜粋】施設一体型の小中一貫校として総合的に考えた場合、校庭の位置や広さ、教育活動の円滑な実施等の視点から中学校を使用することが適切・・・(省略)

■ H25. 3.21 第2次報告

【抜粋】城山中学校の校舎等を活用した施設一体型小中一貫教育の開校は、・・・(省略)・・・教育的な見地から、児童・生徒、保護者、地域にとって有意義であると考え。・・・(省略)

城山小学校は校舎がドーナツ形状のようになっていて
100段の階段を經由して校庭へつながる導線だった

2クラス→単級になっていた

24

2 開校に向けての環境整備

保護者・地域との連携

- 地区説明会の開催（3回開催）
 - 1回目…H23.8.22 会場：城山小学校
 - 2回目…H23.8.24 会場：城山中学校
 - 3回目…H25.8.28 会場：城山公民館
- 開校準備委員会(学校・PTA・地区代表)
 - シンボルマークや学園歌、中学校の制服の変更、年間行事計画等を協議し決定



法の整備

H26年6月議会	坂戸市立学校の設置及び管理に関する条例一部改正議決（城山小を城山中の敷地内へ位置変更）
H26年8月教育委員会会議	坂戸市立小・中学校管理規則一部改正議決（小中一貫教育校 城山学園 規定）
H27年2月	埼玉県へ城山小位置変更の届出

2 開校に向けての環境整備

施設等の整備

- 小中一貫校整備工事(平成25年度～26年度)
 - 【職員室・給食室・プール・遊具等の整備】 72,958千円
- 軽量鉄骨校舎賃貸借 (H27.4.1～R7.3.31) 119,880千円
- 城山小備品移転及び廃棄(H26.7.30～H27.3.31)4,120千円

通学路の整備

- 通学路の防護柵の設置
- 信号機の設置
- ガードパイプの設置
- 歩道上の電柱の移設
- 横断歩道の設置



軽量鉄骨校舎(小1～小4)

職員室の拡張（用務員室を事務室へ）・電話数変更
給食室 小学校の換気扇フード移設・屋上防水工事
プール 一部20cm程かさ上げ工事・コースライン引き直し
校庭 小学校遊具の移設

軽量鉄骨校舎賃貸借(プレハブ校舎)
リース→無償譲渡 契約
H27.4～R7.03.31 リース
R07.4～R7.12.31 再リース
R8～ 無償譲渡

25

成果

- 教職員の兼務発令により、小学校高学年の教科担任制やTTの拡大が図れる。
- 校長兼務のため、定数内で1名多く配置され、多くの教員の目で子ども達を見られる。
- 中一ギャップの解消が図られている。

課題

- 小中兼務の校長の負担軽減
- 義務教育学校の設置について検討

TT(チームティーチング)
複数の教師が協力して行う授業方式の一つ

中一ギャップによる不登校事例は無い

研究成果による効果によっては今後の義務教育学校へのソフトチェンジも視野に入れている

26

特徴

- ・施設一体型の為、中学生が小学生の良いお手本になっている
- ・地域住民からの評判が良い
- ・不安要素無く中学への進級を感じている
- ・生徒一人ひとりに目が行き届く(一番多いクラスで18名)
- ・中学校教員が小学校高学年授業一部に関わっている
- ・地元学校応援団 大学との連携



- ・入学式、卒業式は1年～9年生全学年で行う
4月から中学生になる子供達は卒業式後1週間(終業式までの間)程学校に通い、中学校への準備期間としている
- ・運動会、音楽会も1年～9年生全学年で行う
中学生(の歌声)から大きな影響力があると感じる
- ・近隣住民の方々に通学路の除草・昇降口 植栽等の手入れ整備をボランティアにて行って頂いている
- ・大豆造り体験 弓削田醤油
- ・近隣大学の学生に来ていただいて合同部活動練習、校舎見学

27

特徴

- ・中学校教員が5・6年生の授業を受け持つ
50分授業、中学校教員に慣れてもらうことで中一ギャップ対策に繋がっている印象
- ・小学生5年生から部活動への参加を許可することで中学生との交流に繋げている
しかし、中学生数が少なく、部活動は成り立っていない背景もある
- ・文化部以外は小学生が所属している
人数による存続は今後の課題としている
近隣のチームと合同にての活動も行っている
- ・中学校は1クラス 各教科の先生の持ち時数が少ない
小学校には理科専科が在中
小学校専科指導の充実
- ・中学校にはスペシャルサポートルームがあり、毎日毎時間希望の授業を組んでいる

日課表 (金曜日の例)

1～4学年	5・6学年	7～9学年
8:15 開校式	8:15 開校式	8:15 開校式
8:20 エジニールでの学習 (15分)	8:20 エジニールでの学習 (15分)	8:20 本校の会 (10分)
8:35 朝の会	8:35 朝の会	8:35 朝の会 (10分)
8:45 授業準備 (5分)	8:45 授業準備 (5分)	8:45 授業準備 (10分)
9:00 1校時 (45分)	9:00 1校時 (45分)	9:00 1校時 (50分)
9:35 休み時間 (10分)	9:35 休み時間 (10分)	9:35 休み時間 (10分)
9:45 2校時 (45分)	9:45 2校時 (45分)	9:45 2校時 (50分)
10:30 スポーツタイム (20分)	10:30 スポーツタイム (20分)	10:30 休み時間 (10分)
10:45 3校時 (45分)	10:45 3校時 (45分)	10:45 3校時 (50分)
10:50 3校時 (45分)	10:50 3校時 (45分)	10:50 3校時 (50分)
11:35 休み時間 (10分)	11:35 休み時間 (10分)	11:35 休み時間 (10分)
11:45 4校時 (45分)	11:45 4校時 (45分)	11:45 4校時 (50分)
12:30 給食 (40分)	12:30 給食 (40分)	12:30 給食 (35分)
12:35 給食 (40分)	12:35 給食 (40分)	12:35 給食 (35分)
13:10 遊び好き (5分)	13:10 遊び好き (5分)	13:10 遊び好き (5分)
13:15 清掃準備 (5分)	13:15 清掃準備 (5分)	13:15 清掃準備 (5分)
13:20 清掃 (15分)	13:20 清掃 (15分)	13:20 清掃 (15分)
13:35 昼休み (20分)	13:35 昼休み (20分)	13:35 昼休み (20分)
13:50 5校時 (45分)	13:50 5校時 (45分)	13:50 5校時 (50分)
14:35 休み時間(10分)	14:35 休み時間(10分)	14:35 休み時間(10分)
14:45 6校時 (45分)	14:45 6校時 (45分)	14:45 6校時 (50分)
15:30 帰りの会 (10分)	15:30 帰りの会 (10分)	15:30 帰りの会 (10分)
15:40 下校	15:40 下校	15:40 下校準備 (5分)
15:45 放課	15:45 放課	15:45 帰りの会 (10分)
15:55 部活動	15:55 部活動	15:55 部活動
16:05 部活動	16:05 部活動	16:05 部活動
・ロングの休み (毎週水曜 13:20-13:55)		

28

学校見学



29

質疑応答

通学についてはどのように変化がありましたか

従来と変わらず基本的に徒歩通学としている
一部特認校制度を採用(市内外からの生徒)
小学校 3名 保護者の送迎
中学校 2名 1名保護者の送迎 1名自転車(特例)

少人数での手厚い制度に魅力を感じている親御さんからの支持を感じている

西校舎プレハブについて

元々の中学校の規模感で賄えると思うがあえて建てた意図はなんですか

体の大きさに合わせたつくりとしている
水道の高さ、トイレ等、中学校仕様は暮らしづらいと判断したため

30

質疑応答

空き家になっている小学校の10年後はどうなっているイメージか
現状空き家になっている箇所があるとのことですが維持管理はどうなっていますか

教育委員会から現在離れてしまっている
定期的な警備等は確認できていない

そのままでもいいかというところに関しては地域住民の声はあるのではないかと感じている
市全体の課題として捉えている

小学校に限らず市内にある公共施設跡地に向けた跡地利用検討委員会があります
そちらで協議していく形になります

当初施設が小学校、中学校で分離していたと思うがH27から一体型になった経緯は何かありますか
H20に施設一体型のモデル校がいいのではないかと提言が出てきたところから始まっている

31

質疑応答

校長先生がこの規模での兼務が続き、慣れてしまい、
このままで良いのではないかと教育委員会になった場合、教頭への委任の可能性はありますか

教育委員会から

現校長で4代目となるが決裁について軽微なものは兼務している

代理出席が許可されていない研修等は見直して頂きたいと感じている

時間外勤務について、80時間を超える等は現状無しで副校長などの検討はしていない

校長先生から

教務主任がいる為、協力合っている

小学校文化、中学校文化が未だあり日課表など完全に一体化し工夫、改善など行っていきたい

32

質疑応答

現時点では義務教育学校への移行していく必然性は感じていないというお話から先生達の目線、子供達の目線では移行への考えはどういうものがありますか

義務教育学校への取り組みはまだ走り出しているという印象がある
こちらではあんまり知見が得られていない

義務教育学校の良さは教育課程を変えられることだと思っているが
実績による良さ等の判断材料がまだ得られていない

今のところはこのままでも良いと思っている
もしも10年前の検討会での義務教育学校という選択肢があった場合には義務教育学校になっていた可能性も考えられる

33

質疑応答

最大の課題はなんですか

教育委員会から

人数の少なさへの課題
部活動に活発化が難しい
市役所があるなどと違いアクセスがしづらい

クラス替えができない
固定された人間関係によって気分を変えたりが難しい

校長先生から

地域制も併せて家庭の事情も様々で
協力を得辛い生徒も中にはいる為、
生徒指導等で苦慮するケースもある

小学校の内容の提案、中学校の内容の提案、
小中合同の内容の提案をまとめるのに時間が掛かる

動きが違うため教員全員が揃う時間が無い。朝、放課後等に会議や意見交換の場を作りづらい

小学校の先生の生徒に対する思い、中学校の先生の生徒に対する思いの違い、
運動会にしてもそれぞれ先生方の思いを抑えて頂いたり、説得して頂いたり積み上げてきたもの、
今の形に収まるまでに11年目で自然になっていった
義務教育となるとまた別ですが折り合いを付けていくことが大切

34

■日高市 武蔵台小中学校（義務教育学校）

資料説明 ・義務教育学校 開校までの歩み
・武蔵台小中学校の今
・今後の構想

開校準備にあたって
やるべきこと・やらなければならないこと教育課程を編成する

- ・日課表
- ・カリキュラム
- ・学校行事
- ・年間計画表

- ・PTA組織再編
- ・校歌どうする
- ・校章どうする
- ・記念品、記念誌どうする
- ・体育着どうする
- ・制服どうする
- ・教室配置は・・・
- ・職員室の座席配置は・・・
- ・引っ越し作業はどうする

校児童生徒が写った写真を載せたい・時計 保護者、地域住民への相談
3種類作成 保護者会・QRコードで保護者向けにアンケートを行った
制服検討委員会 教職員、保護者 最終決定は校長

当初前期後期分かれていたが現在は合同



35

■日高市 武蔵台小中学校（義務教育学校）

資料説明

意識改革
工程表を作成し教員同士で共有
学校の未来像を示す
いつまでに何を
不安要素の共有

全てをゼロベースで考える
県内県外に無い新しい学校を作る



36

学校見学



37

質疑応答

城山学園を視察後に参考にした点等がありますか
その他検討した事案はありますか

城山学園含め、浅野学園含め、義務教育学校、小中一貫校どちらも視察した結果
先生方の意識の違い、小学校には小学校の文化、中学校には中学校の文化がある

その文化の違いを割ることが生徒達にとって一番都合が良いことなのかどうか考えた時に
日高市の場合はそれを一緒にすることによって1人の校長で
1年生～9年生までカリキュラムを組んでお互いに助け合ったりするそういうことを意図してやってきた

先生方の意識改革、教職員の色々な意見を取り入れていながら1つの大きなまとまりを作り上げた
ここが一番の大きな違いだと思います

ただ城山学園の教育を中に入れて体験したわけではないのでなんとも言えませんが
日高市はそっちの方がやりやすい、先生方の意識が向きやすい
そういうかたちで義務教育学校にしたというのがあります

38

質疑応答

日高市が6地区の小中一貫教育を進める中で3つの義務教育学校、3つの小中一貫教育の流れで今に至りますが、規模の問題で義務教育学校にならなかったとのことですが、いずれは移行していくのでしょうか

いずれR10、20年、人数が減っていけば統合の話も現在出ています
現在ある施設を生かすという面で現状は人数が減ってきてからの検討としています

名称が義務教育学校(後期)になっていない点について

子供たちにとって義務教育学校は長すぎる
「義務教育学校」「小中一貫教育校」等は冠称として使用している

新しい教科、ふるさと科について

郷土に対する誇りなどは芽生えていますか

本校生徒はほとんどが団地から通学している
保護者の方々はほとんど地域の特性を知らない中で、昨年の活動を通して生徒達の感想を見る限り、地域の特性を知ることが出来たと感じている
今後は発展させて未来を提言させていくことが課題

39

質疑応答

ふるさと科は週何時間と決まっていますか

生活科と総合科を合わせている
年間約70時間として行っている

運動会での退屈を感じない様にしている工夫はありますか

基本午前中での開催としている
1年生の種目の時は9年生が補助にあたる
リレーなど全学年合同の種目も取り入れている為、退屈を感じない様にしている

PTAについて小学校、中学校で体制の違いはどのように解決しましたか

開校前年度に「持続可能なPTAにしよう」を前提とし、出来る人は出来ることをやって、負担をかけない様にしよう
内容の見直しをした上で必要最小限のピックアップ、すり合わせを行いました
どちらに合わせるという考えではなく、ゼロベースで1から考え直しました

40

質疑応答

義務教育学校、小中一貫校どちらにするかの議論の中で
「1つの学校としてやるのが大事なこと」としていましたが1番の課題としていたことはなんですか

子供達はすぐに順応できたが教職員の意識が向きづらいというのがあった

品川学園にR2視察時に校長先生が言っていたのは
やはりどうしても教職員同士がギクシャクしてしまうという点がある

中学校教員が部活に出る時に小学校教員がお菓子を食べている
小学生がうるさい
という声が聞こえてくることを問題視していた

「1つの学校」であればそのような問題は起こらないのではないかと考えた
開校時から伝え続けることで次第に先生方の意識が徐々に変わっていった
そのような意識改革は行っている

41

質疑応答

教員免許への弊害はありますか

特に感じてはいません
日高市全体にて希望者へは通信制度や夏休みの集中講座など助成金制度があります

開校1年を経て制服自由化について保護者の意見はどんな内容ですか

開校後約半年後に保護者向けアンケートを行った結果、
心配な点として「正装が分かりにくい」という意見があり、行う上で課題として
1つは冠婚葬祭(TPO)についてこうしなければならないという指導ではなく、
どう思うかを投げかけ、問いかけを行っている

中学3年生はどのような服装で入試に行きますか

今までの制服やお下がり等、いっさい制服が無い生徒については
制服もどきを提案、保護者支援できるよう準備途中です

昨年度の音楽会では8割が今までの制服やリサイクル品を身に着けていた

42

質疑応答

義務教育学校になってから不登校生徒についての変化や良かった点等がありますか

現時点で成果といえるものはありませんが、教員側としては全職員が把握できる状況になったといえる

全生徒と全教職員が関わる様に制度が成り立っているので
今後不登校生徒の数も減っていくのではないかと考えている

第6回
長瀬町小中一貫教育
検討委員会

開催:令和7年8月28日



本日の
主な内容

(1) ワーキンググループ

- ・ 一貫教育で期待できることはなんですか
- ・ 長瀬町の小中一貫校の設置形態

(2) その他

ワーキンググループ メンバー

グループA	野澤	酒井	林	鈴木
グループB	堀口	本多	野村	蓮沼
グループC	染野	小島	高橋	

3

事前課題

委員名：

8月28日のWG(ワーキンググループ)では、グループごとに議論していただきます。皆様の長瀬町小中一貫教育に向けた思いを整理していただき、当日の議論をより充実したものとするために、事前課題をご用意いたしました。当日は、この事前課題を用いて議論を行いますので、ご記入の上、当日ご持参ください。また、この事前課題はWG終了時に回収させていただきます。

一貫教育で期待できることはなんですか
一貫教育で「何がしたいか」から、新しい学びの場として「何ができるか」を考え、活用イメージを具体化してください。

【記入欄】
例) 私はこの一貫教育で〇〇をしたいと考えています。
このやりたいことは、長瀬らしさの〇〇を活用して、〇〇をすることで実現化できると考えています。
具体的には_____。

長瀬町の小中一貫校の設置形態
小中一貫教育を実施するには、どのような形が望ましいと考えますか？

【記入欄】

6) 第7回検討委員会資料

第7回 長瀬町小中一貫教育 検討委員会

開催:令和7年11月25日



1

本日の 主な内容

1. 開会・挨拶

2. 経緯・経過

- ① 児童生徒数の推移
- ② 老朽化状況
- ③ 施設について

2

本日の 主な内容

3. ワーキンググループ(3班体制)

- ① 児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について
 - ・施設分離型にするのか
 - ・同一敷地隣接型にするのか
 - ・施設一体型にするのか
- ② 義務教育学校と小中一貫型小学校・中学校のどちらがふさわしいか
- ③ ワーキンググループの意見発表

4. 閉会

3

ワーキンググループ メンバー

グループA	野澤	酒井	鈴木	林	
グループB	堀口	本多	野村	蓮沼	
グループC	福島	染野	平井	大沢	高橋

4

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

小中一貫校 教職員数について

5

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移



6

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

小中一貫校の開始をR13年度とした場合

学校名	児童生徒数
長瀬第一小学校	119
長瀬中学校	92

7

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

児童生徒数に対して
職員数は？

8

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

各学校における教職員数

◎ 学校に配置される職員の数のこと

学級数を根拠に確定される

◎ 小中一貫校の場合

小学校・中学校の学級数で決定される

9

2. 経緯・経過

教職員数を令和13年度で仮定すると

学校	学級(見込み)	職員定数
長瀬第一小学校	8(通常 6・特支 2)	11(校長・教頭・教諭) 養護教諭 1・事務職員 1
長瀬中学校	5(通常 3・特支 2)	12(校長・教頭・教諭) 養護教諭 1・事務職員 1
これを小中一貫 とした場合	職員数は27名となる。	

小中一貫校には上記の教職員が配置される。

※ 校長を1名とした場合、もう1名分は教諭を配置することができる。

10

2. 経緯・経過

他市町の小中一貫校の教職員数

	奥武蔵学園		城山学園		武蔵台小中学校		つばさ小・川島中	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
通常学級数	6	3	6	3	7	3	10	6
特支学級数	2	2	2	2	3	2	3	2
職員数	11	12	11	12	13	12	17	16
養教	1	1	1	1	1	1	1	1
事務	1	1	1	1	1	1	1	1
職員数計	13+14 =27		13+14 =27		15+14 =29		19+18 =37	

11

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

追加での教員配置について

市町・学校の実態に合わせて、職員が配置される場合がある

12

2. 経緯・経過

① 児童生徒数の推移

小中一貫校が一体型の場合のメリット

- ◎ 9年間で一貫したふるさと教育の実現
- ◎ 中1ギャップへの対策
- ◎ 小中学校それぞれの視点に立った児童生徒支援
- ◎ 小中での一貫した学習指導が可能

13

2. 経緯・経過

② 老朽化状況

- ・ 長瀬第一小学校・長瀬中学校の状況としては、小学校が約50年、中学校も約54年が経過しており、屋根、外装、内装、設備とも広範囲にわたり劣化が進行しています。昨年、漏水により天井の一部が落下するなど、改修工事を行っています。そういうことから、今後、長寿命化改修工事はさけては通れないと考えます。
- ・ 学校給食センターは竣工後44年が経過し、その後は大規模な改修工事が行われていないため、屋根、外装、内装、設備の劣化が進んでおり、特に排水管の劣化が著しい状況です。学校給食衛生管理基準を満たしていないため、早急な改築工事が必要になります。

14

2. 経緯・経過

② 老朽化状況 昨年度に実施している劣化状況調査による評価

基準年: 2024年

施設名	建物名	構造	建築年数	経過年数	屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度 (100点)
長瀬第一小学校	西校舎	RC造	1976	48	C	C	C	C	C	40
	東校舎	RC造	1978	46	C	C	C	C	C	40
	体育館	RC造	1979	45	B	C	C	C	C	43
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52	B	B	C	C	C	53
	技術棟 (特別教室棟)	RC造	1979	45	B	D	D	C	C	23
	体育館	RC造	1970	54	B	B	C	C	C	53
	剣道場	SRC造	1986	39	B	B	C	C	C	53
	卓球場 (柔道場)	木造	1995	29	B	B	B	B	B	75

■屋根・屋上、外壁の評価基準

A:概ね良好

B:部分的に劣化

C:広範囲に劣化

D:早急に対応する必要がある

■内部仕上げ、電気・機械設備の評価基準

A:20年未満

B:20年~40年

C:40年以上

D:経過年数に関わらず著しい劣化事象がある

15

2. 経緯・経過

③ 施設について

・ 年間の維持管理コスト(5年間)

◎小学校 年間平均 824万円

◎中学校 年間平均 561万円

◎給食センター 年間平均 564万円

5年間で
みると



今後も建物の
老朽化に伴い、
修繕費は増加
していく

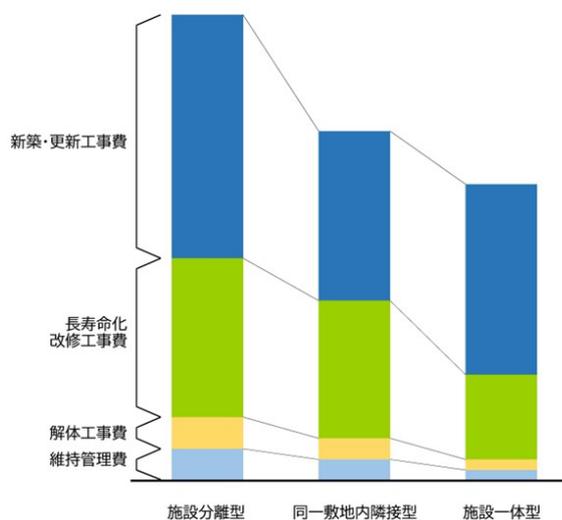
16

2. 経緯・経過

③ 施設について

・ 管理効率性

将来、児童生徒の数が減少する中で、小学校と中学校と学校給食センターを目標使用年数まで維持し、その間に長寿命化改修工事など莫大な費用を掛けても、いずれそれぞれの建物が更新の時期を向かえて、建替えを行うのであれば、施設一体型へシフトすることで、財政的にも負担が軽くなります。



17

2. 経緯・経過

③ 施設について

・ 補助金等について

18

3. ワーキンググループ

- ① 児童生徒が減少するなかで学校施設のあり方について
 - ・ 施設分離型にするのか
 - ・ 同一敷地隣接型にするのか
 - ・ 施設一体型にするのか
- ② 義務教育学校と小中一貫型の小学校・中学校はどちらがよいか
- ③ ワーキンググループの意見発表

19

4. 閉会

20

(3) 小中一貫教育についてのアンケート

1) 地域住民に向けた挨拶文

地域のみなさまのご意見をお聞かせください 小中一貫教育についてのアンケート

長瀬町教育委員会では、将来予想される児童生徒数を基に、より良い教育環境の整備に向けて検討を重ねてまいりました。令和4年6月には「長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画」を策定し、この計画に準じて、令和6年4月に小学校を統合しました。

長瀬町の児童生徒数は年々減少傾向にあり、このままのペースで減り続けると、令和9年には小学校が、令和12年には中学校も含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されています。

今後、長瀬町では児童生徒数の減少に応じたより良い教育環境を整えるため、義務教育期間の9年間における長瀬町らしい教育課程の編成とその実行にふさわしい教育体制を構築していきます。

この教育体制の改革を行っていくなかで、学び舎となる学校施設はすでに約50年を経過しており、老朽化が進行している状況です。

令和4年6月には、「長瀬町公共施設長寿命化計画」を策定し、校舎や体育館を今後も長く活用していくための長寿命化改修工事を行うものと定めておりますが、児童生徒数が減少している現状において、ひとつの校舎で町の全児童生徒が学ぶことができる状況です。

このため、大きすぎる学校施設をそのまま維持していくことは、施設管理の面でも、財政面からみても効率的ではありません。また、施設の老朽化も進行していることから、一貫教育に向けた教育体制の改革を行うなかで、適切な施設規模に見直しを図ることも必要となっております。

そこで、地域のみなさまには、今後の学校のあり方についてご意見を伺いたくアンケートを実施することとしました。

令和6年7月吉日
長瀬町教育委員会

※このアンケートは、住民基本台帳より、無作為抽出して送付させていただきました。

はじめに、【長瀬町学校教育施設を取り巻く状況】をご覧ください、別紙のアンケートにご回答ください。
ご本人様がお答えできない場合は、代理の方にご回答をお願いします。

ご回答いただきましたら、同封の返信用封筒をご使用いただき、**令和6年8月2日(金)まで**にご投函ください。

※本アンケートは、小中一貫教育に向けて検討するための基礎資料として活用させていただきます。ご回答いただいた内容が必ず反映されるものではありませんので、あらかじめご了承ください。

～ ワークショップ開催のお知らせ ～

今後の学校のあり方について、みなさまのご意見をお聞きしたく、ワークショップを開催します。地域のみなさまからワークショップの参加者を募集いたしますので、ご興味がある方は長瀬町教育委員会までご連絡ください。

なお、ご希望される方が予定人数より多い場合は、抽選とさせていただきます。

開催回数:全2回を予定(9月末、11月末)

※ワークショップへのご参加は、2回出席できる方を対象とさせていただきます。

ご連絡先:0494-66-3111 長瀬町教育委員会

【長瀬町学校教育施設を取り巻く状況】

■将来の児童生徒数の推移予測

長瀬町の児童生徒数は年々減少傾向にあり、このままのペースで減り続けると、令和9年には小学校が、令和12年には中学校も含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されます。将来の児童生徒数の減少に応じて適切な施設規模に縮小するなど運営面においても検討が必要です。



■学校施設の整備状況

長瀬町の学校施設は、1970年代に建てたものが多く、約50年が経過しており、施設の老朽化が進行しています。また、校舎は当初、小学校18クラス、中学校12クラスの規模として整備しましたが、児童生徒は年々減少し、現在では小学校10クラス、中学校6クラスを使用している状況です。今後も必要なクラス数は減少していくことが予想されており、大きすぎる校舎をこのまま維持していくことは、施設管理の面でも、財政面からみても効率的ではありません。また、施設の老朽化も進行していることから、一貫教育に向けた教育体制の改革を行うなかで、適切な施設規模に見直しを図ることも必要となっています。

施設名	建物名	建物構造	建築年度	経過年数
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	47
	体育館	RC造	1978	46
長瀬第二小学校	校舎	RC造	1976	48
	体育館	RC造	1977	47
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52
	特別教室棟	RC造	1979	45
	体育館	RC造	1970	54
	剣道場	SRC造	1984	40
	柔道場	木造	1995	29

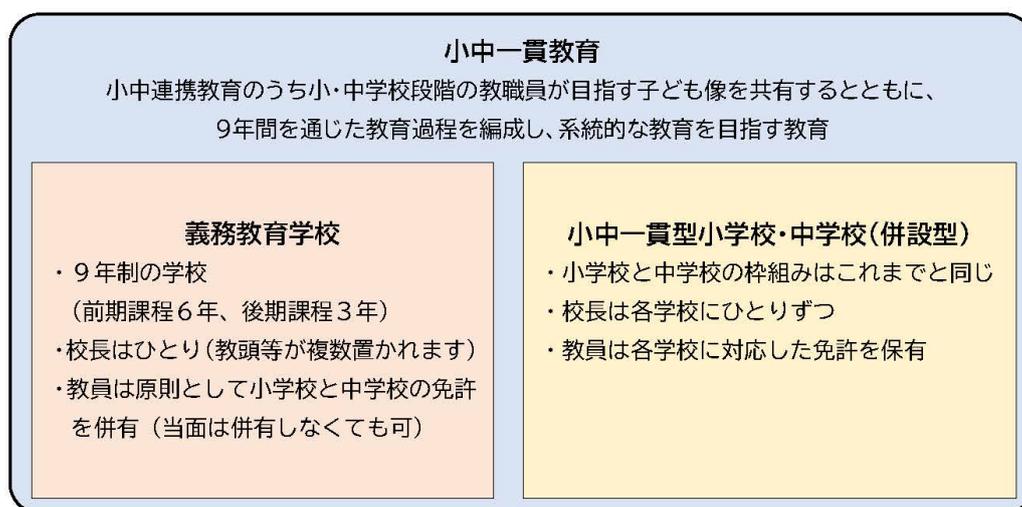
RC造：鉄筋コンクリート構造、SRC造：鉄骨鉄筋コンクリート構造

■長瀬町の小中一貫教育について

長瀬町では児童生徒数の減少に応じたより良い教育環境を整えるため、義務教育期間の9年間における長瀬町らしい教育課程の編成とその実行にふさわしい教育体制の構築について検討しています。

長瀬町で小中一貫教育を実施する場合、「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校(併設型)」の2つの学校運営の方法があります。「小中一貫型小学校・中学校(併設型)」は小学校・中学校の枠組みを残しつつ小中一貫教育に取り組む運営形態で、「義務教育学校」は9年制の学校として義務教育を一貫して行うことにより、教育活動などについて一貫性を確保した取組みを容易にすることを目的に平成28年に国が導入した運営形態です。

今後、学校運営の方法や学校施設のあり方について、本アンケートを参考に、長瀬町小中一貫教育検討委員会などの場で協議を重ねて、方針を定めていきます。



※義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校(併設型)のどちらであっても、施設の形態は、施設一体型(小中学校の校舎が一体的に設置されている形態)、施設隣接型(小中学校の校舎が隣接して別々に設置されている形態)、施設分離型(小中学校の校舎が隣接していない敷地に別々に設置されている形態)のいずれの形態もとることができます。

■学校教育制度等のお知らせ

長瀬町の学校教育に関する取り組みや小中一貫教育制度について参考となるwebページを紹介します。

長瀬町 HP	長瀬町小中一貫教育検討委員会について https://www.town.nagatoro.saitama.jp/life/長瀬町小中一貫教育検討委員会について/
文部科学省 HP	小中一貫教育の推進について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/1357575.htm

2) 保護者に向けた挨拶文と設問

保護者のみなさまのご意見をお聞かせください 小中一貫教育についてのアンケート

長瀬町教育委員会では、将来予想される児童生徒数を基に、より良い教育環境の整備に向けて検討を重ねてまいりました。令和4年6月には「長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画」を策定し、この計画に準じて、令和6年4月に小学校を統合しました。

長瀬町の児童生徒数は年々減少傾向にあり、このままのペースで減り続けると、令和9年には小学校が、令和12年には中学校も含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されています。

今後、長瀬町では児童生徒数の減少に応じたより良い教育環境を整えるため、義務教育期間の9年間における長瀬町らしい教育課程の編成とその実行にふさわしい教育体制を構築していきます。

この教育体制の改革を行っていくなかで、学び舎となる学校施設はすでに約50年を経過しており、老朽化が進行している状況です。

令和4年6月には、「長瀬町公共施設長寿命化計画」を策定し、校舎や体育館を今後も長く活用していくための長寿命化改修工事を行うものと定めておりますが、児童生徒数が減少している現状において、ひとつの校舎で町の全児童生徒が学ぶことができる状況です。

このため、大きすぎる学校施設をそのまま維持していくことは、施設管理の面でも、財政面からみても効率的ではありません。また、施設の老朽化も進行していることから、一貫教育に向けた教育体制の改革を行うなかで、適切な施設規模に見直しを図ることも必要となっています。

そこで、保護者のみなさまには、今後の学校のあり方についてご意見を伺いたくアンケートを実施することとしました。

令和6年7月吉日
長瀬町教育委員会

はじめに、2～3頁の【長瀬町学校教育施設を取り巻く状況】をご覧ください、4頁からのアンケートにご回答ください。

ご本人様がお答えできない場合は、代理の方にご回答をお願いします。

下記のアンケートサイトまたは、二次元コードからアクセスいただき、ご回答ください。

なお、ご兄弟がおられる世帯でもアンケートのご回答は1件をお願いします。

ご参考までに、アンケートの設問を添付いたします。

アンケートは、令和6年8月2日(金)までにご回答ください。

<https://questant.jp/q/D0H64DBW>



※本アンケートは、小中一貫教育に向けて検討するための基礎資料として活用させていただきます。ご回答いただいた内容が必ず反映されるものではありませんので、あらかじめご了承ください。

～ ワークショップ開催のお知らせ ～

今後の学校のあり方について、みなさまのご意見をお聞きたく、ワークショップを開催します。地域のみなさまからワークショップの参加者を募集いたしますので、ご興味がある方は長瀬町教育委員会までご連絡ください。

なお、ご希望される方が予定人数より多い場合は、抽選とさせていただきます。

開催回数:全2回を予定(9月末、11月末)

※ワークショップへのご参加は、2回出席できる方を対象とさせていただきます。

ご連絡先:0494-66-3111 長瀬町教育委員会

【長瀬町学校教育施設を取り巻く状況】

■将来の児童生徒数の推移予測

長瀬町の児童生徒数は年々減少傾向にあり、このままのペースで減り続けると、令和9年には小学校が、令和12年には中学校も含めたすべての学年が単一学級(学年1クラス)になると予想されます。将来の児童生徒数の減少に応じて適切な施設規模に縮小するなど運営面においても検討が必要です。



■学校施設の整備状況

長瀬町の学校施設は、1970年代に建てたものが多く、約50年が経過しており、施設の老朽化が進行しています。また、校舎は当初、小学校18クラス、中学校12クラスの規模として整備しましたが、児童生徒は年々減少し、現在では小学校10クラス、中学校6クラスを使用している状況です。今後も必要なクラス数は減少していくことが予想されており、大きすぎる校舎をこのまま維持していくことは、施設管理の面でも、財政面からみても効率的ではありません。また、施設の老朽化も進行していることから、一貫教育に向けた教育体制の改革を行うなかで、適切な施設規模に見直しを図ることも必要となっています。

施設名	建物名	建物構造	建築年度	経過年数
長瀬第一小学校	校舎	RC造	1977	47
	体育館	RC造	1978	46
長瀬第二小学校	校舎	RC造	1976	48
	体育館	RC造	1977	47
長瀬中学校	校舎	RC造	1972	52
	特別教室棟	RC造	1979	45
	体育館	RC造	1970	54
	剣道場	SRC造	1984	40
	柔道場	木造	1995	29

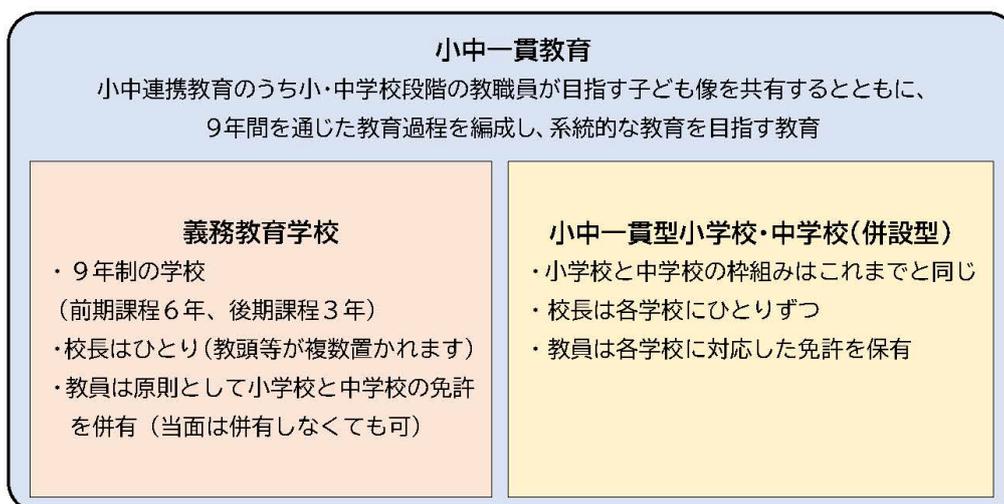
RC造：鉄筋コンクリート構造、SRC造：鉄骨鉄筋コンクリート構造

■長瀬町の小中一貫教育について

長瀬町では児童生徒数の減少に応じたより良い教育環境を整えるため、義務教育期間の9年間における長瀬町らしい教育課程の編成とその実行にふさわしい教育体制の構築について検討しています。

長瀬町で小中一貫教育を実施する場合、「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校(併設型)」の2つの学校運営の方法があります。「小中一貫型小学校・中学校(併設型)」は小学校・中学校の枠組みを残しつつ小中一貫教育に取り組む運営形態で、「義務教育学校」は9年制の学校として義務教育を一貫して行うことにより、教育活動などについて一貫性を確保した取り組みを容易にすることを目的に平成28年に国が導入した運営形態です。

今後、学校運営の方法や学校施設のあり方について、本アンケートを参考に、長瀬町小中一貫教育検討委員会などの場で協議を重ねて、方針を定めていきます。



※義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校(併設型)のどちらであっても、施設の形態は、施設一体型(小中学校の校舎が一体的に設置されている形態)、施設隣接型(小中学校の校舎が隣接して別々に設置されている形態)、施設分離型(小中学校の校舎が隣接していない敷地に別々に設置されている形態)のいずれの形態もとることができます。

■学校教育制度等のお知らせ

長瀬町の学校教育に関する取り組みや小中一貫教育制度について参考となるwebページを紹介します。

長瀬町 HP	長瀬町小中一貫教育検討委員会について https://www.town.nagatoro.saitama.jp/life/長瀬町小中一貫教育検討委員会について/
文部科学省 HP	小中一貫教育の推進について https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/ikkan/1357575.htm

【小中一貫教育についてのアンケート】

学校の今後のあり方について、みなさまのご意見をお聞かせください。

1. お住まいの地域を選択してください。

- ① 長瀬 ② 本野上 ③ 中野上 ④ 井戸・風布
⑤ 野上下郷 ⑥ 岩田 ⑦ 矢那瀬

2. 長瀬町での居住年数を選択してください。

- ① 5年未満 ② 5～9年 ③ 10～19年 ④ 20年以上

3. お子さんの学年を教えてください。

2人以上お子さんがいる方は、該当するものすべてを選択してください。

- ① 就学前 ② 小学1～3年生 ③ 小学4～6年生
④ 中学生

4. ご回答いただいている方の年齢を選択してください。

- ① 29歳以下 ② 30歳代 ③ 40歳代 ④ 50歳代
⑤ 60歳代 ⑥ 70歳代以上

5. 小学校から中学校までの9年間を通じて、教育内容の連携や教育目標の統一を図る一貫教育に向けた取り組みが検討されていることを知っていますか。

- ① 知っている
② 知らなかった

6. 小中一貫教育の基本形態として、「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」があることを知っていますか。

- ① 知っている
② 知らなかった

7. 長瀬町で小中一貫教育を実施する場合、「義務教育学校」と「小中一貫型小・中学校」のどちらがふさわしいと思いますか。

※お配りした資料3頁の「■長瀬町の小中一貫教育について」を参照してください。

- ① 義務教育学校
- ② 小中一貫型小・中学校
- ③ わからない

8. 小中一貫教育の実施にあたり、どのようなことを期待しますか。

3つ選択してください。

- ① 小学校6年・中学校3年とは異なる学年段階の区切り(4年・3年・2年制など)を設けることができる。
- ② 小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活に不応を起す現象(いわゆる「中1ギャップ」)の緩和につながる。
- ③ 小学校で定着しきれなかった学習内容を中学校で補うことができる。
- ④ 異年齢とのコミュニケーションの機会が増える。
- ⑤ 小学生の中学生へのあこがれ、中学生の小さい子への思いやりが育まれる。
- ⑥ 9年間の系統性や発展性を踏まえた教育計画により、学力や体力が向上する。
- ⑦ 教員の連携・協力が一層密になり、より丁寧に継続した指導や支援が充実できる。
- ⑧ 中学校教員の専門性を活かした小学校での授業への関わりが増える。
- ⑨ その他()

9. 小中一貫教育の実施にあたり、どのような課題があるとお考えですか。

2つ選択してください。

- ① 小学校と中学校の節目がなくなり、新たな気持ちの切り替えや進学する充実感がなくなる。
- ② 小学1年生と中学3年生では体格差があり、小学生が委縮してしまう。
- ③ 中学生の行動や振る舞いが小学生の発達に影響を及ぼす。
- ④ 小学5・6年生がリーダーシップや自主性を養う機会が減る。
- ⑤ 人間関係が9年間固定化しやすくなる。
- ⑥ 特に課題はない。
- ⑦ その他()

10. 9年間を通じた小中一貫教育の実施にあたり、どのような施設形態がふさわしいと思いますか。

- ① これまでとおり、長瀬第一小学校と長瀬中学校、別々に離れた敷地の校舎で一貫教育に取り組む。
- ② 長瀬第一小学校か、長瀬中学校どちらかひとつの校舎で一貫教育に取り組む。
- ③ その他()
- ④ わからない

11. 小中一貫教育の実施にあたり、校舎の整備はどのような形がふさわしいと思いますか。

- ① 今の校舎を改修して今後も使っていく。
- ② 校舎が老朽化しているので、児童生徒数に適した規模で建替える。
- ③ その他()
- ④ わからない

12. 地域に開けた学校施設に向けて、学校施設を学習や交流の場として地域住民に開放したら利用したいと思いますか。

- ① 利用したい ⇒ ①を選択された方 **設問13 から**
- ② 利用したいと思わない ⇒ ②または③を選択された方 **設問14**
- ③ わからない

13. 設問12 で、①学校施設を利用したいと回答した方にお尋ねします。
どの施設を利用したいと思いますか。3 つ選択してください。

- ① グラウンド
- ② 体育館
- ③ 図書室
- ④ 家庭科室(料理教室利用)
- ⑤ 美術室、図工室、金工室(趣味・工作利用)
- ⑥ 音楽室(楽器の演奏など)
- ⑦ その他()
- ⑧ わからない

14. 最後にその他ご意見等がありましたら、お聞かせください。

質問は以上です。
ご協力ありがとうございました。

(4) 小中一貫教育に係るワークショップ

1) 第1回ワークショップ資料



第1回 小中一貫教育検討に係るワークショップ

1st Workshop on Integrated Elementary and Junior High School Education

開催：令和6年9月25日（水）

Trey
research

1

本日のプログラム

- 1.開会
- 2.これまでの取り組み
- 3.小中一貫教育の方向性
- 4.現任教職員の意見
- 5.学校施設に対するグループディスカッション
- 6.学校施設の地域活用に対するグループディスカッション
- 7.学校施設の配置検討グループディスカッション
- 8.グループディスカッション発表
- 9.閉会



Trey
research

2



1. 開会

1. Opening of the meeting

Trey
research

3



2. これまでの取り組み

2. Past efforts

Trey
research

4

2. これまでの取り組み（1/4）

2020（令和2）年度

- ・ 長瀬町公共施設長寿命化計画（総合管理計画）策定
 - ・ 学校施設の劣化状況評価を実施
 - ・ 学校施設の長寿命化に向けたロードマップを作成
- ・ 長瀬町学校のあり方検討委員会設置

2021（令和3）年度

- ・ 学校教育についてアンケートを実施

2. これまでの取り組み（2/4）

2022（令和4）年度

- ・ 長瀬町立小中学校適正規模・適正配置基本方針及び基本計画策定
 - ・ 長瀬第一小学校と長瀬第二小学校の統合
 - ・ 小中一貫教育に向けた施設の検討

2023（令和5）年度

- ・ 長瀬町公共施設劣化状況調査・耐力度調査を実施

2. これまでの取り組み（3/4）

2024（令和6）年度

- 長瀬第一小学校に長瀬第二小学校を統合
- 長瀬町小中一貫教育検討委員会設置
- 小中一貫教育についてのアンケート実施
 - 小中一貫教育について
 - 旧長瀬第二小学校の跡地活用について
- 学校施設の劣化状況等調査を実施
- 小中一貫教育検討に係るワークショップ開催

2. これまでの取り組み（4/4）

小中一貫教育アンケートの結果（抜粋）

- アンケート回収率は37%
- 長瀬町が小中一貫教育に向けた取り組みを行っているのを44%の人が知らなかった
- 小中一貫教育に義務教育学校と小中一貫型の形態があるのを約60%の人が知らなかった
- 学校施設の地域開放について、54%の人が利用したいと回答

アンケートの結果に対する検討委員会の意見

- 町民に小中一貫教育に「**関心**」を持ってもらうことが重要
- 「**長瀬町の特性**」を理解して取り組むことが重要

小中連携教育	小・中学校段階の教員が互いに情報交換や交流を行うことを通じて、小学校教育から中学校教育への円滑な接続を目指す様々な教育。		
小中一貫教育	小中連携教育のうち、小・中学校段階の教員が目指す子供像を共有し、9年間を通じた教育課程を編成し、系統的な教育を目指す教育。 いずれの学校も施設の形態（一体型、隣接型、分離型）は問わない。		
	①義務教育学校 新たな学校種（1つの学校） ⇒1人の校長、1つの教職員組織 修業年限：9年 （前期課程6年＋後期課程3年）  <p style="text-align: center;">校長</p>	小中一貫型小学校・中学校 組織上独立した小学校及び中学校が一貫した教育を施す形態 ⇒それぞれの学校に校長、教職員組織	
		②併設型小学校・中学校 （同一の設置者）  <p style="text-align: center;">校長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一貫教育にふさわしい運営体制の整備が要件 ・統合調整を担う校長を定める ・学校運営協議会の合同設置 ・校長等の併任 	③連携型小学校・中学校 （異なる設置者）  <p style="text-align: center;">校長</p> <p style="text-align: center;">校長</p> <p>併設型小・中学校を参考に適切な運営体制を整備</p>

出典：小中一貫した教育課程の編成・実施に関する手引き/文部科学省より作成



3. 小中一貫教育の方向性

3. Direction of Integrated Elementary and Junior High School Education

3. 小中一貫教育の方向性

施設整備の方向性

- 長瀬第一小学校を長瀬中学校に集約する。
- 校舎、体育館などは建替えを行う。

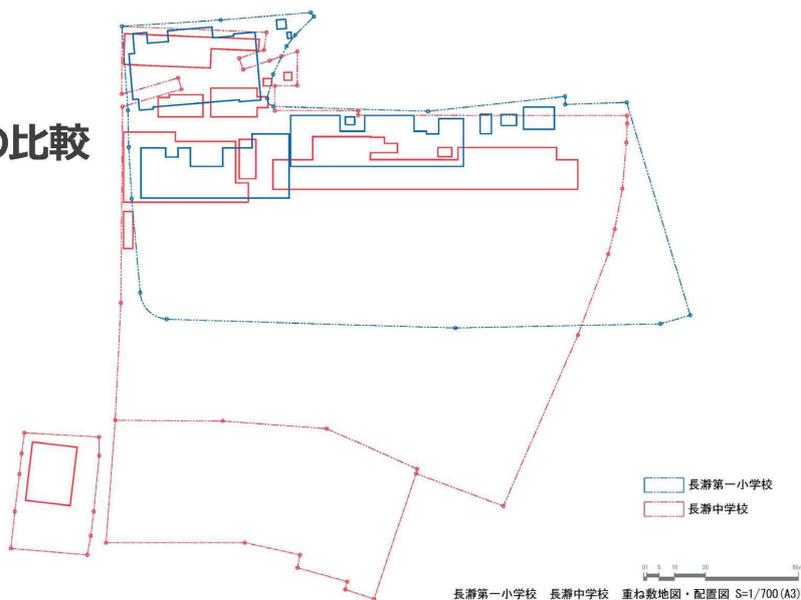
施設整備の理由

- 小学校より中学校の方が利便性が高い（立地条件）。
- 小学校より中学校の方が敷地が広い（敷地条件）。
- 校舎、体育館は、すでに建設から50年以上経過している。
- 費用をかけて改修しても30年後に建替えが必要となる。
- 児童生徒数が減少している。
- 各種補助制度が活用できる。

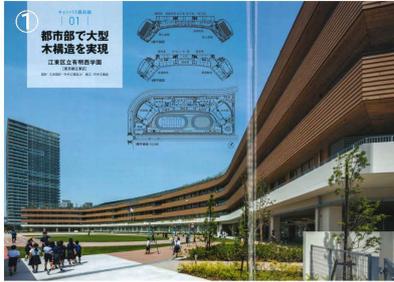
など



長瀬第一小学校と 長瀬中学校の敷地面積の比較



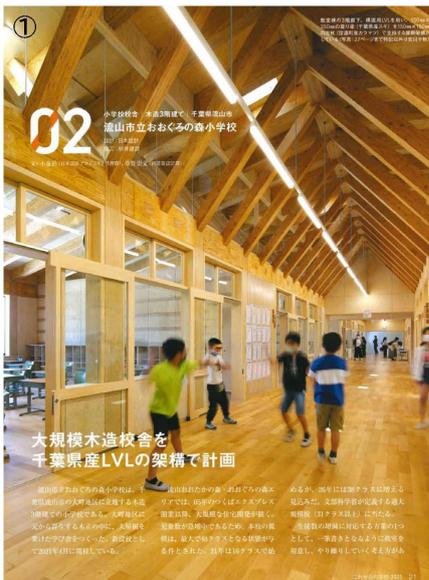
先進事例紹介①：東京都江東区 区立有明西学園



- ① 大規模木造校舎
- ② ビオトープのある屋上庭園
- ③ ことばの壁と吹き抜け空間
- ④ 図書館

出典：これからの学校2019/日経アーキテクチュア

先進事例紹介②：千葉県流山市 市立おおぐろの森小学校



- ① 県産材を使った大規模木造校舎
- ② 集熱屋根による換気システム
- ③ 体育館（木造+RC造）

出典：これからの学校2021/日経アーキテクチュア

先進事例紹介③：東京都調布市 私立ドルトン東京学園



- ① ラーニングコモンズ
- ② 畳の上がりラウンジ
- ③ 講堂・多目的ホール

出典：これからの学校2021/日経アーキテクチュア

先進事例紹介④：宮城県女川町 町立女川小・中学校



- ①② アトリウムと大階段
- ③ メディアセンター

出典：これからの学校2022/日経アーキテクチュア



4. 現任教職員の意見

4. Opinions of current faculty and staff

Trey
research

17

4. 現任教職員の意見 (1/3)

質問1：校舎や体育館等の施設状況について

■ 良いところ

- 教室は、適切な広さと数がある（中学校）。
- 各階に更衣室がある（中学校）。
- 校舎がコンパクトで使い勝手が良い（小学校）。
- 設備や備品が充実している（小学校）。

■ 気になるところ、悪いところ

- 校舎が古く、壁にき裂や穴、ドアの開閉不良などがある（中学校）。
- 水道水からサビ水がでる（中学校）。
- 技術棟トイレがボロボロで使えない（中学校）。
- 築年数以上に劣化を感じ、学習環境として課題がある（小学校）。
- 特別教室にエアコンが設置されていないので、夏場の授業が厳しい（小中学校共通意見）。
- 施錠できない教室があるなど、セキュリティー面が弱い（小中学校共通意見）。
- 体育館の床が滑りやすく、ジャンプすると床が揺れる（中学校）。
- 体育館の床から時々釘が出ていて危ない（中学校）。

Trey
research

18

4. 現任教職員の意見 (2/3)

質問2：小・中学校を集約する場合、どのような施設にしたら良いと思いますか？

- ・ 施設一体型の校舎。
- ・ 小中学校で校舎を分けられるとよい。
- ・ トイレの大きさや手洗い場の高さなど、現代の整備水準にあった設備にしてほしい。
- ・ 更衣室を整備してほしい。
- ・ 児童生徒や地域住民が活用できる交流スペースとして、広めの多目的室があるとよい。
- ・ 小学校の「スペシャルサポートルーム（課題をもった児童の居場所）」は継続して整備してほしい。
- ・ 特別教室は、児童と生徒で使う教室を分けて整備してほしい（音楽室、美術室、家庭科室、理科室）。
- ・ 特別教室にエアコンを整備してほしい。
- ・ 給食配膳用のエレベーターを設置してほしい。
- ・ 体育館を複数整備してほしい。
- ・ 体育館にエアコンを整備してほしい。
- ・ 広い校庭やサブグラウンドを整備してほしい。
- ・ 防災備蓄倉庫が必要。

4. 現任教職員の意見 (3/3)

質問3：これまで勤務してきた学校と比べて長瀬町の教育環境はどうですか？

■ 優れているところ

- ・ 自然が豊かで、人がやさしい。
- ・ 町全体で子どもを育てている実感がある。
- ・ 行政と連携体制が整っている。
- ・ 落ち着いた環境で授業が受けられる。
- ・ 学校行事が充実している。
- ・ 地域に密着した教育活動が行える。
- ・ ボランティア活動の機会が多くある。
- ・ 生徒の取り組む姿勢がよい。

■ 改善が必要なところ

- ・ 学校行事が多いので、選定が必要。
- ・ 施設・設備の修繕に時間がとられ、勤務時間に影響がでている。
- ・ 働き方改革に応じた労働環境への対応。



グループディスカッション

5. 学校施設

6. 学校施設の地域活用

7. 学校施設の配置検討

5~7. Group discussion



8. グループディスカッション発表

8. Group discussion presentation



9. 閉会

9. Closing

Trey
research

23



第2回 小中一貫教育検討に係るワークショップ

2st Workshop on Integrated Elementary and Junior High School Education

開催：令和6年12月5日（木）

Trey
research

1

本日のプログラム

- 1.開会
- 2.前回WSの振り返り
- 3.WS意見を踏まえた集約案の報告
- 4.設計に対する意見
- 5.設計に対する意見交換（グループディスカッション）
- 6.グループ発表
- 7.閉会



Trey
research

2



1. 開会

1. Opening of the meeting



2. 前回WSの振り返り

2. Review of the previous workshop

2. 各グループの意見

(1) 全体としての意見（抜粋）

グループ	主な意見
グループ 1	小学生と中学生の身長差配慮した施設 体育館は小学校と中学校を分けて整備する 1学年全体で集まれるスペースがない
グループ 2	校舎は木造とする 施設を複合化させる 校舎に中庭を設置し階段にて繋ぐ
グループ 3	小学生から見て中学生は怖いと感じる 欲張らずにコンパクトな施設とする 同一の建物にいるので小・中の壁を取り払いたい

2. 各グループの意見

(2) 教室・特別教室・体育館の意見（抜粋）

グループ	主な意見
グループ 1	児童生徒が一緒に使う図書館を整備する 音楽準備室は小中で楽器が異なるので広く 形や使用内容で変化できるつくりとする（地域開放）
グループ 2	教室の入口側の壁を無くし解放感のある空間 図書館は小・中共有とする 体育館は1階をバスケ他、2階を剣道・卓球
グループ 3	必要な部屋、不要な部屋を整理する 視聴覚室、コンピューター室は不要ではないか 特別教室は小・中で2室ずつは不要ではないか

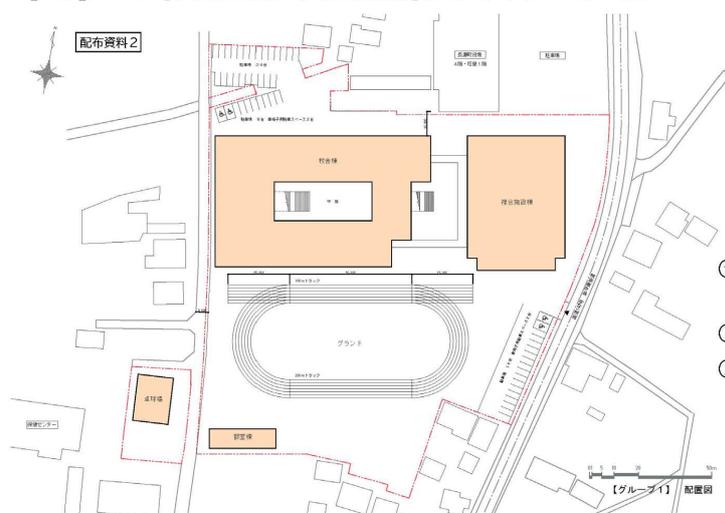
2. 各グループの意見

(3) 地域開放についての意見（抜粋）

グループ	主な意見
グループ1	地域図書館の設置
	ラウンジ・多目的ホールの設置
	集会場の設置
グループ2	子供から大人のスタディスペースの設置
	ラウンジを設置する
	コンピューター室をシアターにする
グループ3	図書館は一般開放しても校舎と分離しない
	体育館を2つ設置し小学校はホールとして活用
	体育館・音楽室・図書館は地域開放とする

2. 各グループの意見

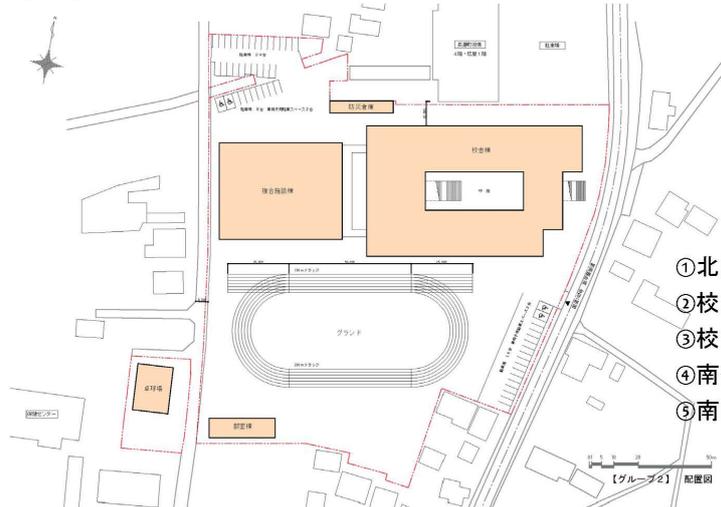
(4) 学校施設の配置案：グループ1



- ①北西に校舎、北東に体育館を設置し通路で繋げる（地上または2F渡り廊下）。
- ②体育館南に駐車場を設置。
- ③体育館、駐車場、校舎、グラウンドをセキュリティ上分離する。

2. 各グループの意見

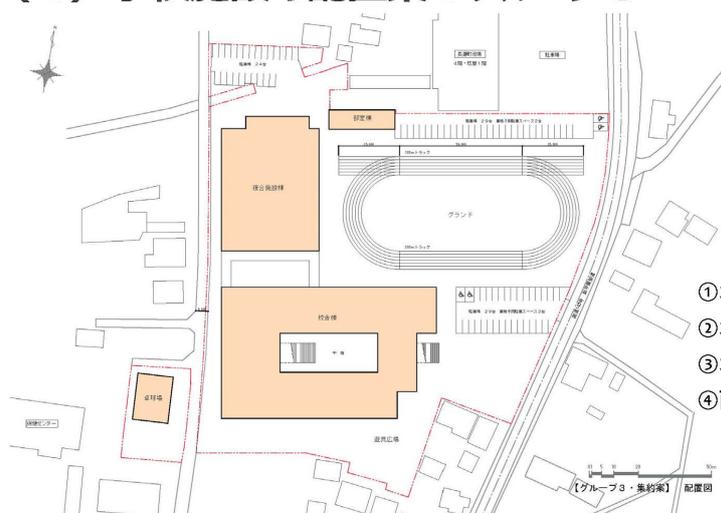
(4) 学校施設の配置案：グループ2



- ①北西に体育館、北東に駐車場、中央に校舎
- ②校舎東側に児童遊園を設置
- ③校舎が中庭を囲む
- ④南側にグラウンドを設置
- ⑤南西にある別敷地を駐車場とする

2. 各グループの意見

(4) 学校施設の配置案：グループ3



- ①北西角に体育館（水路上の設置は難しい）
- ②北側に校舎
- ③北東に駐車場
- ④南側にグラウンド



3. WSを踏まえた集約案の報告

3. Direction of Integrated Elementary and Junior High School Education

(1) 仮設校舎について

小学校を中学校の仮設校舎としない

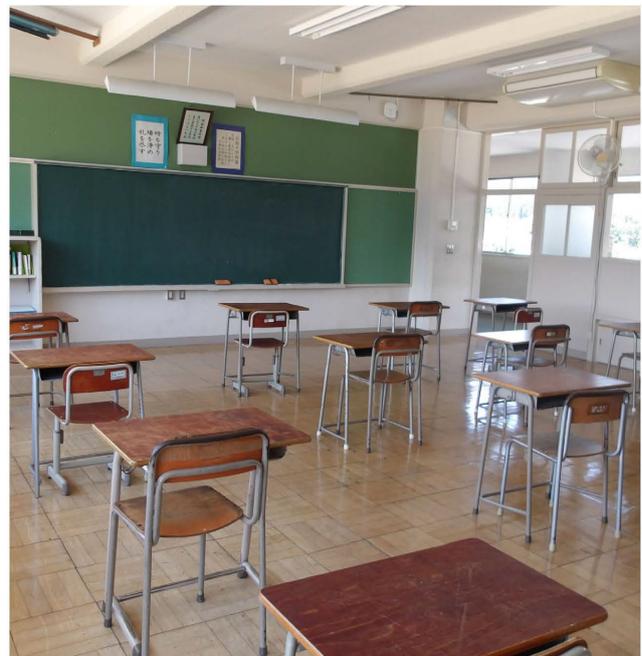
【理由】

成長して体が大きくなり、トイレや手洗い場などの改修工事が必要となるため

中学校のグラウンド側に新校舎を建てることで、仮設校舎は設けない

【理由】

グラウンド側に新校舎を建てることで仮設校舎を不要とし、引越しも一度で完了する
(経費削減につながるプラン)



(2) 新校舎の設計におけるコンセプト

【校舎棟】

- ・ひとつの校舎の中に、小学校と中学校は中庭を挟んで、北側と南側に分けられる
- ・小学生の昇降口は1階、中学生の昇降口は2階に分けて動線を交差させない
- ・廊下の両側に教室を配置する中廊下式とし、廊下が東西方向に長くならないようにする
- ・中廊下式とすることで、階ごとの面積は大きくなるが、3階建てに納めることができる
- ・給食室は校舎の1階に設け、西側の道路から搬入・搬出できるようにする

【複合施設棟】

- ・複合施設には地域開放できる施設を配置する
- ・地域開放用のエントランスは1階に設け、児童・生徒は2階の渡り廊下からアクセスする

【共通事項】

- ・バリアフリー化に伴い、車いす利用可能なエレベーターと多機能トイレを設置する

(3) 各グループの意見を反映した箇所

- ・校舎は一体にて設置する ⇒ **小学校と中学校が一体となった校舎を設ける**
- ・南側に向けた校舎とする ⇒ **既存校舎と同じように南側に向けた校舎とする**
- ・校舎に中庭を設置し階段で繋げる ⇒ **校舎棟の中央に中庭を設置し大階段を設ける**
- ・階段の有効活用を図る（座ったりできる） ⇒ **中庭の階段を座ったりできる階段とする**
- ・1学年全体で集まれるスペースがない ⇒ **2階と3階にコミュニティスペースを設ける**
- ・集会場の設置 ⇒ **集会場として利用できる多目的室を設ける**
- ・体育館を地域で利用できるようにする ⇒ **複合施設棟に地域開放の体育館を設ける**
- ・体育館はバスケットコート2面設置する ⇒ **2階の大体育館はバスケ2面の広さとする**
- ・長瀬町にはホールがない ⇒ **小体育館と剣道場をホールとしての利用ができる**
- ・体育館は小学校と中学校を分けて整備する ⇒ **1階小学校用、2階中学校用とする**
- ・1階に中庭に面した調理室を設置する ⇒ **1階中学校側は特別教室として地域に開放**

(4) 設計 (案) のポイント

- ・グループ3の意見では、体育館を北側に寄せ、校舎を下に配置する案でしたが、北側の水路上に建物の設置は難しいため、体育館と校舎を南側に寄せると、グラウンドに200mトラックが納まらなくなり、グラウンドを北側に移し体育館と校舎をL型配置とした集約案となった
- ・複合施設棟と校舎棟をL型配置とすることで、国道側からのアプローチ空間に余裕ができる
- ・校舎棟を南側に設けることで、既存校舎は校舎棟の工事が完了するまで利用し続けることが可能となり、校舎棟が完成すれば先行して新校舎の利用が可能となる
- ・校舎棟にはバルコニーを設けていない（バルコニーのメンテナンス等の手間を省くため）
- ・小体育館と剣道場は可動間仕切壁で区切ることができ、開放して一体として利用も可能
- ・中廊下式とすることで、廊下に面した教室の壁を開放しオープンな空間として利用も可能
- ・中庭を屋外ステージとして利用し、小中学校で行われる音楽発表の練習などを行い、児童生徒の表現力の育成の場として活用する

(5) 設計における課題

- ①学童保育所、テニスコート、野球場が整備できていない
- ②学校施設の建設中、グラウンドと体育館が使用できない
- ③西側の道路幅員が狭いので、道路拡幅が必要となる
- ④建替えの工事は、校舎棟工事、複合施設棟工事、解体工事、グラウンド整備工事などに分類されるため、工期短縮にとりくむ
- ⑤校舎棟工事を2年以内に完成させることで、3年目には新校舎を利用できるようにしたい



4. 設計に対する意見

4. Opinions on the design

Trey
research

17



5. 設計に対する意見交換 グループディスカッション

5. Group discussion

Trey
research

18



6. グループディスカッション発表

6. Group discussion presentation

Trey
research

19



7. 閉会

7. Closing

Trey
research

20